

人類学博物館紀要 第 39 号
(ISSN 0388-8711)

南山大学人類学博物館紀要

第 39 号

南山大学人類学博物館

2020

巻頭言

2020 年の 3 月以来、コロナ禍が留まるところを知らない。この巻頭言を書いている 11 月現在では、第 3 波が来ているとみられ、新規感染者数も激増している。そうした中で、博物館も苦境にあるといってよいであろう。特に、中小の公立博物館では、コロナ禍を機に閉館や人員・予算削減等がなされていると言われ、危機的な状況にあるようだ。

このコロナ禍で、博物館が本腰をいれ始めたのがオンラインの活用である。オンラインでの企画展示の公開や講演会の実施などが行われている。この方法では、確かに対面とは違って臨場感には欠けるが、それでも実際に足を運ばなくとも良いとなれば、地理的なことや心身上的の困難等で来館しにくい人たちにも利用可能になる。これは大きなメリットであろう。

本学の博物館学芸員養成課程の授業の中でも、学生にコロナ以降の博物館はどうなると思うかという課題を課したところ、かなりの割合で「デジタル化」「オンラインの活用」が述べられていた。デジタルコンテンツが普通の世代からみれば、これは自然な流れなのかもしれない。

だが、一方で、やはり博物館の魅力はホンモノの魅力とほぼ同義であるという確信は持ち続けている。コロナがやや下火になった状況で、再開した博物館も多い。そうした館では、来館者は減ってはいるものの、一定数の人が来るといえる。人間が生きるということには、文化が必要であることを痛感させられる。

だからこそ、われわれ博物館活動に従事する人間には、博物館と社会との関係を見つめ直し、博物館が社会に対して何をなすうるかを発信していくことが求められる。現在のコロナ禍とは、実は博物館が自己を見直す良い機会であると、前向きにとらえるべきことなのかもしれない。

2021 年 2 月
南山大学人類学博物館

目 次

巻頭言

2019 年度実施の人類学博物館に対する評価について

..... 黒澤 浩… 1

常見純一氏研究資料の受け入れと整理状況について

..... 井原瑠梨… 39

2019 年度実施の人類学博物館に対する評価について

黒澤 浩

1. はじめに——評価委員会の目的

南山大学人類学博物館は、2013 年 10 月にリニューアルし、2019 年で 6 年目を迎えた。リニューアルから 5 年の節目で、人類学博物館の活動を見直すことは以前より考えていたが、諸般の事情から 5 年目にはそれができず、結果として 5 年を過ぎたところでの博物館評価となった。目的は、過去 5 年の人類学博物館の活動・運営を総括・評価し、今後の活動の指針とすることであり、外部の識者によって構成される人類学博物館評価委員会（以下、評価委員会）を立ち上げての実施とした。

人類学博物館は、おそらく世界的にもあまり例を見ない「さわる展示」を実現した博物館である。それは、広瀬浩二郎氏（国立民族学博物館）の提唱する「ユニバーサル・ミュージアム」の考え方に共鳴してのことであったが、人類学博物館が「ユニバーサル・ミュージアム」を実現できているわけではない。また、ユニバーサル・ミュージアムを標榜する前提として、人類学博物館が大学博物館と言えるにふさわしい活動を行っているのか、という点についても改めて問い直す必要がある。

本稿はその評価に関する記録であり、またその評価を受けて博物館の活動方針を再検討した結果についての現時点での報告である。

2. 評価委員会の構成と実施

(1) 評価委員会の構成

評価委員会は 6 名の外部識者をもって構成した。委員の氏名及び所属を以下に記す。

井口智子（名古屋市美術館）

大野照文（三重県総合博物館館長）

可見光生（美濃加茂市民ミュージアム館長）

黒岩啓子（Innovation Learning 代表）

広瀬浩二郎（国立民族学博物館准教授）

矢島國雄（明治大学名誉教授）

当日は評価委員に加えて博物館側から黒澤、秦優莉香（人類学博物館）、中村奈々恵（人類学博物館）、大橋史貴（教育・研究支援事務室）が出席した。

(2) 実施

評価委員会は 2019 年 12 月 23 日（月）13 時 30 分から開催された。場所は人類学博物館実習室である。委員各位には、事前に評価委員会の主旨と目的を文書で伝え、また、黒澤が各委員に直接会って打ち合わせを兼ねた意見交換も行った。

開催前は、16 時 30 分の終了予定だったが、実際には、各委員からの厳しい指摘が相次ぎ、予定時間を超えて 18 時 20 分の終了となった。

なお、当日の議事進行は、議事録を掲載したので、参照していただきたい。

(3) 評価内容と方法

博物館評価については、佐々木秀彦氏によって、(1) 一定基準による審査、(2) 設置者による点検、(3) 博物館自身による点検、(4) 改善・開発を前提にした検証、(5) 専門家による質の批評、(6) 利用者によるチェックの観点が提案されている（佐々木 2002）。

今回の評価については、基本的にそれに従いながら、いくつかの点で人類学博物館に適合的に変形しながら用いることとした。

①一定基準による審査

博物館の登録・認定にかかわるものである。人類学博物館は博物館相当施設として登録されているので、その内容の確認にとどめた。

②設置者による点検

大学では毎年、自己点検自己評価が行われる。さらにそれに対して内部質保証推進委員会による検証が行われているので、その確認を行った。

③博物館自身による点検

博物館の構成員による自己点検・自己評価の作業である。今回は学芸員・事務担当それぞれの業務について、その課題と今後の展望について検討した。特に学芸員については、博物館の基本機能である調査研究・収集保存・教育普及・展示を検討項目とした。

これを実行するために、学芸員は、業務に関する課題と展望についてのレポートを作成した。そのレポートに基づいて、ディスカッションの機会を設け、それを評価報告としてまとめたが、これは非公開とした。

④改善・開発を前提とした検証

これは展示その他の博物館事業について来館者・利用者の反応によって検証されるものとしているが、人類学博物館ではこれまでそのような形での来館者調査を実施したことがないので（後述）、これについては、学生（博物館実習受講生・学生アルバイト等）・ボランティアによる検証とした。具体的には（3）に準ずる。

これを実行するために、学生（博物館実習受講生）に博物館活動の現状について、主に教育普及事業と展示の面でレポートを作成してもらい、ディスカッションの機会を設けた。またボランティアについてはディスカッションの場を設け、意見を聴取した。これらも評価報告としてまとめられた。

⑤利用者によるチェック

これはすでに実施しているアンケート結果および、来館者の行動調査データに基づくものである。

アンケートおよび来館者行動調査データを集計し、若干の分析をおこなって評価委員会に提供した。

⑥専門家による質の批評

博物館評価委員会による検証・批評である。この観点①～⑤の全てに優先され、③～⑤のデータ全てを委員に提供した。

当初の予定では、今年度中に2回の委員会を、それぞれ12月23日と2月下旬に行うつもりであったが、2回目については新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、中止した。

3. 人類学博物館の問題点

前述したように、当日、各委員からは人類学博物館の活動に対する厳しい意見が出された。今、それを大きく3つに分けると、

1) 博物館運営の理念がなく、それに基づく中・長期計画もない状況では評価しようがない。博物館が組織

としての体をなしていない

2) 資料収集方針が策定されていない

3) 人類学博物館の活動の成果を定量的に示すデータとエビデンス（証拠）が必要
ということになる。

いずれも正鵠を射た意見ではあるが、若干補足説明をしておきたい。

まず、1) の理念や中・長期計画がないことについてであるが、実は人類学博物館の活動方針とその目的については、入口のパネルに記してあるので、必ずしもないわけではない（写真1、資料1）。しかし、それはリニューアル・オープン時に「博物館紹介」として作成したものであって、博物館の活動方針について詳細な検討をした結果ではない。また、パネルの位置が入口に展示してある家形石棺の対面にある関係で、来館者の視線がそちらに向くことがなく、委員各位も見落してしまうような状況でもあった。

評価委員会での指摘を受けて、文章を改めて見直したが、現時点で改訂すべき点が多くみられることもまた確かであった。

中・長期計画については、これまで策定したことはない。

2) についても、指摘通りで、人類学博物館には資料収集方針がない。だが、これは当日も若干議論をしたことだが、人類学博物館のコレクションには、黒澤の前任者である重松和男氏が収集を始めた昭和時代の資料がかなりの割合を占めており、そうしたものを今後収集していくときに問題が生じる可能性が生じるのではないか、ということがある。具体的にどうということかという、昭和時代の日用品や家電製品（人類学博物館では「現代生活史資料」としてカテゴライズしている）の収集が始まったのはそれほど昔のことではなく、この分野に関する学術的な研究は、管見の限りではまだ見ない。つまり、その資料にどのような価値があるのかという根本的な点について、現時点ではまだ基準が確立されていないのである。言い換えれば、今のわれわれの価値判断では収集から漏れてしまうもののおそらくは出るであろうし、物質文化は一度失われれば二度と元にはもどらない。その点を考慮して、ある意味で意識的に方針の明確化は避けてきたところがあった。

だが、評価委員会では、逆に資料受け入れの判断基準がないことが収集に支障を来すことに対する懸念が示された。確かに、資料収集方針は博物館の運営方針でもあるから、その意味でも方針の策定を行うことは



写真 1 博物館入口のパネル

南山大学人類学博物館

全ての人の好奇心のために

南山大学人類学博物館は、1949年に人類学民族学研究所附属陳列室として設置されて以来、大学における人類学・考古学研究成果を蓄積し、公開する場としての役割を果たして来ました。そういう意味では、人類学博物館の今日に至る歩みは、調査研究と資料蒐集の歴史であったと言えます。そして、そのように蓄積された資料に基づいて、学生に対する専門教育や博物館学芸員になるための教育（博物館学芸員養成課程）を担って来ました。

今日、大学博物館の役割は、それらにとどまらず、非常に多岐に亘るものが求められています。例えば、これまでの大学博物館は、どちらかという研究に重点をおいた活動が中心だったかと思いますが、それに加えて一般に開かれた、生涯学習機関としての機能も、もはや当然備えられるべきものと言えるでしょう。教育と研究。その二面性が大学博物館の特色であり、大きな魅力となるのです。

さらに、人類学博物館はもう一つの道も選択しました。それはユニバーサル・ミュージアムへの道です。この考え方は、これまで博物館を利用しにくかった人たち、特に視覚に障害のある人たち等にも博物館を利用してもらえることをコンセプトとして構想されたものです。人類学博物館では、この主旨に全面的に賛同すると同時に、その実現に向けて様々な工夫を凝らしてみました。しかし、これは人類学博物館が視覚障害者の方のための博物館であるということではありません。そうした人たちも含めて、すべての人が楽しめて、知的関心を高めていけるような空間でありたいと願っているからです。

人類学博物館は“全ての人の好奇心のための博物館—Universal Museum for Curiosities”であり続けたいと考えています。

2013年10月
南山大学人類学博物館

資料 1 人類学博物館の「理念」？

必要である。この意見を踏まえて、資料評価委員会と収集方針について検討をし、まとめることができた。現在、公開に向けての作業を行っており、それが済み次第、人類学博物館のwebサイトにアップしたい。

3) については、従来、来館者の行動調査、来館者アンケートなどは実施していたが、いずれも定性的な

分析であった。ただ、博物館評価の指標の一つとなる来館者の満足度を定量化する手法はまだ確立されているとは言えず、現在も暗中模索の中にある。評価委員会当日には可児委員より美濃加茂市民ミュージアムでの満足度調査の方法を紹介してもらい、また、後日のことではあるが、九州産業大学の緒方泉教授からイギ

リスでの満足度調査の手法であるロンドン大学博物館が開発したアンブレラシートについて紹介していただいた（この方法は九産大美術館でも実施されている）。そうした先例にならい、方法を考えていきたい。

だが、まずわれわれがやるべきことは人類学博物館の理念、使命と役割、アクションプラン、中・長期計画を策定し、博物館としての形を確立することである。評価委員会では、博物館で現在行っている様々な活動と人員体制のアンバランスも指摘された。こうした組織上の整備や活動方針を見極めていくためにも、理念に基づいた活動計画とそれに基づいた評価（来館者満足度調査、外部評価等）をエビデンスとし、博物館としての人類学博物館の質向上を図らなければならない。

評価委員各位からは厳しい評価をいただいたが、人類学博物館をより機能させていくためには、大きな成果であったと言える。

まとめ——人類学博物館を立て直すために

人類学博物館評価委員会の厳しい評価を受け、現在、理念の見直し、使命と役割の策定といった作業を行っている。この作業には、本学の4名の教員でワーキンググループを構成してもらい、意見交換をしながら進めている。今年度中には策定することになるが、

その後にももちろん作業は続く。

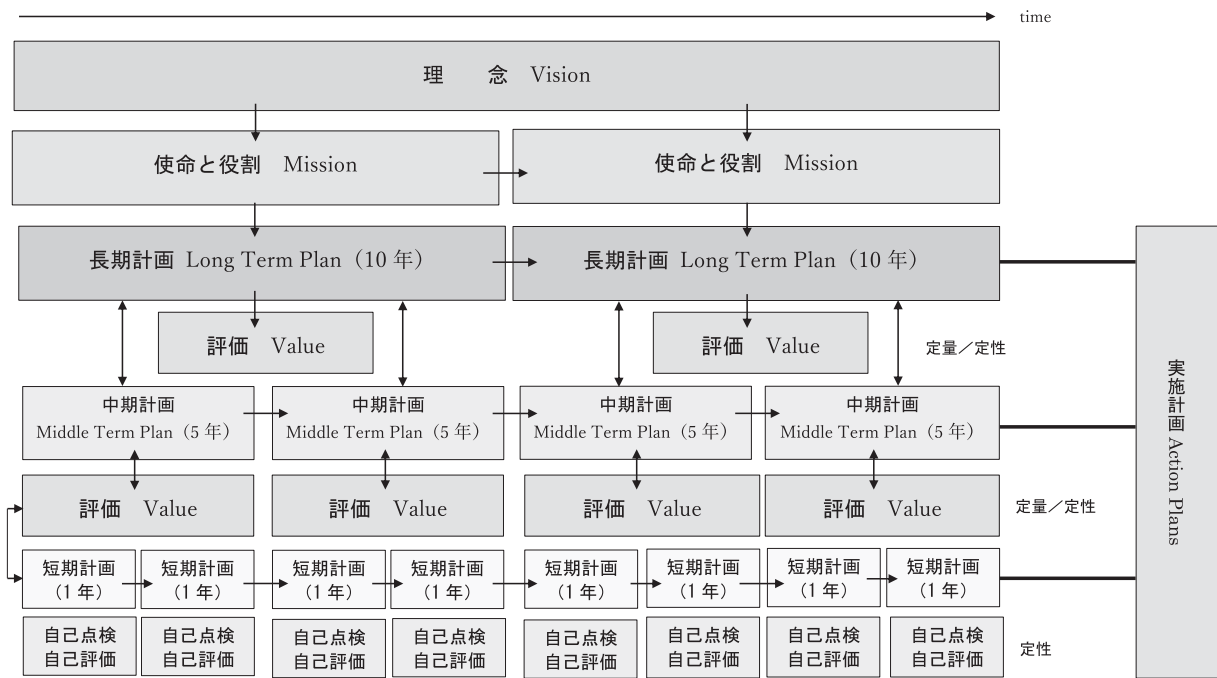
まず、理念および使命と役割に基づいて実施計画を立てる必要がある。評価委員会でも指摘されたことだが、これまではややもすれば場当たりの対応になってしまっているわけではなかった。理念・使命と役割に基づく実施計画の策定によって、従来の事業を見直し、シンプルで人類学博物館の特色が見える事業展開を図りたい。

しかし、人員に限りのある現状では、博物館として必要なすべての活動を実施することは困難である。そこで、事業内容について、短期（1年）、中期（5年程度）、長期（10年を目途）に振り分けて、計画的に実践していくことを考えなければならない。さらに、そうした活動を第三者的に評価してもらう方法を確立することも必要である（資料2）。

人類学博物館のあるべき姿の模索は、当面続くことになる。

参考文献

佐々木秀彦 2002「博物館評価をめぐる状況」『入門ミュージアムの評価と改善—行政評価や来館者調査を戦略的に活かす』ミュゼ



資料2 南山大学人類学博物館の理念・使命と役割・計画・評価の概念図

博物館評価委員会議事録

開催日：2019年12月23日（月）

開催時間：13：30～18：20

開催場所：南山大学人類学博物館実習室

出席者：井口智子（名古屋市美術館学芸課長）

大野照文（三重県総合博物館館長）

可児光生（美濃加茂市民ミュージアム館長）

黒岩啓子（Learning Innovation Network 代表）

広瀬浩二郎（国立民族学博物館准教授）

矢島國雄（明治大学名誉教授）

黒澤浩（人類学博物館運営委員会委員長）

大橋史貴（教育・研究支援事務室）

秦優莉香（事務局・人類学博物館特別嘱託）

中村奈々恵（事務局・人類学博物館専任嘱託）

目次

1. 挨拶……5
2. 趣旨説明……5
3. 大学博物館の役割 / ユニバーサル・ミュージアムについて……6
4. 活動報告……6
5. 自己点検・自己評価……7
6. 「さわる展示」……9
7. 学校との連携……11
8. 博物館スタッフによる自己点検……14
9. 組織と運営の問題点……16
10. 学生たちによる評価……20

1. 挨拶

【黒澤】では、始めさせていただきます。最初に私の方でこの評価委員会の趣旨説明をさせていただきます。その後、展示はすでにご覧になっているかと思いますが、バックヤードの方をご案内いたします。それから後休憩をはさみまして、本題に入ります。人類学博物館の活動説明、それから自己評価報告という形で進めさせていただきたいと思います。つまり今日は人類学博物館の現状とスタッフが抱えている問題をこの場でご報告させていただくということで進めてまいります。最後に今日の活動説明あるいは自己点検、自己評価の報告を踏まえて若干のご議論をいただければと思っております。16時半を目処に終了したいと思いますので、長丁場ですけれどもよろしくお付

き合ってください。

2. 趣旨説明

【黒澤】それでは最初に私の方から本日の開催趣旨の説明をさせていただきます。

この人類学博物館ができたのは1949年ですので今年で70周年ということになります。ただリニューアルしたのが2013年ですから、5年が過ぎて今6年目に入っているということになります。この機会に、今我々がいる位置がどこにあるのかということを第三者的な目で、客観的に評価していただきたいというのがこの評価委員会の趣旨ということです。

今回の評価委員会では、二つの観点からご議論をお願いしたいと考えています。ひとつは大学博物館としての人類学博物館の位置付け・評価です。もう一つはユニバーサル・ミュージアムを目指す博物館としての評価です。この2点について、特に重点的にかつ忌憚のないご意見をいただければと思います。

まず、私の方で考えている大学博物館とユニバーサル・ミュージアムの要点を上げさせていただきます。大学博物館としては次の二点を挙げたいと思います。一つは研究に重点を置いた博物館ということです。調査研究は博物館の基本的な機能であるので、それをしない博物館というのは建前上ないはずですが、大学博物館ではより研究というところに軸足を置くべきではないのかと考えています。そしてその研究成果をいち早く展示をはじめとした様々な活動に反映させていく、これがあるべき姿だと考えます。大野先生が前にもおっしゃっていらっしゃいましたが、京大の博物館はできてから20年経つけど展示が全く古くならない、と。これはまさに京大の調査研究というのがベースとしてできている博物館であるということの証明ではないかと思っています。

次にユニバーサル・ミュージアムの要点です。このリニューアルにあたりましては広瀬さんが主張されるユニバーサル・ミュージアムという考え方に共鳴をして、視覚に障がいのある方達が利用可能なように全面的にさわる展示を採用したことがまず一つの大きな特色であると思います。ただ、我々が目指しているのは視覚障がい者のための博物館ではありません。そうした身体的な障がいの有無、あるいは年齢ですとか性別、そして文化的背景等々、現実には世の中にある様々

な差異や障壁、そういうものに関係なく利用できる博物館という大きな目標を当初から掲げていました。しかし、この博物館はまだまだその目標には到達していないということは明らかです。

以上で趣旨説明とさせていただきます。

3. 大学博物館の役割／ユニバーサル・ミュージアムについて

【黒澤】今日は公立館にお勤めの可児さん、井口さんもいらっしゃいますけれども、実は以前、名古屋市博物館と共同展示をした時のことなのですが、公立博物館というのは、なんというか非常に制約が多いと強く感じました。それに対して大学博物館ではそういう制約が公立館に比べると比較的ゆるいのだろうと思っています。そういう意味では、それを一つの特質と考えて、大学博物館というのはいろんな意味で実験の場として機能しているのではないかと考えています。例えばこの「さわる展示」も公立館でやってくださいと言ったら多分無理だと思います。ただここでの経験というのが多くの館で共有されれば、もしかしたらそれをもとに多くの博物館が「さわる展示」を実現する可能性が出てくるかもしれない。そういう意味での実験の場であると考えているわけです。

次に、ユニバーサル・ミュージアムについてですが、今のところは視覚障がいの方、それから車椅子利用者、そして日本語を解さない外国の方たち、こういう人たちにはある程度対応できたとは思いますが、今のところ聴覚障がいの方、それから障がい重複している方には全く対応は出来ていません。また、多言語表記として解説に使ってる言語ですが、英語、中国語、フランス語、アラビア語、スペイン語、ポルトガル語です。人類学の博物館としてはもっと少数言語を取り上げるべきとは思っているのですが、それには今のところ全く対応できていません。先ほどもさわれましたけれども、我々の考えているユニバーサル・ミュージアムというのは、社会に存在する差異や障がい、障壁に関わりなく利用できる博物館であり、そのことが広瀬さんの主張される視覚偏重の近代に対する異議申し立てと表裏をなす関係なのだろうと思っています。そういう意味ではまだまだ道半ば、発展途上にある博物館であります。けれどもそれを目指して、様々な活動をしていると意味づけています。

この場では、我々が目標とするものに対して今やっている活動が果たして適正なのか、あるいはさらに言

うならばその道筋自体が間違っていないかということ、この機会に是非厳正にチェックしていただけないかということでお願いした次第です。

4. 活動報告

(1) 企画展の説明（省略）

(2) 博物館講座、フィールドワーク、明治大学博物館との連携事業、名古屋大学博物館との連携講座、名城高校との連携授業について（説明省略）

《質疑》

【大野】2019年になって講座の参加者が多くなっていますが、やっぱり徐々に需要が高まっていったという風に見たらいいのでしょうか。

【黒澤】考古学のテーマだと人が増えるということですね。

【大野】ああ、そうですか。テーマによってということですね。

【可児】博物館講座で、大人と学生で料金が違うって話だったんですけど、学生は比率的にはどうですか。当然少ないですか。

【中村】少ないですね。40人中多い時でも3名、4名ぐらいです。

【可児】一割くらいかな。

【黒澤】一割いないですね。1人、2人っていうくらいですね。

【可児】改めては来ないということですね。改めて、いつも来ている人とか。

【黒澤】来ないですね。授業以外は勉強しない。

【可児】受講料4000円の収益は大学の方に雑収入として入るのですね。

(3) フィールドワーク（省略）

(4) アンケートについて

【黒岩】講座とかいろいろ活動されていますけど、参加した方へのアンケート調査とかは自分のところでやられていますか。

【秦】はい。

【黒澤】今回は資料として用意できていないので、名大との講座と、それからうちの講座、フィールドワークのアンケートをデータとしてご提供しますので、事務局の方で準備してください。

5. 自己点検・自己評価（註1）

【黒澤】 それでは先に進めさせていただきます。3番目は組織と人員ということで自己点検自己評価の内容とほぼ被ってきますので、それに沿ってご紹介させていただきます。2017年度の自己点検と2018年度の自己点検です。17年の方から簡単にかいつまんでご説明いたします。

まず研究組織として、「A 理念目的は適切に設定されているか」ということですが、その点に関しては、博物館規程に従っての活動であるということ、ユニバーサル・ミュージアムを目指していることを説明しております。

次の2の「効果が上がっている事項」についていうと、この年は来年のオリパラを目指していろいろな博物館が今取り組みを始めていますけれども、それに向けての視察が結構ありました。そういう意味で、ユニバーサル・ミュージアムを目指す博物館としての効果は上がっていると思います。また、これからどういう展開をしていくかという方策ですが、一つにはよりバリアフリーな対応を目指していきたいと考えています。さらに、多くの人がこの展示室を楽しんでもらえるようなというプログラム、アクティビティの開発をしていきたいことを書いています。そしてもう一つ、今日この場でお集まりいただいたような博物館評価の場を作るということもここで挙げております。

続きまして研究組織のB「研究所研究センター等の組織は理念目的に照らして適切なものであるか」ということです。組織がその理念目的を遂行する上で適切かというそういう問いに対する自己点検ですけども、人類学博物館は副学長が館長を兼務していますが、実際の運営は博物館運営委員会によって行われています。私の立場は博物館担当教員であり運営委員長ということで、このことは規程に盛り込まれております。博物館には学芸員2名、それから事務担当1名がおりますけれども、いずれも正職員ではなくて学芸員は特別嘱託、そして事務担当は専任嘱託という位置づけになります。この区分について、中村の方から説明いたします。

【中村】 私の専任嘱託という立場は、年間の勤務日数等は特別嘱託と同じで大体1300時間ということで決まっております。また特別嘱託につきましては週6日で1日6時間が越えられないことになっております。その勤務につきまして大きく違うところは、私は教育・研究支援事務室の専任嘱託として、係長と室長に

指示をいただくという形での仕事になっております。特別嘱託に関しましては、博物館担当教員の指示のもとに仕事をするということになっております。

【黒澤】 学芸員としての業務にかかわるのは、勤務時間の制約があるということと、それから在職期間が5年を越えられないということですね。そして5年過ぎた場合には再雇用がないという条件になっていますか。専任もないですか。

【大橋】 半年間あれば再度、再任することはできます。

【黒澤】 この年の自己点検自己評価では「改善すべき事項」として、現在の体制には2つの問題があるとしています。一つは特別嘱託・専任嘱託の給与面での待遇の問題になります。現状ではなかなかやる気がある有能な人が人類学博物館での仕事に魅力を感じにくいと思います。もう一つは5年という任期です。学芸員の仕事としては短いですね。これは人事の問題なので、今も副学長と継続して話し合いを進めているという状況です。これも来年には劇的に変わりますと言うことではありませんけれども、少しずつ進めていかなければいけないというのが現状です。

次に、「研究組織の、組織の適切性についての定期的な検証」というのがありますが、年に2回の人類学博物館運営委員会の場において検証をしています。それから組織とはちょっと違うかもしれませんが、今博物館にボランティアの人が15名おり、その方たちに対して月一回のペースで研修を行っています。展示解説のスキルアップと視覚障がいの方に対する接し方の研修をしています。後者は名古屋ライトハウスの方に講師をお願いしています。

次の「研究内容、方法、成果」のAで、「研究目標が適切に設定されているか」ということですが、研究内容とか目標とはちょっと違いますけれども、広報力の弱さというのが課題になっています。ただそういう広報力、発信力もさることながら、やっぱり博物館としての魅力を高めていくことも必要だと考えています。

この研究目標については、成果が上がっていることとして、名古屋大学博物館や明治大学博物館との連携の中で研究や普及活動の展開があります。それから人類学博物館は現在、ICOM（International Council Of Museums：国際博物館会議）の下にあるUMAC（University Museums And Collections）というメーリングリストに加えてもらっていて、時々にはかできないのですが、情報発信をしてはいます。今年のICOM京都大会の時にはUMACのオフサイトミーティング

で人類学博物館の紹介をしてまいりました。

「改善すべき事項」としては、今の「さわる展示」に関して、資料劣化や盗難に対する対応策が常に課題となっています。

続きましてBの「研究目標に沿った成果が上がっているか」ということで、一つはデータベースのことをあげています。データベースのもとになる資料は作ってありますが、サーバー上で運営運用できる体制にはなっていないということです。最後に人類学博物館の収蔵資料には未発表未報告のものが大量にあります。それらを整理して報告書にしていくというのはもう永遠の課題になります。

続きまして2018年度の自己点検評価報告書をご覧ください。教育研究組織に関する現状の説明としましては、運営委員会を中心に運営をしていること、資料の受け入れについては資料評価委員会に諮問すること、そしてボランティアの人たちに様々なサポートをお願いしているということが書いてあります。それからその(2)には外部評価委員会のことを書いています。

また、この博物館で目指している「誰もが楽しめる博物館(＝ユニバーサル・ミュージアム)」を目指すということが次第に認知されてきたことが実感としてあるかと思います。ただ、その一方で、視覚以外の様々な障がいのある方に対しては必ずしも万全の対応ができていないわけではありません。

次は組織体制の問題で、これは先ほどご説明したものとほぼ同じです。一応学芸部門と事務部門とに分けられていますので、多くの博物館と同じ組織体制になってはいます。それから私が担当教員として運営の責任者ということになります。私自身のことで言えば、学芸員養成課程と博物館の担当教員という位置づけを改めて確認しました。なぜかと言えば次の(2)に書きましたが、将来この博物館を継続的に運営していくためには担当教員をどのように継承していくかが非常に大きな課題になってきます。一つには人類学博物館の資料が非常に雑多であるということです。自分の専門性にこだわってはいは博物館全体が見渡せないということになります。それからもう一つは、ユニバーサル・ミュージアムを目指すという目標を掲げたために、その意義を十分に理解した人材であるということも条件になります。

戻りまして(1)では学芸員の雇用条件に関する要望ということで、それは前年度と同じになります。学芸員を特別嘱託としている限りでは、おそらく現状の

課題は続くものと思っています。全体として組織、人員構成という点では、大幅に見直しをしていかなければいけないということは常々訴えてはいます。

それから最後の「社会連携」ということですが、名古屋ライトハウスあるいは名古屋盲学校との連携及び協力は図っています。大学博物館連携としては明治大学と名古屋大学、そして高校の授業としては名城大学附属高等学校と南山男子部との授業協力があります。

こうした自己点検自己評価に対しまして、効果が上がっている事項を進展させていく方策、改善が必要な事項に対する改善方策について質問が来ます。それに対して、博物館として期待される方向性としては専任学芸員を採用すること、それが難しいのであれば当面の措置として現在の博物館担当教員を副館長もしくは主任学芸員に名称変更をし、学芸員養成課程担当であることと合わせて博物館組織の中に明確に位置づけていくことが望ましいと回答しています。

以上です。この自己点検自己評価に対して何かご意見、事実確認等ございましたらよろしくお願ひします。

【井口】 ボランティアについて、博物館ボランティアは一般から公募なのですか？ 学生さんのボランティアですか？

【黒澤】 いえ、一般の方です。公募というか、フィールドワーク等に参加した人が来てくれています。

【秦】 そうですね、興味がある方。

【黒澤】 自分で自発的にやりたいと。これは特に募集かけたことってありますか？

【秦】 最初は募集をかけています。

【井口】 最初はフィールドワークとかの時に、告知したということですか？ 広くというよりはそういうご興味のある方とか、場合によってはちょっと掲示しておいてそれを見た人とかが来てくれているということですね。

【黒澤】 そういう形です。

【黒岩】 一般の方っていうのは、学生じゃなくて、本当に一般の方ですか。

【黒澤】 そうですね。学生は一人もいないですね。だいたい年配の方が多いです。

【可児】 運営委員会の話が出ましたが、運営委員会の構成について簡単に教えて下さい。

【黒澤】 運営委員会につきましては運営委員会規程に基づいています。その第2条が委員会の構成でして、担当教員とそれから学芸員養成課程委員会委員長、それから学長推薦の者若干ということで、現在は5名の

方に入ってもらっています。

【可児】館長との関係性どうなりますか？例えば館長の諮問機関のような形でこの運営委員会があるのか、それとも実際の運営を行う機関としてあるのか。

【黒澤】諮問機関ではなくて、運営機関です。運営委員会は春と秋に開催し、もっぱら予算と活動計画について審議をさせていただいています。

【大野】ちょっと博物館とは直接関係ないかもしれないんですけど、南山大学は学部はどういうのがあるんですか。学部というか、分野は。

【黒澤】学部は人文学部、外国語学部、法学部、経済学部、経営学部、総合政策学部、国際教養学部、そして理工学部の8学部です。

【大野】総合大学ですね。やや文系に寄った総合大学。

【黒澤】そうですね。運営委員会委員をお願いしている先生は、経済史、考古学、それからデザインとか美術史（註1）を専門にされている方たちです。あとは人類文化学科長と博物館を所管する事務方ということになります。

6. 「さわる展示」

【広瀬】質問を二つと意見を一つ。まず先ほどの話の中にもありましたが、露出展示にされたことで実際破損や盗難はこれまでにあったのか、もし差支えがなければ教えていただきたいのが一つ。それからユニバーサルということで、視覚障がいを中心に盲学校やライトハウスとの連携を大事にされているのがすごくありがたいことですけど、その一方でユニバーサルって言った時に健常者と言われていた人たちがこの「さわる展示」に対してどういう反応をしているのかとか、見るだけじゃなくてさわることを、普段視覚に頼っている人たちにどのように伝える努力をしているのかということが二つめの質問です。

最後は意見ですけど、なかなか視覚障がい者の利用が増えないというのはいろいろな所で聞くことですし、今、視覚障がいは絶滅危惧種で数も減っています。率直に言ってやっぱり名古屋ライトハウス、名古屋盲学校の存在は大きいんですけど、やっぱり東海地区といいますか愛知県に限られると思います。例えば、民博とかの場合ですと、毎年1月ぐらいに次年度の学校授業が組まれるあたりにMMP（みんぱくミュージアムパートナーズ）というボランティアの組織が、こういうプログラムがありますという案内状を全国に

66 くらいある盲学校に出しています。案内状を出すのもお金はかからないし、毎年ほぼ同じ文章で出していますが、そういうのを毎年やることによって随分修学旅行とか増えてきています。やっぱり、この博物館ではこれだけ資料がさわれるし、これだけいろいろなものがあって、何で視覚障がいの人がもっと来ないかなって思います。やっぱりそれは、残念ながら先ほど言われていたように広報が弱いために知られてないということがあるので、やっぱりもう少し、名古屋をもちろん基盤にしつつも全国に情報発信していくことが必要なのではないでしょうか。もちろんホームページもありますけど、そういう案内状を出す等の方法を考えられたらどうかな、というのが意見です。

【黒澤】ありがとうございます。最初の破損、盗難についてですけども、盗難は今のところありません。入館者が日頃押し寄せてくるという状況にはないので、それが幸いしているのかもしれない。ただ破損については、これまでに土器の接合が外れたというケースは何回かありました。それは接着剤の劣化とかだったので良かったんですが、実は先だってですね、本格的な破損が起きました。

学生が集団で見学に来たのですが、集団になるとテンションが上がってしまって、上の方の物を取ろうとして落としたらしいですね。それはもう完全に破損しました。そういうことが頻発すると、本当に「さわる展示」自体が続けられなくなるということになってしまいます。対応策としては、さわらないようにしてくださいというのではなくて、テンションが上がっているような子達に対しては少しクールダウンするように最初に一言言っておくとか、あと引率の先生にその辺もよく注意してくださいという対応を取るしか今のところないかなと思っています。

健常者の反応については、これはあくまで私の印象なのですが、あまりさわりたいがらないように思います。展示には「Please touch!」とついていますが、以前、黒岩さんにあれがないとさわれないと指摘されたことがあります。

【黒岩】前過ぎて覚えていませんが、本当にさわれるのかどうかって疑問を持ったことはちょっと覚えてます。

【黒澤】来館者調査の中でも「Please touch!」が付いているものだけさわることができると思ってしまう人がいるという問題はあります。ただ逆にこれがあるとさわれないっていう意見の人もいます。全体としてはさわるにしても本当に指先でちょっとさわぐらいで終

わるケースが圧倒的に多いと思います。広瀬さんのようにさわる人は少ないです。

【大野】そのへんはやっぱり、広瀬さんのさわるリテラシーみたいなものをもう少し広げていく必要があるのではないのでしょうか。例えば見るにしても、観察しなさいって言ったとき、人によって見えているものが全然違います。やっぱりさわり方のコツっていうとおかしいですけど、両手を使ってとか、いろんなことがあると思うのですが、盲学校でも意外と広がってないですね。筑波大学付属の盲学校に行くと、子供たちは本当に好きでさわっていますね。だから、やっぱりさわるといことについて積極的に言ってあげないとさわらない。さわるリテラシーみたいなものが大事なのかなと思います。

【黒岩】そのリテラシーというか、どういうふうに展示物をさわるかというのを伝える必要があると思います。さわっていいよって言われてもどうさわっていいかっていうのは分かりませんし。一般の方に、たださわってくださいっていう表示がある、さわっていいよっていう言葉で言うだけではやっぱり伝わらないと思いますね。

【黒澤】そうですね。ただ、10人程度の団体に全体を説明した後でいろいろゲームとかをやってもらって段々さわることに慣れてきます。だからどういう風に水を向けていくかっていうのがあるかと思います。

【黒岩】ボランティアさんは、例えば展示のアシストするような活動というのはされているんですか。

【黒澤】はい、されています。ただボランティアの人も最初のうちは説明することに一所懸命になってしまって、触察を促す方向にはなかなかいいっていませんでした。その点を、学芸員を通じて、もっとさわることの面白さを伝えるようにと言っています。

【黒岩】15名っていう体制だとやっぱり常時入るという体制を取るの難しいですか。

【黒澤】難しいですね。

【秦】補足というか傾向ですけど、やっぱり年配の方にさわってくださいと言っても、「いいです、見ていただけなので」という方は結構多いですね。学生だと、さわってもいいんだって言ってさわってくれる傾向があると思います。あとやっぱりだんだん慣れてきて、昭和の辺りになってくると考古資料とかに比べるとさわり方が雑になる傾向が見られるように思います。

【井口】ちょっと変な言い方かもしれないんですけど、さわって何があるのかっていうこと自体が見るこ

とに慣れている人にとってはわかりにくいのではないのでしょうか。例えば、金属片と木片とをさわってみてください、冷たいですね、触感が金属はちょっと冷たい、木はどうですか、確かに違いますね、という具合に違いが分かったりすると、あっ、違うんだなっていうことはわかります。ここに来て、どれでもいいですからさわってくださいって言われても、さわって何が見つかるのかはわからない。もともとここに来てさわって何かを見つけるという期待を持って来る人はさわることが楽しいし、例えばすごい何かが見つからなくても、なんかこうまず今日はさわってみたっていうひとつの満足があって喜びになると思います。その逆にさわってみてくださいどうぞって言われても、逆に引いてしまうことになるので、何かうまい促しがないとさわってくださいと言われても、ちょっとヒントがないと難しいのかなという気がしますね。

【黒岩】今おっしゃったことって、日本の博物館にハンズオンが導入されたところの欠点なんですよ。さわれさえすればいいっていうことで、結局マインズオンにならない。繋がるようなことまでちゃんと試行錯誤とか調査して作っていないのでさわれたらいいっていうところで、それをさわることで何が分かるのか、どういう楽しみがあるのかということを促せるような展示作りにまできているかどうかってことです。

【大野】そういう意味ではこちらの展示も大事ですけども、例えば京大の博物館なんかでも夏休みに子供たち向けの学習教室をやっていて、貝殻をさわることによって普段見てるだけではわからない情報が手に入るよっていうようなことを伝えたいと思っています。そういうことから次のステップにいくのが良いのではないのでしょうか。

【可児】南山の授業で博物館教育論と経営論を担当していて、ここにあるシルエットクイズを参考にしながら、自分たちでワークシートを作ってみようということをやっています。その時にここに来て作るという、まあ簡単なものなのですが。その中で今話にあったように重さを持って比べてみようというのがあります。結構そういう学生たちのアイデアも無尽蔵にあると感じているので、ワークシートを使って、それとさわるといこととを連動させると、情報が生きて来るような感じがします。そういうものを導入されるといいんじゃないかと思います。

【大野】もう一つ、もちろんその目の見えない人にはさわってもらうというのはあると思うんですけども、

うちの博物館では若手の学芸員が一昨年くらいからやり始めたのですが、自分たちで発見したものを伝えるという活動をしています。例えば、夏休みに自分たちが一番面白いと思った物を持ってきて展示しましょうとか。それと全く同じように盲学校の子供達に夏休みに一番楽しいと思った物を持ってきて、それを盲学校のクラスの中でお互いにさわり合って、それぞれが面白かったかみたいなのを伝え合うというようなことを実験的にやってるんですけども、そういうものから逆にその子供たちがどういう所に関心を持っているのか逆に引き出すことが重要なのかなとも思います。子供たちのそういう行動をじっくり観察していく。僕はハマグリを目の見えない人たちと一緒に調べようっていうことで、広瀬さんに教えてもらってやっています。模型を作ったのですが、あまり大きいと分からないし、あまり小さいとまた分からない。適正な大きさがあるということを広瀬さんに叩き込まれました。そういう教材には、知識、知恵が入っているので、教材を作ってから10年以上経ちますが、今でも活用してもらっています。

【可児】先程井口さんが展示の先に何があるのかっていうことを言われていましたけど、まさにそうだと思うんですね。あくまでさわるっているのは手法・手段であって、その先にじゃあこの展示をさわるなり見るなりして何を感じて欲しいのか。それについて答えはないんですけど、ユニバーサルの意味・理念といったものを、もう少し皆さんに分かる言葉で伝えていくことが大事かだと思います。

【黒澤】実は、今日の打ち合わせをするために、民博に広瀬さんを訪ねて行った時に、なんというか私自身が告白したことがあるんです。ずっと所謂「晴眼者（見常者）」が展示物をさわることの意味ってなんだろうということを考えていました。一体さわるということを通して何を伝えようかということをずっと考えていました。少し前に、あるきっかけがあってその疑問がどこからきているのかが分かったのです。それは自分がさわることで何かを得るという経験が非常に少ないことだと。自分自身にその蓄積がないので、さわることでこういうことが分かるということが伝えられないし、伝えるべきものが自分の中にないことが分かったのです。例えば、自分自身で土器を展示すれば、自分が研究した土器だったらこんな面白いんだって伝えられます。それと同じでさわる展示も自分がそれを本当に楽しんで、それを通じてこんなことが分かったという経験が自分にあれば、多分今皆さん

おっしゃったことが実現できていく芽になるんだなと思います。今の自分にそれがないということに、今更言うかって感じではありますけど、やっとそれに気がつきました。

それと学校との連携ですが、常々思っているのは、1回来て終わってしまうことです。なかなか2回目がないのです。うちでも夏休みに学長室が企画している小学生向けの講座があって、小学生が午前午後合わせて80人ぐらい参加しますが、その子たちはワークショップを楽しんで帰ってくれますけど、その後続けてきた子はほとんどいません。

それと、視覚障がいのお子さんとはほぼ来ないですね。それは広瀬さんに先程広報のことをコメントしてもらいましたが、それは実感しているところです。さっき名古屋盲学校との連携のことを言いましたが、名古屋盲学校がまだ来てくれていません。

【黒岩】それは何か理由が？

【黒澤】学校側の事情みたいですね。校長先生の方針に左右されるようです。盲学校の美術の先生は非常に熱心に取り組んでくれるのですが。

【大野】それは盲学校に限ったことではなくて、僕らも出前授業行きますけども、大体呼んでくれるのは校長がすごく理解がある場合で、担任の先生は何の面白味も感じてくれないとか、担任の先生がすごく熱心だけど校長はまあ挨拶くらいということがあります。学校全体としてっていうのは中々ないですね。だから本当に砂を噛むような感じで帰ってくることもあるのですが、それでも1回でもいいから子供に何か、変なおじさん来て変なものさわせて興奮して帰ったっていう記憶を残せばいいのではないかと考えています。結局、我々は百年も二百年もこういうことやってきたわけではなく、ようやく5年前に始めたわけで、長い目で見る必要があります。広瀬さんもまだ15年から20年は民博にいらっしゃるでしょうから、その間にちょっとずつでもやってかないといけないと思います。

【黒澤】だからチャンスがあったら、やらないよりはやるべきだ、ということですね。

7. 学校との連携

【大野】MieMuは県立の博物館なので、一応県教育委員会とはゆるやかな連携はありますが、県教育委員会の下にあるのは高校だけです。小中は市町教育委員会です。そうするとその市町の教育委員会の理

解がなければ、まあ行っても何しに来たみたいな感じになります。それから今、不思議なことにゆとり教育と言っていた時代でも、学校は忙しくて、授業の回数を7回だったのが4回に切り詰められるというようなことがあって、中々時間を取れないですね。危険なことはしちやいかんとか、いろいろな制約があって、それをクリアして先生方がその子供達に時間を作る。それだけでかなり消耗されるのです。

【黒澤】先程、名城大学の付属高校との連携事業のことをお話ししました。もう10年以上やっています。名城の場合は私立で、しかも国際クラスという高大一貫のクラスなので、カリキュラム的には他の進学のクラスよりはかなり緩やかなカリキュラムになっています。先生も毎年変わりますが、皆さん熱心にやってくれています。

【可児】南山の中学校・小学校は、考えられないですか。

【黒澤】今は高校の男子部と中学の女子部とは展示と授業協力をしています。

男子部の方にはさっき説明があったように社会科の先生がサテライト展示する場所作ってくれました。そこに授業の進行に合わせてうちの資料を持っていくという協力はしています。ただ、歩いて来ることができる距離だけど、実際に来ることはほぼ無いという状況です。

【大野】京都大学も大学博物館に学生はほとんど来ません。

【矢島】明治も同じです。学部はそれぞれの単位で連携講座を持っているけれども、博物館は今無いんじゃないかな。しょうがないから年中行事的にやってもいいかなみたいなのがあって、子供たちも別に喜んで聞きに來ているわけじゃなさそうですね。

小中よりも高校の方が、指導要領を含めた枠組みがまだ緩いので、話の持っていくようにってはなんかなるかもしれません。小・中学校は非常にきついんですよ。結局、テーマとタイミングが完全に合わない和学校の方は面倒くさがって嫌がる。私も何度もあちこちで仕掛けたのだけど、みんな中途半端で終わってしまいました。

【黒澤】リニューアルの時に、学校の先生にヒアリングをしました。しかし、ヒアリングをやるにしても、一所懸命頼み込んでやらせてもらったのですが、その時の反応もとても冷ややかでした。

【大野】可児さんの美濃加茂市民ミュージアムは、その辺、すごいまくいっていますよね。

【可児】それは大学博物館と地域博物館の違いがあると思います。ただ中学校・小学校だと、今おっしゃったようにカリキュラムがあるからそれに則った授業等ができる体制になれば使うところは使うと思います。最初の段階が難しいと思います。やっぱり学校は本当に忙しくなっていて、できてしまってからでは中々難しいと思います。何のメリットがあるのか、と言われるでしょう。でも、それはあるって言い切るしかないと思います。

【矢島】さっきのさわるということについて言えば、これは視覚に障がいがあるなしに関わらずですけども、一つ一つの物からさわってもらうことによって何を取り出してもらうかっていう、その仕掛けも大事だけど、もう一つは一つ一つの物をさわるのと、組み合わせでさわるのとでは、ちょっと意味が違ってくるでしょう。そこを一つ考えないといけません。

【井口】黒澤先生がおっしゃった通りで、私たちの方が、じゃあどれだけさわることから何かを見つけられるかっていう問題はあります。美術館の場合で言うと、例えば油絵とか基本さわるものではなく見るものなので、じゃあそれをどうさわるようにしようかということで、県芸大にいる作家の先生に、ちょっとごつごつした部分だけを描いてもらったりとかしたことがあります。それが出来上がって、私たちは、あーできたできたって言うとその先生に「ダメだよ、さわったら潰れちゃうよ」って言われました。それで、何日くらい経ったらいいですかって聞いて、まあしばらくすると固まるのでということで。それで、面白いね、こんなふうになっているんだねとか言って、ぐって押したら凹んでしまいました。その体験自体が、やっぱり普段さわってなかった私たちにとって結構新鮮でした。例えば版画でも、本当に版木を作っていただいて、それを刷る体験をするワークショップをやった時に、やっぱり自分たちでやるとどれだけ力があるとか、版画の刷り込む力の具合とか、そういうのを体験してそれをやっぱり一緒になって伝えていく。それはもう視覚に障害がある方も一般の方も一緒に、大体同じようなところで楽しんでくださいました。ただまあ、今刷り込んでいますよとか、いや紙にちょっと写ってきましたみたいな実況中継はやるんですけど。やる側もなんか発見があってそれを伝えてかないといけない。結局見る体験も一緒に、絵画をほんとうに近くで見ていて、こんなになっているんだって度肝を抜かれる時があります。それはもう解説の時とかに、もうちょっと近づいて見てください、こここんなふうに

なっていて、ごつごつしていますよ、じゃあ何に見えますとか、やっぱりそういうことを見る体験であってもできていたわけで、さわる体験もそういう仕掛けがあると、ここ来た人がさわる意味を見つけて、楽しかったよって言ってもらえるのではないのでしょうか。今、どうぞってさわってくださいと言われても、いや私見るだけなのでと言う人に、さわってみたらこういうことが分かりますよって言う人多分興味が湧いてくると思います。だからそこがもう一つ、次の段階にくとすぐく本当に楽しいし、意味は今でも十分あると思います、少し変わるような気がします。

本当に広瀬先生もそうですけど、視覚に障がいがある方は本当に積極性が違うので、もう何も言わなくてもどんどんやっていただければ良いと思います。あまり難しく考えなくてもいい気がします。

【大野】 僕は三葉虫っていう大昔の生き物が大好きで、三葉虫はダンゴムシみたいに丸まっているんですよ。丸まって身を守る。それで、手持ちの標本を見ると、平らなところがだんだん丸まっていく化石が五つあって、その中の1個に、エビ反りのやつがありました。それで、それらを並べて、みんなで丸まっていく順番に並べてくれるって言うと、面白かったのは平らなやつから丸まるっていう子はいいいんですが、エビ反りをどこに置くかが難しい。つまり、平らなやつが典型でそれが一番端っこでエビ反りがその次に来る。でも、いやそうじゃなくてエビ反りから平らになって丸まるという考え方もある。子供たちがそれを比較して、どっちかな、みたいな話をやってくれてすごく面白いなと思いました。今まで丸まっているって言ったたら、ダンゴムシみたいで終わっていたんだけど、子供たちにそういうふうにして考えてもらうことができたので、面白いなと思ったわけです。

理科の立場から言えば、そのものの並びとかが見えてきて、法則性みたいなのが見えてくると嬉しいですね。ただやっぱり、そのさわるということには、一つは世界をこう理性的に分かるということと、もう一つは感触っていうか、感性として分かるっていうそういう二つがあると思うので、美術館とか理系の博物館、総合博物館などで違いを出しながら、例えば土器でも、土器とかの感触と陶器のつるつとした感触を、一方では考古学的に理解し、一方では美術的に理解するというような、もっと柔軟になった方がいい。もっと遊ばないといかんですね。

【可児】 今の話、何かをさわったりしての発見という気づきから、その次に何かそれぞれみなさんがイメー

ジを構築するという、それも気づきなんですけど、気づきと築きが、連動しているというか、両方の視点は似ていて、それでも少し違うところがありますよね。

ところで、さっきの学校の話ですけど、学習指導要領が今度大きく変わりました。主体的な学びというのは当然あるんですけど、今までは何か実感を伴った感動というものが博物館に求められていたと思っていたんですけど、そうじゃなくて今は博物館というものは地域とか学校の図書館と同じように調べ学習の場として使いましょうというのがかなり明瞭に出てきています。ですから、学校に対してもし呼びかけることがあれば、調べ学習にここは使えますってことをうたえれば、学校側も少しは関心を持ってくれるかもしれない、と最近思いますので、情報として提供させていただきます。

【黒澤】 うちも夏休みの宿題、自由研究でどうですかっていうのは、話には出たんですけど、夏休みの一番真ん中が大学の休みになってしまうので、子供達が来れないというのが障壁になっています。

【井口】 別の観点で言うと、やっぱりスタッフの大変さというか、人数は決して多くないので、色々なアイデアはあると思うんですが、それを如何に続けていけるかというところで考えるのがすごく重要なことかなと思います。例えば、さわるプログラムを始める時に、最初は盛り上がるんですよね。みんなも興味があるし、頑張るんですけど。そこでちょっと冷静になって、折角だから続けていこうという話になると、それじゃあ今いる人数とかけられるお金と、あと協力してくださる人たちをどうするか。まあちょっとマイナスな話になりますが、やっぱり大変なんだと思います。

【黒澤】 マンパワーとしては、大学なので学生とか大学院生という人材はいるのですが、お手伝いはしてくるけど、主体的に何かここでこんなことやらせてくださいという話はなりませんね。ここは博物館だから自分たちが何かやっちゃいけないみたいな、そういう思い込みもあるのかもしれないですね。

【井口】 授業の中に組み込んでいくようなことはないんですか？黒澤先生の授業じゃなくても、

【黒澤】 うーん、難しいですね。

【大野】 実際に展示を作るという博物館学実習をされているので、例えば、君らのグループはさわる感触を調べるとか、あるいは広報するにはどうしたらいいのかみたいなテーマを上手く与えてみるというのはどうですか。

【黒澤】 実習で展示作らせたり、プログラム考えたり

するのも課題として出します。ただ、展示はそこそこの形になるように作ってきますけど、プログラムになると結構出来不出来の差が大きくなりますね。資料に対する危険性を全く考慮しないようなことをやり始めてしまうこともあります。そういうのはかなり厳しく注意しますけど。

【可児】関連するのですが、博物館学E（博物館経営論）の授業でこちらを使うんですが、さっき言ったように、1時間ここで何をするかっていうと博物館評価をします。博物館評価というか展示品評価でして、展示室の中で二人ペアになって、一人が動き、それをもう一人の人が観察しながら、どこをどう歩いたか、滞在時間はどれくらいか記録します。それを全部合わせると、きっとそのうち良いデータになると思うので、また機会がありましたらお持ちしますけど。評価というも観点でも経営論の中で十分使えると思います。もう一つは教育論（博物館学A）の方でやっているワークシートです。改めて作ってしましたが、情報が共有できれば良いと思います。

8. 博物館スタッフによる自己点検（資料1・2）

【大野】もう一点、この実習生による来館者調査をいただきましたが、これ読んでみてすごいなあと思ったのですが。

【黒澤】それではその来館者調査も含めて、博物館の内部の評価を声明します。学芸、事務からの自己評価です。これをまず報告してもらいたいと思います。

【秦】学芸の方では5つの区分に基づいて、自己点検をしています。調査研究、教育普及、展示、収集保存、ユニバーサル・ミュージアムという項目でそれぞれの現状と課題、展望をあげています。調査研究では専門の研究分野とそれに関する近年の成果、博物館資料に関する研究とそれに関する成果、博物館学に関する研究とそれに関する成果、調査研究に関する展望に分かれているんですけども、現状としましては、調査研究はできていないということになります。展望としては成果が出せるように研究計画を立てていくことが必要です。あと博物館の資料に関して、資料の情報がよく分かっていないものや台帳があるものとなないものがあったりします。また、リニューアルの時に資料を持ってきても、台帳の変更してなくて、結構混乱しているので、それを確認してからでないと成果は出せないのではないかと考えています。

教育普及の方に関しましては、教育普及、来館者、学生と一般の来館者に対するサービスの提供状況と博物館実習への取り組み状況、外部・内部という項目になっています。学外からの博物館実習を希望する学生の受け入れも行なっています。内部が南山大学の学生の実習です。それとボランティアへの取り組み状況、博学連携に対する取り組みということで、こちらも現状と課題、展望をあげています。博物館実習に関しましては先ほど展示のところでお話ししましたが、学芸員が資料を選定してそれに基づいて実習生が展示制作をするようになっています。ボランティアに関しては、月に1回ボランティアスタッフに対して研修を行っています。長くボランティアとして研修を受けている人もいらっしゃいますし、それ以外にもフィールドワークで興味を持ってきて、新しくボランティアを希望する方がいて、新規の参加者に対しての基礎研修というのも今年度開始しています。視覚障がい者対応研修に加えて、今年から聴覚障がい者対応研修を実施しています。

博学連携に対する取り組みとしては、南山男子部へのサテライト展示、女子部への資料貸出があります。その際に資料の確認ですとか梱包、運搬、開梱作業などを行っています。名城大学附属高校との授業補助や先ほどの学長室主催の小中学生向けの講座、あとは名古屋市内の中学生の社会科見学や職場体験などの受け入れ等も行っています。

課題としましては、来館者全体に対して、さわる際の注意事項をしっかりと説明しておかないと、資料の破損などにも繋がってしまうのでそこを確実に伝えられるようにするということがあります。また、広報に関して、一般の来館者に向けて博物館がどういうイベントをしているのかをまず知ってもらうために、ホームページやインスタグラムを開設していますので、そちらで企画を分かりやすく提示して、参加者を増やしたりイベントの規模拡大を目指したりしていきたいと考えています。学外の学生の実習への取り組みですけれども、私は担当していないのですが、希望する学生に実習内容を明確に伝え準備を行うことを目指していきたいと考えています。

ボランティアへの取り組みについてですが、研修の一環としてライトハウスで希望者を募って団体見学の機会をつくり、ボランティアに誘導してもらいながら展示解説を行うなどの取り組みを考えています。博学連携についてはサテライト展示の回数を増やすとか、ワークショップで使うワークシートを作成するなど、

目的が伝わりやすくして達成感を持たせることができるようにしていきたいと考えています

展示に関しては項目が三つありまして、過去に企画制作した展示、展示期間中の来館者数、展示に関する工夫となっています。博物館実習の展示では、学芸員が資料を選定して実習生が展示という形です。新収蔵品展が学芸員による資料選定、展示制作です。また、実習での展示がない時に展示ケースが空にならないように展示を回していくことが課題としてあると考えています。

次に収集保存については項目が4つありまして、資料収集は継続的かつ体系的に行われているか、収集資料の活用状況、収蔵庫の環境、展示室の環境となっています。

現状としましては、資料収集は積極的には行っていません。寄贈の希望があったときに、資料評価委員会が審議し、それに基づいて受け入れ可否を判断しています。

収集資料の活用状況ですが、寄贈資料は新収蔵品展で展示をして公開します。これまでの収集資料に関しては、台帳や資料調査カードがあったりなかったりします。正確な資料点数ですとか種類が把握しきれないのが現状です。課題・展望としましては、新たに寄贈を受けた資料の台帳作成や資料番号の付与を行っていきます。これまでの資料に関しては、既存の台帳を基に、資料番号や所在、資料の状況などを確認していく必要があると感じています。

収蔵庫の環境に関してですが、先ほど見ていただいたR棟の収蔵庫は開館時と閉館時に温湿度の確認を行っています。湿度が高い時には除湿器をつけていて、低い時には加湿器を置いて対応しています。収蔵庫は棚番号をつけていますが、全体を把握できるようなデータが無い状況です。旧博物館だったG棟は現在収蔵庫・図書室・学習室として機能していますが、収蔵環境についていえば、温湿度管理などは全くしておらず環境はとても悪い状況です。資料の整理や調査なども、十分でないまま放置されています。

展示室の環境に関しては、開館時と昼1時頃、そして閉館時に温湿度の管理を行っています。団体見学などで多くの人がさわった後には、資料の確認をし、必要であれば破損の修復、清掃などを行っています。こちらは閉館時に展示資料に問題がないかを必ず確認することが必要ではないかと考えています。

ユニバーサル・ミュージアムに関してですが、その実現に向けての取り組み状況ということで、年に一回

専門家を招聘して、博物館職員やボランティアスタッフなどを対象にセミナーを開催しています。今年度は聴覚障がい者対応を行いました。課題と展望としましては、視覚に障がいのある方の来館が増えたということもないので、この博物館が視覚障がい者を積極的に受け入れるということが認知されるように連携をしていくべきではないかと考えています。

最後、自由記述ですが、外部からの研究協力などは行なっていますが、当館の学芸員が特定の資料に関して調査研究を行うということが現状ではできていません。資料の保存に関しては年に1回資料を選んで外部の業者に修復を依頼しています。また、年に一回燻蒸を行っているのですが、完璧な効果を得られているとは言い難く、虫が発生したりカビが気になったりし、対策が困難であると考えています。

全体的な問題点としては、学芸員が収蔵資料の研究を行えていないということや、任期の問題があって限られた勤務時間と不明瞭な引き継ぎなどが挙げられます。個人的には、少なくとも勤務時間が増えない限りは改善が難しいのではないかと考えています。

【黒澤】 それでは続けて、もう一人の学芸員の井原さんの自己点検も説明してください。

【秦】 井原さんの自己点検ですが、聴覚障がい者対応に関する調査と研究を始めています。あと教育普及に関しては、ボランティア研修の内容をしっかりと考えたということと、あとはG棟の収蔵環境についてこれから考えていかなければならないし、一番考えていきたいと言っていました。それ以外は基本的には同じです。

【黒澤】 それでは続けて事務の中村さん、お願いします。

【中村】 事務の方からの現状と課題を報告いたします。まず何度も挙げられていますように職員の勤務体制ですが、開館が月曜から土曜までの10時から4時半までということで、開館日は必ず学芸員のどちらか1名以上が勤務することになっております。ただ年間80日間ほどは休みを取らないと雇用時間の制限にひっかかるというところで、大学の事務休業である夏休みですとか日曜日に休みになっています。次に課題に移ります。例えば、夏休みの学長室主催小中学生向けの講座を開くなどの機会はあるのですが、それで興味を持った子が後でもう一度来たいと思っても、次に来るときは開いていないということになります。土曜日は開館しておりますが日曜日が開いていないので、その後のリピート率に繋がっていないのではないかと

思います。ですから、学芸員の勤務時間にもう少し余裕を持たせて、また人数も含めてバランスよく開館していかないと来館者の増加や普及に繋がっていかないのではないかと考えています。

業務内容に関しましては、博物館講座などの参加者人数を増やして規模も拡大していきたいと思っています。どうしてもイベントを他の教室でやるとなった時に、この同じ建物でやるのが業務的にスムーズなのですが、100人規模の教室が少なくなっておりまして、今のところ募集枠を減らして行なっています。あとイベントの申し込みについてですけども、有料で行っているのは博物館講座全4回の6、7月の博物館講座とフィールドワークです。今のところ、往復はがきでしか申し込みができないので、現在のインターネットが使える中では面倒くさいと思われる方が多く、やはりEメール、FAX、あとWebページにクリックしていくと入っていけるというようなこともできるようにしたいと思っています。

次、博物館運営委員会につきましてですが、運営委員長の外に5名の委員の方に2年毎の任期でご着任頂いております。年2回の委員会の第1回目は決算報告、2回目は次年度予算等、予算関係についての審議をお願いしています。

資料評価委員会は寄贈の希望があったときに開催してもらっているのですが、委員の先生方には、迅速に対応・協力していただいています。課題と展望としては寄贈希望があったときに、委員会で審議していただくための情報を集めるのが難しく、なんとなく経緯は聞いても、委員の先生にご提供できる資料が少ないまま審議してもらってしまったりすることがあるので、寄贈の希望があった時に詳細を伺えるようにしていかなければいけないと考えております。

あと書籍に関してなんですけど、R棟のレファレンスルームとG棟で管理をしているのですが、年々増えていっておりますので、その管理をどうするか、これから考えていきたいと思っております。事務の方からは以上です。

9. 組織と運営の問題点

【井口】開館でひとつ驚いたのが、月曜から土曜の朝10時から16時半まで勤務という中で、一人必ず学芸員がいて、これだけの業務を回そうと思ったら大変ですね。すごく乱暴な言い方をすると、大学の博物館だからこそ本当に月曜から土曜まで開ける必要が

あるのかということです。別に安易に閉めれば良いというつもりはないんですが、時間と人とお金というのは限りがあるので、一般公開していくのが目的だったら、逆に何かを諦めていかないといけないと思います。あと、収集に関しては、収集方針、コレクション・ポリシーみたいなのはあるんですか。

【黒澤】今のところ無いです。特に多いのが昭和の資料になりますが、ほとんどがもう使わないから博物館で引き取ってくれという理由が多く、ポリシーを設定しにくいということがあります。

【井口】そうなった場合に、ちょっと意外かもしれないのですが、廃棄のポリシーを考えていく必要があるのではないかと思います。美術品の場合は、唯一ということもあるので、絵画などは、作品を売りに出してそのお金で次の作品を買うとかというポリシーがあります。特にこういう昭和の資料だと、ご寄贈いただいた方にご理解をいただかなければならないと思うので、そこがちょっと気になりました。

【黒澤】収集方針というのは今申し上げたように決まっていなくてもいいんですけども、最近になって一応お預かりしますが、評価委員会にかけて、もしこれが評価委員会で受け入れはしないと決められた場合にはそちらで処分してくださいということは伝えるようにはしています。

【黒岩】その評価委員会の方も、方針が無いと判断の拠り所がないのではないですか。

博物館運営をしていく上ではやっぱり方針をきちんと作らないと。今回のお話を聞いてびっくりしたのですが、失礼な言い方かもしれないけど、博物館の体を成していないように思います。大学運営の方で博物館をどう位置付けしようとしているのかが全然見えない。運営委員会で粛々とやっています、問題ありませんと言うけど、この状態ではやっていけないという予算請求を大学側に出せるぐらいの権限を持っているのですか。例えば、決裁権のある人が運営委員会の席に来て聞いて、この大学博物館として良いものにしていくという方針も見えてきません。なんかこう内々で愚痴言っただけで、人が足りません、お金ありません、だからできないです、ああ困りましたね、大変ですねえ、いやあ頑張ってますねえで終わる程度でいいのかしらってすごく思います。お話聞いていて、すごく頑張ろうとされているのに、もったいないし、なんかすごくもやもやしてしまったのです。今おっしゃっていたコレクションポリシーもそうだけれども、何のためにこの南山大学人類学博物館を作って、設置目的をき

ちんと大学が設定して、それを反映したその教育方針もそうだし、コレクションポリシーもそうだし、そういうものに基づいてきちんとやっていかないとだめだと思います。多分5年ずつでスタッフが変わっていく中で、付け焼き刃の出たところ勝負な対応では、博物館としての継続性も危うくなると思います。どこでどうやっていくんだろうというのが皆目見えないと思うんですね。

【黒澤】そのことを大学に訴えるための材料として、ここで色々ご意見を出していただきたいということがあります。

最初に井口さんにお答えしますと、実は自分としてあまり資料の収集方針を作らないようにしようと思っていたんです。というのは、やっぱりうちのような博物館で扱っているような資料というのは今の我々の価値判断で決めてしまうと、もしかしたら今我々が知らない価値があるかもしれない。特に昭和の資料というのは研究が無いわけですから、そこは少し幅を持たせていきたいと考えています。

ただ、人類学や考古学の資料については、実際今後は収集する予定はありません。考古学資料も人類学資料も、もう収蔵場所がありません。昭和のものは、今は単品で来ることが多いのですが、これからは少し厳格化していかなければいけないと思っています。例えばその資料にまつわる情報、例えばテレビとか家電製品でしたら取扱説明書ですとか、あるいは我々として一番欲しいのはその物にまつわる家族の記憶とか、エピソード、そういうバックデータがきちんといる資料を受け入れることを厳格化していく必要があるとは考えています。

【黒岩】いや、コレクションポリシーは、別に物を羅列してこれは集めるこれは集めませんということを明記することではありません。今、黒澤さんがおっしゃったようなことをきちんと明文化して、それを博物館と大学の共通認識にしておかないと運営ができないだろうということです。あと廃棄のことをおっしゃいましたが、登録・資料台帳に登録すると資産になりますので簡単には廃棄できません。ですから捨てるとか、譲渡するとか、入れ替えるという色んなパターンがありますけど、その手続き的なことも問題になってくるので、全部その辺を固めておかないとコンプライアンスに関わると思います。

【黒澤】ただそのちょっと今のお話と違うかもしれないんですけど、当館の台帳というのは、私の前任の先生が博物館実習の一環で資料整理をして、それを何回

もやっているの、番号が複数ついています。だから実は私が博物館に来てから、最初にその整理をしようと思ったんですけども、これはもうだめだと感じました。だめだという理由はこれ以上今あるものに新たにナンバリングして台帳作ってとかやり始めたら、これはもう多分後の人は全く分かんなくなるだろうと判断したのです。

【大野】現状のスタッフで、調査研究されるっていうのは大変だと思うんですけども、例えば京大の博物館の場合、例えば学内に研究協力者をお願いしています。そういう人たちが、例えばそのいろいろな自分の研究の中で標本ができると、それを受け入れる代わりということではないけど、整理してもらったり、それから展示してもらったりですね、いろいろお手伝いいただくような形にしています。研究協力者という形をとって、ウィンウィンな関係で受け入れます。やっぱり、折角大学でいろいろな先生方や研究者の方がいるので、一つはそういう形で学内の力を借りるというようなことがあっていいんじゃないかと思います。

それと、もう一つは調査研究とありますが、その今やっぱりユニバーサル・ミュージアムについての研究は、すごく大きな研究テーマだと思います。やっぱりユニバーサル・ミュージアムに関するこの5年間の試行錯誤の結果まとめられて、そこからのエッセンスで次のステップを踏まれるということが必要だと思います。確かに資料台帳は博物館での研究に必要なものでもあるけれども、卒直に言うところの人数でどれだけができるかということです。今重点を置かれていることが、視覚障がいの人、次は聴覚障がいの人っていう形で進んでいかれるのであれば、それがやっぱり博物館学の研究の中心に据えられて、そこで特色を出されることを考えるべきでしょう。今黒澤先生が本当にやりたいことというのは、広い意味では博物館という門があって、その後ろに研究があるわけですが、それを更に発展させる。特にユニバーサル・ミュージアムというところを深められて、全国に発信して情報を共有させてもらえるとすごく助けになります。それが世界にも伝わっていけばすごく大きな貢献になります。研究の方針というのもこの人数でできることをしっかり決めて、そこから深めていかれたらいいし、そこでの成果をなんでもっと深められんということになったら、予算が無くてできないけど、ここはものすごく全国的に評価されているので、予算をくださいという、そんな形で作り上げていかれたらいいと思います。今やっておられる一番強みのところをもう少し掘り下げられ

たら、来館者も増えるのではないですか。だからこの調査研究は通り一遍のことしか書いていないので、やや不満ですね。

【可児】最初に黒澤さんが話をされた二つのことがありましたね。一つは大学の博物館としての位置付け、それからユニバーサルとしての位置付けを言われた。それがここの大きな理念、柱だと思うのですが、それを展示室だけじゃなくて、どこかにその理念をしっかり謳うというか、文字化したものがやっぱり最初にあるべきかと思います。そして、その理念と学内の評価、自己点検にもっと書き込んでもいいと思います。更にそこに数値目標ということが書いてありますけど、この中に数値目標が無いというのが僕は気になっています。定性評価と定量評価があると思いますが、定量についてもう少しはっきりさせるべきでしょう。例えば調査研究という項目があればそれについてどうなるのかという目標であるとか、どういう姿を目指しているのかというところに数値が来てもいいと思います。そう言う意味で、ここには一つ大事な項目が抜けている気がします。どういうところを目指していくのかということです。どういうものをここで目指しているのかという理念があって、柱の下にこの具体的な目標が出てきて、そこに定性的な数値と定量的な数値が出てきて、アンケートによる満足度がどのくらいだったとかが出てくると思うんですが、そういう言葉がどこにも無いので、一般的な評価になってしまうのだと思います。そのようなイメージで見ると、その辺がリンクしていないように思います。これを館の中の共有した現状と課題にするべきではないかと思います。最初にその理念を文字化したものがあって、それのもとにこの評価がきてという順序でしょう。

【黒岩】理念がはっきり謳われてなかったら、評価できないですから。いただいた資料はどちらかというと人事考査ですよ、人事考査的なもので博物館評価とは言えないと思います。可児さんも言われたように評価体制をきちんとするためにも、博物館の内容をきちんともう一回押さえ直されて明文化されるところから始められるっていうのも一つだと思います。そこに今大野さんが言われたような、調査研究はどういうところに占めるかちゃんとブレイクダウンして、ビジョンというか目的として建てないと。それに対して今現状がそうで、客観的なデータがどうでということで考察していけたらと思います。

【可児】それがあれば、それを材料に設置者側に対して、これだけのことを数値目標としてやったけど、こ

れは出来た、これは出来なかったと説明することによって、議論になると思います。課題だけではどこまでやっているのか分かりません。こういうことが外部から評価されているということが分かれば、設置者もそれならもう少し人を付けようとか、そういうようなことに繋がっていくとよいと思います。そういった評価って、積極的に使っていくことは、内部の品質を上げるのも当然大事なんですけど、そういった外部に対しての動きとしても使えるということは大事だと思います。

【黒澤】実はこちらの内部の方は今回の評価委員会のためにやりましたが、今後は毎年やらないといけないと思っています。今回は問題点を洗いざらい出してもらおうということでこの内部の自己点検・自己評価をやってもらいました。ですから可児さんおっしゃったようにリンクしていないというのはある意味当然なのです。

理念は実は入り口のところに出してはいますけども、これも刻々と変わってはいるんですよ。多分作った時の理念と今では少し違ってきている。それは今までの活動の経緯の中で、目指すものが変わってきている。ユニバーサル・ミュージアムというものの意味合いも変わってきていることにリンクするようにうちの理念も変わってきていると考えています。ただ、ちょっと私自身は、あまり数値目標ということに対してやや批判的に見ていました。

【可児】ここは入館者のことを言っているわけではありません。例えばうちの館では、ある展覧会で、この展覧会を他の人に薦めたいですかという問いをして、その数値が上がるか上がらないかということによって、その展示が地域に対して貢献しているかどうかという分析ができるようにするために、そういう数値評価を出すということです。あくまで内面的な数値です。ただ来たか来ないかじゃなくて心の中で変化があったかどうかということに対しての評価いうものです。

【黒澤】それは定量化できるのですか？

【可児】それは数としてです。

【黒澤】それはアンケートですか？

【可児】はい、アンケートです。来館者の調査の一環で、自由記述も当然そうなんですけど、設問形式の中にあるものを拾いあげてくる。最近は現代美術の展示なんか全然分かんないって人が多いですけど、その中で最近やろうとしているのは、この展示でどういう気持ちになりましたかっていうことを、要するに心が動いた

かどうかという数値をたくさん挙げて、たくさんあるかないかによって結果的に所謂分からないとされる現代美術の展示も、これだけの人が理解しようとしているんだってことを数値で出す。そうすると、設置者側も分からないんだけど分かろうとしているとかいうように、結局数字にしないと相手方が分かってくれないですね。ある程度客観性を持たせるという意味では数字も書いています。

【黒岩】今おっしゃっているのは、定性的な評価に繋がる指標を作って、それを定量的に量って、結果として出すということです。例えば来館者数にしたって、マスで出してしまうとたくさん来ているか来てないかっていう判断だけでも、その来館者の中をきちんと定性として見せられるようにする。例えばこの場合はユニバーサル・ミュージアムってことを謳っているんだから、それに該当する人たちが何%来ているかっていうことと、マスで何千人来ましたっていうこととで全く質が変わるんですね。だから、博物館のことをあまり考えていない人たちに説得するのに、定性的なものをどう数量で見せるかってことをしないとイケない。説得材料の作り方というのも工夫してやらなければいけない。

【可児】入館者だけにしてしまうと、入館者が増えればいいということになってしまいます。もっと内面的で、その理念に基づいた指標にするかどうかが大事だと思います。そうしないとやっぱり良い効果にならず、逆効果になってしまうことがあります。ただ、その指標の設定の仕方というのはやっぱり難しいですね。

【黒岩】あとその理念が変わっていくというお話がありましたけど、理念はやはり変わってはいけないと思います。現状とか社会の変化において変わっていくのは中長期目標とか、理念の下段階だと思います。だから理念とその下の目標とかビジョンとか、それがまた中長期の計画や年度ごととくに区分して、それがどこまで到達できたのか、あるいはできていないのかということ、数値と文章とを合わせて出していかないと、結局こちら側のやりたい事とか現状とか課題とかって伝わらないと思います。

【大野】なんかここでやっておられる取り組みのすごさがこれでは全然分からない。だからケチつけているんじゃないで、せっかくやっているんだから勿体無いですよ。

【可児】先程の視察に来られたとかいう話はすごく意味があると思うし、それはここが目指す形として捉え

ていることを示しているの、それを大学に伝えられるといいなとは思いました。勿体無いなど。

【黒岩】あと、今はこの体制で出来ることを深めていくってことをされているかもしれないですけど、黒澤さんが退職された後もこの博物館をきちんと継続していく体制を今の段階で作らないといけないのではないですか。

【黒澤】それはもうずっと大学に訴え続けていることです。

【井口】良い意味で時には騒いだ方がいいと思うんですよ。みなさんがすごく一所懸命なんとかしようと思っているのは、勿論博物館で働く者としては当然なんですけど、色んな人に何か良い知恵は無いですかって騒いで、その人がこんな工夫したらどうだって言ったことが採用されたりすると博物館の方を振り向いてくれるかもしれない。私たちは博物館、美術館のことで話していると、どんどん盛り上がってくるんですけど、全然関心の無い人にとっては何？っていう感じになる。そうなった時、そう人にも分かってもらうには時に騒いでアピールしていかないと。まずはやっぱり学内の先生方、学内の応援団を増やすということじゃないでしょうか。

ただ皆さんがおっしゃるとおり、やっぱり理念は変わるべきじゃないし、大学博物館であるってということとユニバーサル・ミュージアムという考え方を取り入れたってところは揺るぎないと思います。計画は年度だったり3年とか、5年で変わっていったり修正していくということはあると思うんですけど、そこを明文化して共通の認識を持つということが大事だと思います。

【大野】大学の博物館はスタッフが少ないので、さっきも言ったようにその研究協力者を探しますが、先生方には二通りあって、それは面白いねっていう人とそれにはどういう意味がありますかって言う人がいます。その中で、博物館を気にしてくれる人は何人かいてくれるので、一度博物館の面白さに味をしめる展示なんかをやると、じゃあまたやるよと言ってくれる。

【矢島】私も何年も自己点検・自己評価報告書を書かされたからよく分かってのですが、大学の自己点検・自己評価のフォームも記述の仕方も、博物館という組織を評価したり表現するのにあんまり適合的じゃないんですよ。だから、これはこれでいいのだけれども、自分たちが言いたいことをもう少しきちんと分かるような枠組みを作り直すということも必要でしょう。

【大野】例えばこの評価の社会連携・社会貢献というところで、現状の説明は書いてあるんだけど、それがどうなったということが、アンケートの結果とか、あるいはもう少し数値化できるものがあれば良いですが。

10. 学生たちによる評価（資料3～9）

【黒澤】それでは先に行きますが、3番の学生ボランティア、学生臨時職員による評価です（資料3～7）。これは実は間に合いませんでした。多少データは取っているんですが、集計までいきませんでした。学生については博物館実習の授業の中でやろうと思ったんですけど、授業の進行と合わずに間に合いませんでした。次回までに揃えて事前にご提供したいと思いますのでお許しください。それでは、来館者調査の結果を極々簡単に説明してください。

【中村】来館者調査ですが、2種類ございます（資料8・9）。一つ目が博物館実習生による来館者調査となります。もう一つが実際に来館者の方に書いていただいた調査の結果となります。博物館実習生のものは、実習生が授業の一環として展示室で来館者の観察をして、その状況を記録するというものになります。ですから、こちらは来館者がどう思っているかとはちょっと違います。

次の来館者に対するアンケート調査ですが、こちらは今年度に入りまして、7月ぐらいから始めたもので現在も実施していますが、集計できたものが大体419件あります。数が実際に出ているところは選択肢に対する回答です。来てみたら期待通りだったということを感じたようです。あと期待以上だったというとても嬉しい意見をたくさん頂いたので、こちらはまたご覧いただければと思います。また、職員に質問したかということですが、オープンキャンパス等のイベントの時には職員もボランティアも多数いて、質問してもらえるようにしているんですが、通常の開館時に常時誰かいて、質問を受けられる体制ができていないわけではないので、質問しにくい状況であることがこのアンケートから分かりました。

あとご高齢の方たちが、少しお休みになりたいという時に、収蔵庫の前にベンチを置いているんですが、資料かどうか迷ってしまって、資料だから座っちゃダメなんじゃないかっていうふうに思われる方もいらっしゃるみたいです。そういう表示が無いとお分かり頂けない部分もあるのかなとアンケートで感じました。

やっぱりさわられて楽しかった、面白かったっていう意見がとても多く、その中でも土器にさわられて良かったという意見がたくさんありました。

一方で、つまらなかった理由ですね。こちらは怖かったとか、そういった意見もあったんですけども、知識がないまま来てみて、分からないままだったっていう意見もありました。全部同じように見えたとか、展示資料に関してご理解いただけないままだったのかと思っています。

次に館内の様子ですが、快適さに関しては心地よいという回答が350ぐらいありました。また、何か落ち着かない理由としては臭いが気になったとか、冷暖房の関係ですとか、少しそういう風に感じられる方もいらっしゃるかわかります。展示物の数や情報についても十分であるとの回答が圧倒的に多いのですが、説明が少ないという意見が多くありました。一方で、コレクションの説明に関しては、分かりやすかったという意見がほとんどです。難しかったという理由としては、もっと詳しく説明して欲しいということ、あと漢字が難しいということが挙げられました。

次ですね、展示の見やすさに関して、見やすかったという意見がほとんどですが、見にくいとお答えいただいた方には、非常に高い所にも展示があって、それが見にくいと感じられたという意見が多数ありました。あと入り口で、さわる時には時計、指輪は外してくださいという注意事項をお配りしてまして、こちらは役に立ちましたかという質問に対して、役に立ったとお答えいただいた方が多数いらっしゃいました。実際資料にさわったかというところですが、こちら350ぐらいのご回答のうち300人ぐらいが「はい」と答えています。ただし、これはイベントの時に学芸員ですとかスタッフが、どうぞさわってくださいという形で行ってた期間にとったアンケートが多いので、さわっていただけてる意見が多いと思います。実際さわってどのように感じましたかというところですが、なんか歴史を感じたとか身近に感じる事ができたとかいう、ちょっと漠然としたご意見もあれば、材質とかを考えてみたっていうようなご意見もあったり、後は考古学の講義の後にさわられた方もいらっしゃったので、それを実感しながら情報が増えたと思われた方も多数いらっしゃったと思います。

誰もが使いやすい博物館としてどのような印象ですかというところで、こちら340ぐらいの回答数がありますが、やはり場所が分かりづらいということから、誰もが使いやすいと思われなかった方がいらっ

しゃいました。

最後にフリーのご意見やご感想を多数いただきました。楽しかったです、また来たいですというご意見もあれば、近所に住んでいたのにここを知りませんでした、知っていたらもっと早く来たのという意見もあったり、友達にこのことを知らない子もいるので広めたいという意見もありました。やはり広報の仕方を考えないといけないという結果になっています。

次に博物館実習生による来館者調査の方になります。来館の人数を2014年度から2019年度まで棒グラフにしてみました。比べて見るには条件が違いますが、ご参考程度に見ていただければと思います。やはり学生さんが多いというところ、あと四十代、五十代のご年配の方も多数いらっしゃるということがわかります。次がどこのコーナーにたくさん時間をかけて見ていたかというところで、これが最短見学資料と次の最長見学コーナーとか滞在時間とを合わせてみていただくと、土器とか石器のところで興味を持って見ていただいていることがわかります。

次に個別の、フリーで書いてもらった満足感等の個別感想なんですが、これも実習生がその見学している人を見て、こういうところに満足しているように見えるというところを書いてもらっています。やはりさわって楽しそうにしているという意見がたくさん書かれていました。あと、団体見学等で来ている時とか、解説を学芸員がしているところも見て、学芸員の話を、興味を持って見ているという意見も多数ありました。あとクイズとかビューボードですね、こういったちょっとアクティビティ的な楽しみもあったりします。また、レファレンスも多数活用していただいています。資料を見た後にレファレンスでもずっと読書を楽しんでいましたという意見はどの年にもたくさんありました。

次に多かったのが、写真を撮れますということがアピールポイントですので、写真を多数撮って皆さん楽しんでいらっしゃったという結果も出ております。その他に関しても興味深いご意見が多数あったので集約せずにそのまま載せてしまっていますが、また見ていただければと思います。

不満に思った点ですが、やはり不便さ、分かりにくさというところ、あと先程も出ましたが、さわり

づらい、“Please, touch!”と書いてあるのですが、中々さわるところまでいかないというところがちょっとマイナスになっていると実習生が感じたようです。あとは説明が少ないので、ちょっと分かりにくいということ、高い所の資料が見にくい、あるいは引き出しの資料に気が付かずには勿体ないということがあります。

【黒澤】ありがとうございます。かなり大部なものになっておりますので、今ここで突っ込んだ議論をしていただくと時間が足りません。

【可児】来館者のアンケート調査ですが、これが今回だけのアンケートなのか継続的にやられるかはちょっと分かんないんですけど、もし継続的にされるならこれらの項目を変えないようにしないといけないと思います。でもこれは、細かいしすごいですね。こんなに分析されて。

【黒岩】もしこれを説得材料に使う時は、全て見てもらいたいということで網羅されていますけれど、例えばさわることが楽しかった面白かったという項目で一つにすると、数字がもっとバーンと挙がるので、標榜しているさわれる展示が正しいということを示す強い数字になります。あんまり項目がたくさんありすぎても見るは大変なので、説得材料にする時はそういう見せ方の工夫もされたら良いかと思いました。

【大野】うちの学生が今やっているのが、エクセルに打ち込んだら、キーワードを入れるとそれが何個あるかというのを使っています。テキストマイニングというソフトを使うときれいに出てくる。それがポジティブであるかネガティブであるか、その解釈の仕方はブラックボックスなのですが、その数字、つまり語彙がいくつ出たのかということが表で出てきます。

《バッテリー切れのため、ここで終了》

註

- (1) 南山大学の web ページ URL 参照。https://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/jiko/daigaku.html
- (2) この方は2019年度をもって退職され、現在は考古学の専任教員が加わっている。

**第 1 回 南山大学人類学博物館評価委員会
議事次第**

日時：2019 年 12 月 23 日（月） 13 時 30 分～16 時 30 分

場所：南山大学人類学博物館実習室

評価委員：井口智子（名古屋市美術館学芸課長）

大野照文（三重県総合博物館館長）

可見光生（美濃加茂市民ミュージアム館長）

黒岩啓子（Learning Innovation Network 代表）

広瀬浩二郎（国立民族学博物館准教授）

矢島國雄（明治大学名誉教授）

事務局：黒澤浩（南山大学人文学部）

中村奈々恵（南山大学人類学博物館）

井原瑠梨（南山大学人類学博物館、当日は参加せず）

秦優莉香（南山大学人類学博物館）

石井知好（教育・研究支援事務室）

大橋史貴（教育・研究支援事務室）

予定 進行：黒澤

13：30 開会

趣旨説明——人類学博物館の目指すもの（黒澤）

13：45 博物館施設案内

14：15 休憩

14：25 人類学博物館の活動説明

（1）過去 5 年の展示活動（井原）

（2）過去 5 年の普及活動（秦）

（3）組織と人員（黒澤）

15：00 自己評価報告

（1）大学の自己点検・自己評価（黒澤）

（2）博物館スタッフによる自己評価（井原・秦）

（3）学生・ボランティア・学生臨時職員による評価（黒澤）

（4）来館者調査の結果（黒澤）

16：00 今後の進め方と意見交換

16：30 終了

【秦】博物館自己点検表

区分	点検項目	秦	
		現状	課題・展望（具体的に）
調査研究	専門の研究分野とそれに関する近年の成果	専門の研究分野 ペルー北部高地カハマルカ文化の土器研究 成果は無い。施文方法の変遷について引き続き研究ができればと考えている。	発展的な成果が出せるよう、研究計画を立てる。機会があれば実物資料の観察を行う。
	博物館資料に関する研究とそれに関する成果	博物館資料に関する研究は現在行っていない。資料を把握するための台帳確認、整理を行っている段階である。	資料台帳の有無と、資料の所在確認を行う。
	博物館学に関する研究とそれに関する成果	博物館学に関する研究に関しては現在行っていない。	博物館学に関する紀要を執筆する。
	調査研究に関する展望	博物館収蔵資料のデータベース化を目指す。	各コレクション単位での資料台帳を完成させる。
教育普及	来館者（学生・一般）に対するサービスの提供状況	（来館者全員に対して） 初来館時に館内見学時の注意事項を説明している。 （学生に対して） 講義における資料活用の際、資料の用意、貸し出し手続きを行っている。 （一般来館者に対して） 解説希望者への展示解説、博物館講座の企画運営、フィールドワークの企画、引率補助を行っている。	（来館者全員に対して） 多言語での注意事項説明ができるようにする。 （学生に対して） 引き続き資料活用への協力を行う。 （一般来館者に対して） HPやインスタグラムを活用し、博物館講座やフィールドワークの企画を分かりやすく提示する。参加希望者の目に留まりやすくし、イベントの規模拡大を目指す。
	博物館実習への取り組み状況（外部・内部）	（博物館実習外部） 博物館では、博物館実習の受講を希望する外部の学生の受け入れを行っている。外部の実習生に対してはこれまで担当していない。 （博物館実習内部） 展示に使う資料の選定、キャプションの準備、授業での説明を行っている。企画展によっては、実習生はこれを前提に展示作成を行う。また、博物館では展示室当番の受け入れを行っており、実習生に対して当番の仕事の説明、メンテナンスの指示を行っている。	（博物館実習外部） 外部の実習希望生に対して、実習内容や期間を提示できるように実習の企画、準備を行う。 （博物館実習内部） 実習内でできる仕事と博物館側で行うべき仕事を明確にして、実習生が博物館に来て時間を持て余さないようにする。
	ボランティアへの取り組み状況	博物館では月に一回、ボランティアスタッフに対して研修を行っている。前年度に、次年度のボランティア研修で行う内容、日程を決めている。これに基づき学芸員、教授、外部講師が研修を行い、研修の準備、研修への参加をしている。長くボランティアを続けている人への研修以外に、新規参加者に対しての基礎研修も開始した。視覚障がい者対応研修、聴覚障がい者対応研修も実施している。	ボランティア研修のベテラン参加者が毎年同じ内容を聞く研修にならないように、発表の場を設けるなど研修内容に変化をつける。視覚障がい者対応では、名古屋ライトハウスで希望者を募り、視覚に障がいのある方への誘導、展示解説を行う。
	博学連携に対する取り組み	南山高等・中学校男子部へのサテライト展示（博物館実習）、南山高等・中学校女子部への資料貸し出しの際に資料の確認、梱包、運搬、開梱作業を行っている。 名城大学附属高等学校国際クラス、文系クラスへの授業の実施に際しては、ワークショップや授業の補助を行っている。 小中学生向けの模擬授業、中学生の社会科見学、職場体験、高校生の職場体験の受け入れの際には解説、質問への回答を行っている。 ワークショップでは、シルエットクイズ、縄文土器の観察、アイマスクをつけたの資料当てクイズなどを行っている。	南山高等・中学校男子部へのサテライト展示の回数を増やし、展示の入れ替え頻度を上げる。スケッチをするワークショップでは専用のワークシートを作成し、ワークショップの目的を伝わりやすくしたり、達成感を持たせたりすることができるようにする。

区分	点検項目	案	
		現状	課題・展望（具体的に）
展示	過去に企画・制作した展示	①企画展「人類学博物館紀要に載った資料展—土器からどんなことがわかるの?—」(2018年5月18日(金)～6月20日(水)) (資料選定。展示は博物館実習受講生) ②企画展「学芸員おすすめのイッピン展」(2018年9月1日(土)～9月25日(火)) (資料選定。展示は博物館実習受講生) ③特別展「タペストリー展 エチオピアの歴史をつかった女性たち」(2018年10月8日(月)～10月25日(木)) (展示制作) ④企画展「新収蔵品展 早川正一コレクション展—研究と収集の軌跡—」(2019年2月22日(金)～4月30日(火)) (資料選定、展示作成) ⑤「人類学博物館紀要に載った資料展—縄文土器・弥生土器・パンチェン土器—」(2019年5月3日(金)～6月12日(水)) (資料選定。展示は博物館実習受講生) ⑥特別展「カタコンベ研究の世界」(2019年11月11日(月)～12月7日(土)) (展示制作)	博物館実習に関連する展示は学芸員が資料を選定して実習生がパネルや展示の作成を行っており、継続する。実習の展示状況に応じて、導入展示ケースが空にならないよう展示案を複数考え、展示できるようにする。
	展示期間中の来館者数	(授業、キャンパスツアーを含む) ① 1,219 名 ② 453 名 ③ 942 名 ④ 1,336 名 ⑤ 1,412 名 ⑥ 915 名 ※①～④は人類学博物館 2018 年度年報参照。⑤、⑥は現時点での概算。	来館者を増加させるため、展示初日に HP やInstagram にて広報を行う。
	展示に関する工夫	導入展示ケースに入りきらない資料は、展示台を展示室内に置いたり、実習室を展示スペースとして活用したりした。	展示資料の選定に制約が無ければ、近年展示されていない資料を選定する。実習室での授業が無い期間であれば、実習室でも積極的に展示を行う。
収集保存	資料収集は継続的かつ体系的におこなわれているか	現在資料収集を積極的に行っていない。寄贈希望を受けて、資料評価委員会が審議に基づいて受け入れ可否を判断している。そのため、体系的な収集とは言えない。	スペースの問題上、積極的な収集は行わない。
	収集資料の活用状況	寄贈を受けた資料は、新収蔵品展で展示を行っている。その後、博物館実習での展示に利用されることもあるが、基本的には収蔵庫で保管している。歴代の収集資料は展示に活用しているものも含めて、台帳や資料調査カードがあるもの、ないものがあり、正確な収蔵数や種類が把握できていない。	新たに寄贈を受けた資料はそれぞれ台帳を作成し、資料番号、収蔵場所を明確にする。歴代の収集資料は考古資料、民族誌資料、昭和資料に分けて、既存の台帳を基に資料番号や所在、資料の状態を確認する。
	収蔵庫の環境	R 棟収蔵庫では開館時と閉館時に温湿度の確認を行っている。湿度が高い場合は除湿器、低い場合には加湿器を置いて対応している。収蔵庫には棚番号を付けて資料を保管しているが、全体を把握できるようなデータは現状無い。 G 棟、西収蔵庫は温湿度の管理を全くしていないため環境は悪い。資料も整理や調査が十分でないまま放置されている。	G 棟、西収蔵庫にも温湿度計を置いて資料の保存環境を逐一確認するようにする。
	展示室の環境	展示室は開館時、昼、閉館時に温湿度の確認を行っている。収蔵庫と同様に除湿器、加湿器を状況に応じて使用している。団体見学後に資料の確認、必要であれば修復、清掃などを行っている。	閉館時に展示資料に問題が無いか確認を行う。

区分	点検項目	秦	
		現状	課題・展望（具体的に）
ユニバーサル・ミュージアム	ユニバーサル・ミュージアム実現に向けての取り組み状況	年に1回専門家を招聘して、博物館職員、ボランティアスタッフなどを対象にセミナーを開催している（2019年度は聴覚障がい者対応に関して）。ボランティア研修において1年に2回、社会福祉法人名古屋ライトハウス名古屋盲人情報文化センター森幸久氏を招いて、ボランティアスタッフを対象に視覚障がい者対応研修を行っている。人類学博物館の認知度を上げるため、名古屋ライトハウスの機関誌「みちしお」に博物館紹介を掲載した。また、同じくボランティアスタッフを対象に社会福祉法人名古屋市身体障がい者福祉連合会の笹川純子氏を招いて、聴覚障がい者対応に関しての検討を始めた。博物館としてどのような取り組みを行うべきか、美術館での例を踏まえて検討中である。	視覚に障がいのある方の来館が増えたという感触は無いため、視覚障がい者対応、聴覚障がい者対応研修を行っていること、来館を積極的に受け入れたいということが認知されるよう、関係機関と連携し来館者数を増やす。
	自由記述	外部からの資料調査、企画展への貸し出し、教科書への掲載協力や東京大学東洋文化研究所、国立民族学博物館の研究者などへの研究協力を行っている。学芸員が特定の資料に関して調査研究を行うといったことはできていない。 資料の保存に関しては劣化、破損している資料も多く、年に1回資料を選定して外部に修復を依頼している（2019年度は縄文土器）。また、G棟の旧博物館、西収蔵庫、R棟で年に1回燻蒸を行っている。しかし、立地上完璧な効果を得られているとは言い難く、対策が困難である。 教育普及に関しては、公式インスタグラムを開設し、HPでの活動報告と共に写真を掲載して広報活動に取り組んでいる。 現状の問題点としては、学芸員が収蔵資料を対象とした研究を行えていないことである。これを行うためには資料の整理や把握を確実に行うことが必須であるが、学芸員の特別嘱託としての任期の問題、限られた勤務時間、不明瞭な引継ぎからそれすら難しい状況である。南山大学自己点検・評価報告書2017年度（その2）で改善すべき事項として挙げられている人類学博物館の人員、勤務体制の改善への具体的な対処が必要だと考えられる。個人的には、上記に現状と課題を挙げているが少なくとも勤務時間が増えない限り実現は難しいと感じている。	

資料2

【井原】博物館自己点検表

区分	点検項目	井原	
		現状	課題・展望（具体的に）
調査研究	専門の研究分野とそれに関する近年の成果	現在専門の研究分野はなし。	検討中である。 近々方針を固め、取り組んでいく予定である。
	博物館資料に関する研究とそれに関する成果	収蔵資料についての知見を深めるべく、資料に関連する情報収集を行っている。	特に西江雅之氏の資料について、わからないことが多いため、関連する書籍や美術館・博物館を訪問、専門家に尋ねるなどして、さらなる情報収集に努めたい。 G棟収蔵庫に山積みとなっている考古資料のクリーニング、実測、拓本などを行い、収蔵資料として報告できる形にしたい。
	博物館学に関する研究とそれに関する成果	聴覚障がい者の博物館利用を促進するために、博物館として何ができるのかについて検討を行っている。聴覚障がい者にとって、博物館は利用しづらい、積極的に利用しようとは思えない場所であるということが分かった。実際に障がいを持つ方にアドバイスをいただき、実践しているところである。	人類学博物館紀要第38号に現在の取り組みについてを記述した。 次年度の専門家招聘では、聴覚障がい者対応を行っている館の職員を講師に招き、実践例を尋ねる。 手話の展示解説動画の導入、手話を学ぶことも有効である。
	調査研究に関する展望		デジタルアーカイブ化を前提とした、収蔵資料の再調査、台帳整理を行いたい。そのためには、収蔵場所の確定、注記作業の完遂、資料の寸法などの再測定、デジタル写真撮影などが必要になってくる。

区分	点検項目	井原	
		現状	課題・展望（具体的に）
教育普及	来館者（学生・一般）に対するサービスの提供状況	（通常の来館者） 一般見学者への常設展示の解説を行っている。また学内外の学生による授業（考古学・人類学・博物館学）の一環としての見学も多いため、授業の内容に沿った解説を行っている。 （外国人対応） 留学生が見学に来た際、自分の英語力のなさを実感した。多言語表記をし、だれもが楽しめる博物館とうたう以上、スタッフが英語対応できないのは大きな問題だと感じている。 （イベント） 博物館講座やフィールドワークなど、申し込み制のイベントを開催している。講座内容や講師案、フィールドワークの行き先など、前年度以前の参加者のアンケートに基づきながら、検討をしている。	（通常の来館者） 個人来館者・団体の来館者の増加に努めたい。展示解説のスキルを向上させる。そのためには、展示資料に関する知識を得る必要がある。 （外国人対応） 最低限、解説に必要な英語の知識を得る必要がある。 （イベント） 企画を余裕を持って行う必要性を感じる。毎年11月頃から次年度の計画を始めるが、もう少し早い段階から検討を始め、余裕を持って取り組む必要がある。
	博物館実習への取り組み状況（外部・内部）	（外部） 昨年度は学外からの実習生を1名受け入れた。実施内容は、展示作成や展示解説の課題を課した。受け入れ期間は5日間だったが、期間中、実習生にかかりきりとなってしまう、その他業務の遂行に支障をきたした。また、プログラム検討にも事前にかなり時間を要した。 （内部） 学内の実習に関しては、担当教員主導で実施されている。学芸員は、展示に使用する資料の選定、南山高等・中学校男子部にて行う展示の際の資料運搬・補助などを行っている。"	（外部） スムーズに受け入れができるようなプログラムを検討する必要がある。今年度は1名だけであったが、今後複数人の受け入れの可能性もあるため、複数人の受け入れができるようなプログラムも検討する。
	ボランティアへの取り組み状況	ボランティアスタッフのために月に1回、年間11回の研修会を実施している。展示資料についての知識を深めてもらうことを目的として実施している。ボランティアスタッフには、団体見学の申し込みがあった際に、学芸員が展示解説をする際の補助をお願いしている。また、オープンキャンパスなど、大勢が来館する際にも、来館者への解説等をお願いしている。フィールドワークなどのイベントに参加した方にボランティアスタッフについての案内を出している。	ボランティア制度を導入した当初から登録している人は、常設展に関する研修を何度も受けているため、毎年同じ研修内容では物足りなさを感じているだろう。しかし、新しい登録者もいるため、常設展の解説は必要不可欠となる。今後は、経験年数に応じて複数の研修プログラムを検討しなければならない。しかしそれを実現するためには、我々学芸員の知識が必要となる。
	博学連携に対する取り組み	単位校である南山高等・中学校男子部女子部へ毎年、考古資料などを貸し出している。主に、縄文土器や骨角器などを貸し出しており、歴史の授業で使用してもらっている。実物を用いながら行うことで生徒の理解も深まるため、今後も積極的に資料貸し出しを行っている。 また、名城大学付属高等学校との連携事業を行っており、博物館にてワークショップの実施や展示解説などを行っている。	資料の貸出だけでなく、学芸員が出張し、資料について紹介する機会があるとよい。 ワークショップの内容の検討が必要である。 縄文土器を使ったワークショップを実施しているが、その他の資料を使ったワークショップを検討していきたい。まだ具体案は浮かんでいない。

区分	点検項目	井原	
		現状	課題・展望（具体的に）
展示	過去に企画・制作した展示	（当館での展示） 現在行っている企画展の多くは、博物館実習受講生による展示がメインとなるため、学芸員の活躍の場は少ない。資料の選定やポスター作成などを主に行っている。 （明治大学博物館との交換展示） 明治大学博物館とは交流事業として毎年交換展示を行っている。今年度は、赤色を基調とした資料を展示した。考古、民族資料をまたいだ展示を企画し、当館が所蔵する資料を幅広くを紹介した。展示期間中には、明治大学での展示解説も行った。明治大学での本展示を行う前に、当館でリハーサル展示を行った。学生や職員からの批評をもらい、内容の再検討した。	（当館での展示） 展示ケースが空になる期間をなくすべく、学芸員主導の短期間の展示を複数回実施したい。内容については、昭和の民具類の展示を検討している。大型の資料が多いため、収蔵してある G 棟からの運搬が困難であったり、展示ケースに入らないなどの懸念があるため、展示方法に工夫が必要である。西収蔵庫に眠ったままの資料を積極的に展示していきたい。 （明治大学博物館との交換展示） 次年度以降の展示案を早めに検討し、しっかりと準備期間を設けたい。
	展示期間中の来館者数	具体的な企画展名を挙げていないため来館者数については省略する。 明治大学博物館での展示期間中の来館者数は現在確認中である。 リハーサル展示（2019 年 7 月 17 日～8 月 27 日）：940 名	
	展示に関する工夫	（企画展） 年間を通して、展示内容が類似しないように、また、同じコレクション（考古・民族・昭和）の展示が続いてしまわないようにしている。 （常設展示） 触る展示である以上、資料の劣化や汚れだけでなく、資料に付随したタグやテグス類の劣化がみられる。	（企画展） 導入展示だけでなく、実習室の棚や、壁のビクチャーレール、エントランスの壁面など、スペースを活用し、より見どころのある空間にしたい。 （常設展示） 定期的に、メンテナンスを行っているが、見落としてある場合もあるため、管理体制を整える必要がある。
収蔵保存	資料収集は継続的かつ体系的におこなわれているか	寄贈希望の申し入れがあった際にのみ、資料評価委員会を開き、受け入れの可否について審議を行っている。収蔵スペースに限界があるため、博物館側からの積極的な収集は行っていない。また、体系的な受け入れもできていない。	収蔵スペースの確保、既存の収蔵資料の整理、台帳の明確化が必要となる。
	収集資料の活用状況	展示、ワークショップでの使用、他館への借用などがあげられるが、まだ把握しきれていない資料も数多くあり、収蔵庫で眠ったまま、ほこりをかぶってしまっているような資料もあるのが現状である。収蔵庫の管理体制の見直しが必要となる。	収蔵資料の台帳整理が重要となる。所在を把握できていない資料が無数にあるという状況は改善しなければならない。台帳に収蔵場所を反映させるなど、台帳の整理作業を進めたい。また、G 棟の西収蔵庫に収蔵されている、大型の民具なども、定期的にクリーニングを行い、R 棟でも展示できるようにしていく。
	収蔵庫の環境	（R 棟収蔵庫）下記に記した展示室の状況と同じ。 （G 棟・西収蔵庫）旧博物館の G 棟博物館を収蔵スペースとして使用しているが、元展示室ということもあり、収蔵環境としては適していない。	（R 棟収蔵庫）下記同様。 （G 棟・西収蔵庫）収蔵スペースの不足、環境の悪さなどハード面の問題が多い。年 1 回の防虫防カビの燻蒸だけではあまり効果が得られていない。劣化が心配される資料については、別途資料修復、資料燻蒸を行い、各資料に見合った対策を講じていきたい。G 棟に置いておくべきではない資料は R 棟に移動させるなどの検討も必要である。
	展示室の環境	地下にあることから、温湿度管理に苦心している。特に冬場の乾燥が深刻である。加湿器 6 台を稼働させているが、開館時は湿度 30% 台、加湿器を稼働させても 40% 前後を推移している。また、同じく、地下にあること、南山大学の自然環境の問題から、ムカデ等が生息している。展示室内でも何度か死骸を発見している。侵入ルートの特定が難しく、防ぎきれていない。	温湿度管理についての知識を深め、より適切な方法を検討したい。 また、虫の侵入経路の特定や虫が好む環境を作らぬよう徹底する。IPM の考えに従い、定期的なメンテナンスを行っていく。

区分	点検項目	井原	
		現状	課題・展望（具体的に）
ユニバーサル・ミュージアム	ユニバーサル・ミュージアム実現に向けての取り組み状況	視覚障がい者へ適切な対応ができるように、博物館スタッフ、ボランティアスタッフは視覚障がい者対応講習を受講している。講師を名古屋ライトハウスの森氏に依頼し、視覚障がいについての理解を深めるための講義や、館内の案内の仕方、触察の方法などを実際に誘導をしながら知識を深めている。 また、最近では聴覚障がい者対応も検討を始めている。美術と手話プロジェクトの方よりアドバイスを受けながら、聴覚障がい者がより博物館を利用しやすくなるよう実践を始めた。	スタッフの研修を行ってはいるが、障がいを持つ方の来館はまだ多くはない。障がいがあると、駅から博物館へ一人で行くことに抵抗や不安があり、来館したくてもできずにいるという声があった。より多くの方に利用してもらうために、名古屋市で視覚障がい者への情報発信を行っている名古屋ライトハウスと協力してもらい、視覚障がい者向けの見学会の企画を検討している。駅から博物館までの誘導付きで、博物館を見学できるイベントを企画したい。 聴覚障がい者対応については検討を始めたばかりであるため、今後も専門家の意見を聞きながら進めていきたい。
	自由記述	業務全体を通して、前職員との引継ぎがうまくいっていないことが問題としてあげられる。ほとんどすべての業務、イベントについての引継ぎを受けないまま業務にあたっているため、全て試行錯誤の繰り返しで、余計な時間を要してしまった。職員間の引継ぎをスムーズに行えるように、マニュアルの作成、ワークショップなどのプログラムの明文化、作業の進捗状況など、記録を残していくことを大切にしたい。	

博物館実習生対象アンケート

好きな博物館の種別	件数
歴史・民俗・民族系	10
美術館	7
自然史系	3
理工系	1

最近行った博物館	件数
名古屋市美術館	5
名古屋市博物館	4
名古屋市科学館	3
みよし市歴史民俗資料館	2
野球殿堂博物館	1
明治大学博物館	1
兵庫県立美術館	1
名古屋市立歴史博物館	1
東京国立博物館	1
東京国立近代美術館	1
聖パウロ大聖堂・博物館	1
国立科学博物館	1
北名古屋市博物館	1
愛知県芸文センター	1

展示について良い点	件数
さわれる	14
迫力がある	3
展示との距離が近い	3
館内の色がよい	3
バリエーションが豊富	2
点字キャプション・解説がある	2
本が豊富	1
バリアフリーである	1
展示室の広さ、資料の量が適切である	1
収蔵庫の中が見られる	1
企画展等で南山にない資料を見ることができる。	1
大きな展示物を様々な角度から観察できる	1

展示について改善すべき点	件数
引き出しが利用しにくい	5
高いところの展示が見にくい	4
破損している資料がある	2
解説が少ない	2
誘導のためのポップなどがあると良い	1
ほこりをかぶっている資料がある	1
常設展示とレファレンスルームに置いてある本を関連付けてみてもいいのでは。	1
展示の入れ替える頻度が少ない	1
収蔵庫内の資料をもっと出すべき	1
企画展もさわれるものにする	1
カヌー付近の導線	1

博物館実習での博物館利用について良い点	件数
授業内でもすぐに資料に触って実習を進められる	7
収蔵庫内に入ることができる	4
資料についての知識が増える	3
レファレンスルームとの併用で知識が深まる	1
本物の資料にさわられる	1
展示当番の際にも資料を細かく見ることができる	1
資料を利用してワークショップができる	1
資料の展示方法や保存方法が学べる	1
実習室があり、そこで作業できる	1
インターンシップのようでよい経験になる	1

博物館実習での博物館利用について改善すべき点	件数
備品の保管場所がわかりにくい	3
授業数が少ない	3
実習で使うパソコンが使いにくい。	2
展示当番中の業務が少ない	1
展示室当番の時間を減らし、その分授業数を増やしてほしい	1
実習で企画展示を作った後、その解説を行う機会が少ない	1
TA が仕事ができると実習生の成長が望めない	1
G 棟収蔵庫の環境改善	1

博物館実習以外での博物館利用について良い点	件数
レファレンスの本が豊富	5
学内にあると利用しやすい	5
団体予約をし、学芸員の解説を受けることができる	3
さわれる	2
無料である	1
展示がわかりやすい	1
他大学博物館との交換展示が見られる	1
他館の情報も入手できる	1
写真撮影ができる	1

博物館実習以外での博物館利用について改善すべき点	件数
知名度を上げるアピールをすべき	4
場所がわかりにくい	3
さわることを遠慮している人も多い	2
レファレンスの本を貸出してほしい	1
引き出しの存在がわかりにくい	1

博物館への要望	件数
学内にもっとアピールすべき	3
レファレンスルームの本の貸し出し	1
ユニバーサルミュージアムとしての今のスタイルを、今後も継続してほしい	1
民族衣装の試着コーナー設置	1
資料についての解説を増やす	1
常設展示の入れ替え	1
企画展示もさわる展示にしてほしい	1
G 棟地下の博物館をもう少し気軽に使いたい	1

TA（授業補助の学生）対象アンケート

学部	学年	専門領域	卒論テーマ（4年生）	最近行った博物館
人間文化研究科人類学専攻 博士前期課程	院 1	人類学	沖縄県の地域儀礼	豊田市美術館 国立科学博物館
人文学部	4	近現代日本文化史	1950 年～ 1960 年代の日本におけるテレビと映画の関係性	名古屋市美術館
人文学部	4	地域文化	新たな価値を提供する博物館 -INAX ライブミュージアムを事例として	愛知県美術館 豊田市美術館

展示について良い点
資料の豊富さ、コレクションが充実していること
展示資料の活用が容易である
資料に触れる・近くで観察できる
触って、五感で楽しめる

展示について改善すべき点
折れ曲がったキャプションがある
高い位置の土器が見にくい

博物館実習での博物館利用について良い点
充実した資料と環境の下、実際の博物館業務に近い実習を行うことが可能である
触れることで、他館ではできない展示の企画ができる
自分の大学で博物館実習ができる

博物館実習での博物館利用について改善すべき点
マンネリ化しているところもあるので、より多くの種類の資料を扱えるようにすべき
気軽に資料に触れるため、実習で丁寧な扱いをしなくなることがある

博物館実習以外での博物館利用について
卒論執筆での利用、学生の研究に役立つ
ほぼ実習での利用
授業以外でもっと学生に活用して欲しい

博物館への要望
価値のある博物館なのでもっと広く活用されるよう存在を広めて欲しい
たくさんの収蔵資料をもっと展示してほしい。もっと広いスペースがあるとよい

学生アルバイト対象アンケート

アルバイトの動機	件数
博物館に興味がある	8
学芸員を目指している	4
人類学・考古学を学んでいる	2
勧誘	1

好きな博物館の種別	件数
歴史・民俗・民族系	9
自然史系	6
美術館	2
理工系	1

最近行った博物館	件数
徳川美術館	3
名古屋市科学館	2
東京国立博物館	2
宮古島市総合博物館	1
江戸東京博物館	1
陝西歴史博物館	1
松本市立博物館	1
魚津埋没林博物館	1
名古屋市博物館	1

勤務以外での博物館の利用方法	件数
授業での利用	3
授業のためレファレンスの資料利用	3
企画展見学	2
個人的に見学	1
展示解説・案内	1
触れる博物館としてどのような工夫やアイデアがあるのか学ぶために利用する。	1
自分の学習・研究	1

人類学博物館の良い点	件数
資料に触ることができる	9
ユニバーサルミュージアムを目指している	4
資料が豊富	2
説明がないから使用方法を考えることができる	2
決まった道順が無いいため、来館者は好きなところや気になったところをすぐ見ることができる。	1
レファレンスルームの本が充実している	1
無料である	1
ビューボードがある	1
ジャンルの幅が広い	1
博物館内がきれいで展示が見やすい。	1
当館以外の博物館についての情報を豊富に提供されている点。	1
他の博物館と連携して企画展を定期的に実施し、ギャラリートークなども行っている点。	1
写真撮影ができる	1
コミュニケーションが取れる	1
クイズが置いてあることで、ただ展示を見るだけでなく、楽しみながら資料のことにについて学んでもらえる。	1
学生が自由に学習し、研究ができる	1

改善点 集計用	件数
場所が分かりづらい	4
レファレンスの本を借りたいが、貸出不可であること	3
博物館にはまだたくさん資料があるのにスペースが足りないため展示することができない	2
学生の利用頻度、認知度が低い	3
上の方に置いてある資料が見にくい	2
破損の危険がある	1
展示室内に学芸員が常駐していない	1
解説が少ない・リーフレットなどあるとよい	2
触る展示を行っているが、本当に触って良いのか不安になる点	1
音声や映像を使った展示があると良い	1
本物の資料を直接触ることが可能ではあるが、資料に関する知識が一定程度無いと、ただ「触る」という経験のみで終わってしまう	2
オリジナルグッズが少ない	1
G棟収蔵庫の環境が悪い	1

業務上の良い点	件数
資料に対する知識を得ながら働くことができる	4
学芸員・博物館の仕事を学ぶことができる（教員、学芸員、先輩アルバイトから）	5
収蔵庫内の資料にも触れることができる	2
自分の興味のある分野について学ぶことができる	2
環境が良い	2
学外ではなかなか出来ない図書の業務に関われる	2
夏休みの小学生向け講座や、オープンキャンパスなどイベントの勤務があるのが楽しい	1
パソコン、OFFICEの使い方を学べる点	1
授業のない時間を利用して勤務できる	1
自分が元々知らなかった分野についても興味を持つことができる	1
様々な遺跡の発掘地が覚えられる	1
業務内で得た知識を授業でも活用できる	1
作業を任せてもらえるので、自分の気づいた点を業務内容に取り入れてもらえる	1

2019 年度博物館実習生の課題レポート

所属学部	所属学科	学年	課題	対応策案
人文	人類文化	3 年	博物館の講座などに学生の参加が少ない	ゼミでパンフレットなどを配布してもらう
人文	人類文化	3 年	博物館の講座などに学生の参加が少ない	子供向けの触る展示を活かしたプログラムを増やす
人文	人類文化	3 年	南山生の認知度が低い	ラーニングコモンズのような場を作り、考古学や人類学を学ぶ学生が常時博物館で学べるようにする
人文	人類文化	3 年	南山生の認知度が低い	授業での活用が不可欠である
人文	人類文化	3 年	南山生の認知度が低い	考古学や人類学の勉強会を開く
人文	キリスト教	4 年	情報が学芸員養成課程を履修している学生以外には行き届きにくい	SNS の活用
人文	キリスト教	4 年	学生が能動的に人類学博物館と関わることが出来るイベントや企画が少ない	オリジナルグッズやアンケートのノベルティのデザインを大学全体で募集する
人文	人類文化	4 年	人類学博物館のことを知らない学生が多い	ポスターを作って存在をアピールする
人文	人類文化	4 年	人類学博物館のことを知らない学生が多い	学内向けの定期的ワークショップ等のイベント開催
人文	人類文化	4 年	他の学生に利用が少ない	わかりやすい展示にすることが必要
人文	人類文化	4 年		博物館資料のデジタル化を図る。それによって利用者それぞれの学びに還元できる
人文	人類文化	4 年		言語対応を強化する。多言語の解説を音声でも行う
人文	人類文化	4 年	映像や音楽が少ない	電子機器を導入して、わかりやすい解説をつくる
人文	人類文化	3 年		音声ガイドを導入する
人文	人類文化	3 年	南山の学生があまり来館しない	学内にポスターの掲示を増やす
人文	人類文化	3 年	南山の学生があまり来館しない	HP にアクセスしやすい地図などを掲載する
人文	日本文化	3 年	南山生であっても博物館に行ったことのない学生が一定数いる	学内向けの定期的ワークショップ等のイベント開催
総合政策	総合政策	3 年	学生や一度訪れた来館者が頻繁に利用する施設ではない	資料梱包や資料調査などを来館者向けにやってみる
総合政策	総合政策	3 年	学生や一度訪れた来館者が頻繁に利用する施設ではない	A i や電子解説パネル、案内ロボットの導入する
人文	人類文化	2 年	来館者が少ない	ポスターの数を増やしたり、ネットで情報発信をしたりする
人文	キリスト教	4 年	学生の来館が少ない	学内誌に博物館の紹介ページを入れたり、ポスターの増刷、サテライト展示の実施
人文	キリスト教	4 年	学生の来館が少ない	授業で博物館を使ってもらうために、博物館側から積極的に授業に関わる
人文	心理人間	4 年	利用者が少ない	人類学博物館を知らない人を減らすためにポスターでの広報や案内をわかりやすくする
人文	心理人間	4 年	利用者が少ない	一般の人に向けては HP やインスタグラムなどのネット発信を重視する
総合政策	総合政策	4 年	学生の利用が少ない	ポスターの掲示を増やす。ポスターに QR コードを付けてインスタグラムや web につながるようにする
総合政策	総合政策	4 年	学生の利用が少ない	ジオラマや展示品の一部を博物館外で展示する
総合政策	総合政策	4 年	学生の利用が少ない	入学式や大学祭の際にグッズやチラシを配布する
総合政策	総合政策	4 年	学生の利用が少ない	留学生向けの取組みを実施する
人文	人類文化	3 年	学生の博物館に対する認知度が低い	ポスターなどの掲示を増やす
人文	人類文化	3 年	博物館に来たことのない学生が多い	ポスターの掲示を増やす
人文	人類文化	3 年	博物館に来たことのない学生が多い	入口をわかりやすくする
人文	人類文化	3 年	博物館に来たことのない学生が多い	サテライト展示を学内でおこなう
人文	人類文化	3 年	博物館に来たことのない学生が多い	学校団体の受入の増加を図る
人文	人類文化	3 年	博物館に来たことのない学生が多い	名古屋大学博物館、東山動植物園等との連携を強める
人文	人類文化	3 年	南山生の認知度が低い	学生が集える場を作る
人文	人類文化	4 年		体験学習のための設備を作る
人文	人類文化	4 年	土器のコーナーにはたくさんの土器が展示されているが、上の資料は鑑賞できない。	階段型のものを設置する
人文	人類文化	4 年	覗きケースの蓋は外せることが認知されていない	ケースに把手をつけたり、開けられることを示した説明をつける
人文	人類文化	4 年		展示替えをしてほしい
人文	人類文化	4 年		もとの展示資料は写真や解説を冊子にまとめておく
人文	人類文化	4 年		日本史ダイジェストコーナーのような展示を作る
人文	人類文化	4 年		デジタル技術を導入し、映像や音声で情報を提供する
人文	人類文化	4 年		タッチパネルで過去の企画展示を見せる
人文	人類文化	4 年		バックヤードツアーなど博物館資料に親しむ機会を作る
人文	人類文化	4 年	情報が得にくい考古資料が見過ごされがち	わかりやすい展示にすることが必要
人文	人類文化	3 年	高い位置にある展示は触ることが難しい	動かせる棚を設置する
人文	人類文化	2 年		デジタルコンテンツの導入
人文	人類文化	2 年	資料の説明が少ない	資料に関する情報を増やす
人文	人類文化	4 年	レファレンスの図書を借り出しができない	貸出が難しければ、レファレンスが使えないときに閲覧する場所を提供してほしい
人文	人類文化	2 年	ユニバーサルの観点から	地域の老人ホームなどへの出張博物館
人文	人類文化	2 年	ユニバーサルの観点から	南山のボランティアサークルと連携した取り組みを実施
人文	人類文化	3 年	ユニバーサルの観点から	視覚障がい者には事前に予約してもらい、スタッフが介助する
人文	人類文化	3 年	ユニバーサルの観点から	視覚障がい者向けに触覚と対話を使ったゲームを行う
人文	人類文化	3 年	ユニバーサルの観点から	聴覚障がい者向けのプログラムを用意する

ボランティア・スタッフ聞き取り

2020年1月11日実施

①人類学博物館全般について、良いと思う点

- ・通史的な展示を行う一般的な博物館と違って、コレクター別の展示になっており、説明がしやすい。
- ・触る展示。
- ・明るい展示、見やすい。→劣化は大丈夫なのか。→デリケートな資料はないため、このままで問題ない。全体的に明るい、ポイントで明るさを変えることはできないのか。場所によって光度が違っていると、よりメリハリが出る。→個別に光度が変えられない。
- ・車椅子利用者への配慮（展示台の高さ）
- ・ビューボードがあること。書くことも、他の人が書いたものをみるのも楽しめる。
- ・禁止事項が多い博物館は肩身が狭いため、あまり禁止事項がないため気楽に見学できる。

②改善すべき点

【展示室】

- ・活字による情報をもう少し増やしてほしい。コレクションの説明だけでなく、資料についての説明など。例えば、縄文土器の説明。
- ・展示内容、ねらいがわかるように。→エントランスに書いてある…団体見学の際に、エントランスで全体の概要説明をしたうえで、展示解説を行うべき。
- ・事前に博物館について知ったうえで来館すると、より理解しやすくなる。→ホームページで見どころを紹介する。
- ・展示替えがほばないため、リピーターが来ない。
- ・年間の目標・ターゲットを明確にする。

【広報】

- ・南山生でも知らない学生が多いため、学内への広報を検討すべき。
- ・愛知県内には博物館がある大学は、名古屋大学・中部大学・南山大学の3大学しかない。
- ・貴重な存在であることを理解すべき。
- ・記者クラブに売り込み、中日新聞の無料掲載への投稿。

③ボランティア研修の良い点

- ・いろいろな人（世代や好みが異なる人）と話ができること。
- ・黒澤先生のモノの見方の話がいつも面白い。
- ・知らないことをたくさん学ぶことができる。

④改善点

- ・特別展（企画展）の勉強会を短時間でもいいので、随時してほしい→コンセプトや展示した人（学生・学芸員・明治交換展 etc）について少し知りたい。導入展示ケースのみ解説ができない。
- ・求められる立ち位置が不明。一流の解説員なのか、サポートでいいのか。
- ・事前に研修の資料が欲しい。

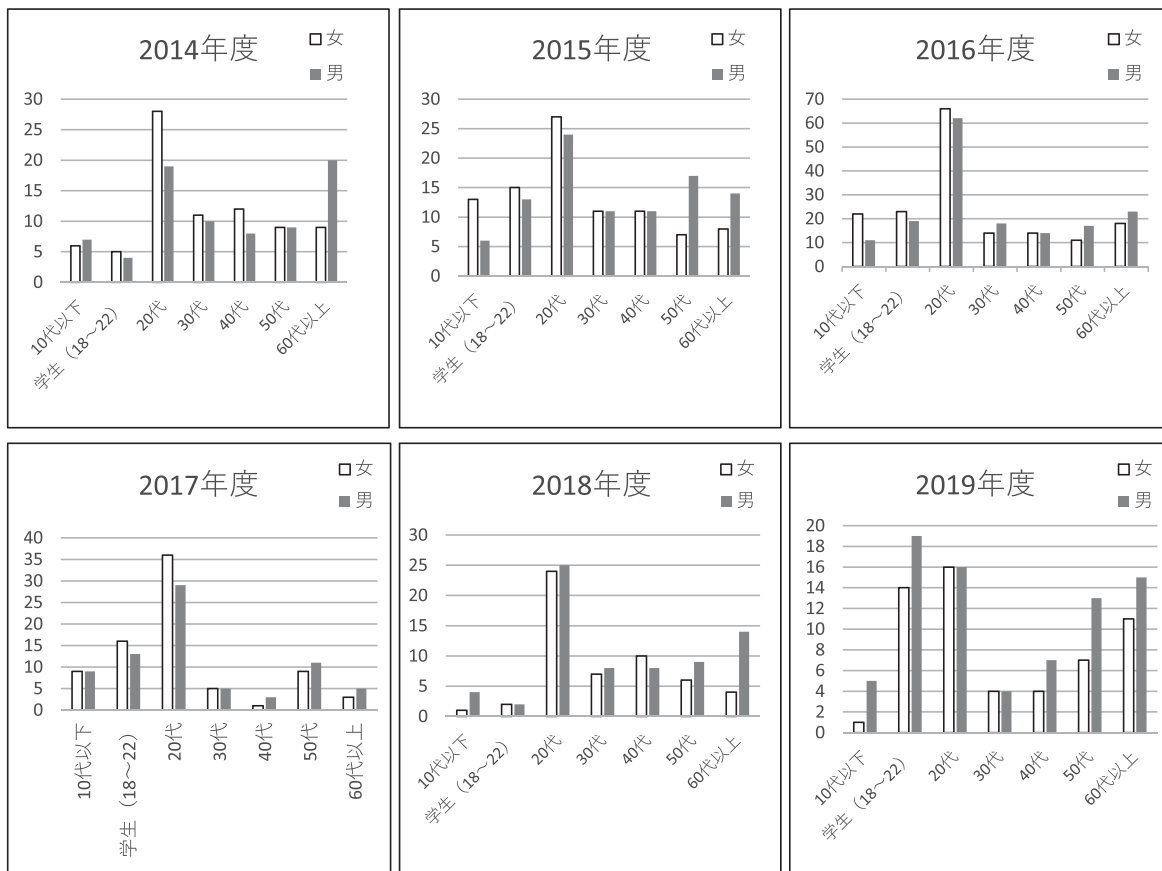
⑤展示解説以外でやってみたいこと

- ・子供向けワークショップ
- ・収蔵品の整理や展示のお手伝い
- ・ものづくり（貝輪）
- ・発掘
- ・関連遺跡の見学

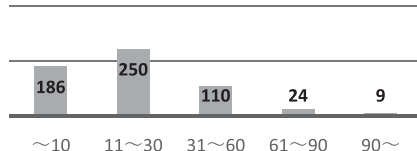
⑥要望

- ・ガイドブック・解説本がほしい。
- ・もっと存在を外にアピールすべき。
- ・Wi-Fiがつながってほしい（場所の説明をする際に、グーグルマップとかを用いたい）。
- ・フィールドワークを年に2回くらいしてほしい。

博物館実習生による来館者調査

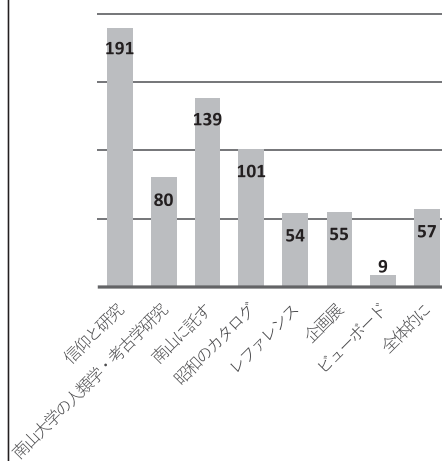


滞在時間（単位：分）



最長見学コーナー

（単位：件）



見学時間が長かった資料

分類	個別資料（件数）
土器	縄文 弥生 火焰 加曾利 山中 (total 115)
昭和の資料	全般的に(30) テレビ(19) 冷蔵庫(16) 洗濯機(11) 電子レンジ(9) カメラ(5) ウォークマン(4)
西北タイ資料	太鼓(31) 銀製品・アクセサリ(13) 楽器類全般(12) 評皇券牒と十八神像(8) タイの農具(2)
今泉コレクション	位階象徴像(15) 儀礼用ブタ叩き棒(12) 女性彫像(7) 棍棒(4) 火踊り用の仮面(4) スリットゴング(3) シャコガイ製位階章(2) ブーメラン(2) 祝宴用鉢(2) 男性彫像(2)
石器	アシュール マドレーヌ マリンガーコレクション (total 46)
アウフェンアンガーコレクション	精霊像(11) アウフェンアンガー全体(7) ヤムイモ収穫儀礼用仮面(4) ガラガラ(3) コガネムシ製頭飾り(2) ブーメラン(2) ヒクイドリ羽根製頭飾り(1)
西江コレクション	人像(8) 昆虫標本(2) ストーリーボード(1) 親指ピアノ(1)
東ニューギニア資料	石斧(7) コヤス貝製額飾り(2) コガネムシ製頭飾り(2)
カヌー	(19)
企画展	(19)
レファレンス書籍	(17)
魔鏡	(16)
大須二子山古墳出土資料	(11)
土偶	(5)

2019 年度来館者アンケート集計

22. 意見・感想	
1. 満足・また来たい	大学内とは思えないクオリティで、大変満足이었습니다。
	全ての展示物に点字があって素晴らしかった。
	静かでゆっくりできて、また来たいと思います。
	人類学についてもっと深く知りたいと思いました。先生のネアンデルタール人などのお話も興味深かったです。
	初めて訪問させていただきましたが、とても興味深い体験でした。
	自分がこういう歴史ものが好きなのですぐ見るのにドキドキしました。
	今後も一般公開講座など参加してみたい。
	興味深く拝見させていただきました。ありがとうございました。
	期待以上でした。近ければ夏休みの自由研究に利用したかった。
	移転する前の少し怪しげな雰囲気の時は何って見たかったのですが、地下階というワクワク感ときれいな展示スペースで楽しんで過ごせました。
	とてもきれいで思っていた以上に多くの展示物があった 卒業生だが全く知らなかった。
	いろいろな展示（今まで見たことのない展示もあり）は、とても興味を持ちました。
	中学生が見学すると良いのでは。
	職員さんの説明がとても面白かったです。ただ宝さがしも楽しいのですが、見どころが教えてもらえてよかったです。
2. もっと詳しい説明が欲しい	どのように使用していたか分かりやすいと嬉しい。
	判明しているものだけでも制作方法など知りたいと思った。
	石器に使われている石の名前を書いてほしい。
	「さわる」という体験をぜひ、小中学生くらいの子供たちにもさせてあげてほしい。
	宝さがしがとても楽しかったので、どんどん新しいものを作ってほしいです。子供が夢中になっていました。解答と一緒に詳しい解説があるとためになると思います。
	展示物の説明に、先生がお話してくださったことなども POP のようにいくつかあるとよい。
	世界でどの順番で進化が早かったか（人間）解説がほしい。
	大人でも読みにくい漢字もあり、子供に聞かれるのでふりがなをふってあるとわかりやすいと思いました。
	骨の進化をきちんと書いてほしい。子供でも分かるように。
	もっと掘り下げたキャプションが数点あってもよかった。
	展示物 1 つ 1 つの時代が記してなかったのはわかりづらかった。
3. イベントや講座を増やしてほしい	時代背景やより詳細な説明があるとより良いので QR コードを読み取ると先生が解説しているのを見られる等あればよい。
	今後も子供たちの為にも今回のようなイベントを実施していただきたい。
	何かの地域イベントの場所にも提供したり、企業の社会見学勉強にもなると思いました。
	実際に資料を使ってみるイベントなどあるといいと思う。
	卒業生向けの限定企画をやってください。
	市民講座（初心者向き）
	沢山のイベント企画をしてください。
	展示物などについて話を聞ける機会などあれば参加したいです。ミニ講義のような。
4. もっと広報すべき	地域の人に向けて、いろんな講座を開催してもらい、それを広く宣伝して欲しいです。友人に教えてもらうまで知らなかったの。
	誰でも入れるとは知らなかった。
	来ることができてよかった。広報に力を入れてください。興味ある人は探せばいますよ、頑張ってください。
	近所に在住だが存在を知らなかった。知っていたらもっと早くに来ていた。
	とても貴重な資料に触れることができることをもっとアピールすべき。もったいない。
	このような博物館があったことは全く知らなかったの、もっと広報する方がよい。
	いつでも気軽に立ち寄れて、新しいことが学べる場所であってほしいと思います。
	もっと全国的に紹介したら良いと思います。素晴らしい展示をありがとうございました。スタッフの方達の知識も豊富で素敵でした。
	広報活動を積極的に行ってほしい。（明大との関係で時々展示を見ていたが）

5. さわれるのが良い	展示物に触れる機会はあまり無いので、とてもわくわくしたし、勉強になりました。
	宣伝して人が増えすぎるとさわれなくなりそうなので今ぐらいが丁度よさそうです。
	実際に触ることができて楽しかったです。
	どんなに昔の物でも触れることができるのは、他にはない楽しさがある。また来たい。
	“Dont touch” の場所が多い中、触れて良いというのは私にとって衝撃でした。
6. 居心地のいい空間	歴史を感じることができました。
	統一感があってよい。点字がすべてについていて配慮がされているのがすごいと思う。照明が見やすくてよかった。アンケートコーナーの机といすがおしゃれ。
	展示コーナーの照明が心地よかった。通底する1つの切り口から時代や地域をまたいだ展示コーナーの企画もおもしろかった。
	照明や天井高や床のじゅうたん等、とても落ち着く空間でした。
	何時間でもいられそうです。とても居心地がよくて最高でした。
	落書きコーナー楽しかったです。ペン増やしてほしいです。
7. 場所がわかりにくい	地図が分かりにくい。
	エレベーターがあるのか分からなかった。階段では、目の不自由な方には行きにくいと思う。
	入り口がよくわからない。
	今日は学園祭だが開館しているのかどうかわかりにくかった。
8. 展示を増やしてほしい	絵画とかもいいけど世界の戦争とかの詳細も知りたい。
	アメリカ系の展示をやってほしいです。
	二子山・志段味・地元名古屋の出土器をもっと見たい。
	アフリカ（人類誕生の地）のものを集めて欲しい。
	鉄器もみたい。
	日本の物を増やしてほしい。

2019 Assessment of Nanzan University Museum of Anthropology

KUROSAWA Hiroshi

In 2019, six years after the renewal of Nanzan University Museum of Anthropology in October, 2013, an assessment was carried out on this occasion about the museum's activity and management for the past five years by the Assessment Committee consisted of extra-university members in order to make future guidelines.

Some methods have been suggested for the museum assessment: (1) examination based on a certain criteria, (2) inspection by installers, (3) inspection by the museum itself, (4) verification on the premise of improvement and development, (5) assessment of the quality by specialists, and (6) viewpoint of monitoring by users. We decided to use these method by modifying some points in order to fit our museum.

The Committee pointed out many problems in terms of the activity of the museum. These are: (1) the lack of ideology of museum management and therefore the lack of middle- and long term plans makes the evaluators fail to assess the museum properly; also lacking proper organization. (2) the lack of clear guidelines for collecting items. (3) the necessity of sufficient data and evidence to quantitatively show efforts of the museum's activity.

Following such a strict criticism, we decided to formulate action plans and middle- and long term plans, as well as construct the ideology, mission, and the role of our museum, so that we may establish the proper form of it. Although we were strictly evaluated by the Committee, the result is important and agreeable in order to properly function our museum in future.

常見純一氏研究資料の受け入れと整理状況について

井原瑠梨

はじめに

2018年11月に千葉県浦安市郷土博物館から、「人類学博物館に関連する資料が処分の対象になっている」という旨の連絡を受けた。その処分対象になっている資料とは、人類学者の故 常見純一氏（淑徳大学教授）研究資料のことで、タイ・ユーミエン族の脚絆をはじめとする実物資料数点や常見氏の論文原稿やフィールドノート、論文の抜き刷り、ネガやオープンリール類などである。

当館では、上智大学西北タイ歴史・文化調査団が1969～74年にかけて計3回実施した調査において収集された資料を所蔵・展示している。常見氏はこの調査の第2次調査（1971～72年）に参加した。また、1992年に南山大学人類学研究所が主催した講演会にも登壇した（註1）。こうした背景から、常見氏の資料を受け入れる運びとなった。

本稿では、当資料の来歴や受け入れ後の整理状況について報告する。

1. 常見純一氏と浦安市

まず、常見氏の資料が浦安市郷土博物館に預けられていた経緯について説明する。

浦安市が漁業権を全面放棄した1971年、当時の東邦大学の学生23名が「漁村問題調査研究自主ゼミナール（通称「漁研ゼミ」）」を組織し、浦安市を中心に千葉県内の変貌する漁村を調査研究する活動を開始した。これは当時、東邦大学非常勤講師だった常見氏による呼びかけのもとで組織された（漁村文化研究会2017）。

漁研ゼミのメンバーは大学卒業後も、自らの仕事の休暇を使って、浦安市内を歩いて調査を行い、消えゆく運命であった貴重な漁撈用具を収集し、長年保管してきた。収集品が膨大になってきたことから、浦安市に寄贈を打診したものの、当時の郷土資料館では受け

入れが不可能とのことで、常見氏との協議の上、1976年3月に国立民族学博物館に資料の大部分が収蔵されることになった。以来、国立民族学博物館の常設展示の東アジア・日本の展示コーナーでは、漁研ゼミの収集品が紹介されている（漁村文化研究会2017）。

その後、漁研ゼミは「漁村文化研究会」と会の名前を改め、引き続き聞き取り調査を続けた。1987年には、常見氏が団長となって調査をしていた船橋市民俗文化財緊急調査団から船橋市の漁業集落の調査を依頼されることになった。国立民族学博物館に主な収集品を寄贈したのち、収集品を保管する場所がないため、ものを収集しないようにしていたが、船橋市での調査に伴い、再び収集品が増加の一途をたどることになった。一時は常見氏が在籍していた淑徳大学の倉庫に収めていたものの、1992年3月に常見氏が急逝したことに伴い、収集品は転々とし、1998年頃になってようやく旧浦安市郷土資料館に寄託されることになった（漁村文化研究会2017）。

2010年から、寄託資料を正式に寄贈するために、現研究会メンバー3名の手によって整理作業が行われ、2016年に実物資料650点が浦安市郷土博物館に寄贈された。

なお、漁村文化研究会は漁撈文化を後世に伝える働きが認められ、2017年度に浦安市教育功労者、2019年度に千葉県文化財保護功労者として表彰されている（註2）。

資料を寄贈するために行われた整理作業において、寄託資料の中に常見氏の研究資料が多く含まれていることが判明した。処分をしてしまうのは忍びないと感じた浦安市郷土博物館の学芸員が受け入れ先を検討する中で、常見氏が参加した上智大学西北タイ歴史・文化調査団資料があることから当館が候補に挙がった（註3）。

沖縄関連資料は名護市の博物館へ、千葉県に関連する資料は浦安市郷土博物館でそれぞれ受け入れられ、残りの資料全てを当館が受け入れる運びとなった。

なお、常見氏が在籍していた淑徳大学関連資料もあるため、過去に淑徳大学との調整も行われたが、受け

入れには至らなかった。

1996 年頃に故 比嘉政夫氏（上智大学西北タイ歴史・文化調査団員の一人）が漁村文化研究会のメンバー宛てに送った、常見氏の資料の移動について言及したメールを紹介する（註 4）。

「常見純一氏の研究室に残された資料・書籍の処理についての私見」

重要な遺産であるので、後々問題を残さないために、少なくとも、以下のことについて確認しないと比嘉のところに資料等を移動させることに躊躇せざるをえない。

1. 蔵書は人類学・民族学に関するものが多いと思われるので、ご自宅の蔵書とともに「常見文庫」としてまとめて扱う。常見教授と関わりの深かった大学などの研究機関に引き取ってもらうのが理想的である。書店に譲渡も良し。それが決まらないままに比嘉のところに移動させることは後に問題を残すのではないか。

寄贈・譲渡いずれにせよ、蔵書目録を作る必要があるが、誰がやるか。

寄贈先の研究機関や譲渡先の書店にやってもらうことも一案。

2. 船橋市の調査など漁村文化研究会の共同調査の資料と分別して、研究会のメンバーが引き継ぐ。常見夫人もしくはご子息の立合・確認のもとで行う。

3. 常見氏の沖縄調査の資料は分別して、比嘉が整理・編集して出来れば近い将来、常見教授の遺稿集として世に出したい。ご家族を交え、南山大学の倉田教授と作業の連携など細かな計画・打合せが必要である。作業日程・整理の協力依頼などの打ち合わせをどう進めるか。

4. その他作業の過程で起こりうると予想されることについては、1996 年 7 月 14 日の作業の前に、ご家族、研究会のメンバーが話し合うこと。

このやりとりの後、研究会のメンバーと常見氏のご遺族の間で話し合いがもたれ、すべての資料が東京の比嘉氏宅へ運ばれ、その後に浦安市郷土博物館へ寄託されたという記録が残っている（註 5）。

なお、話題に上がっている蔵書などは受け入れた資料の中に含まれていなかった。

2. 受け入れにあたって

2018 年 11 月 20 日に浦安市郷土博物館から最初の連絡をもらって以降、メールにて資料の詳細や経緯に

ついて説明を受けた。上智大学西北タイ歴史・文化調査団資料に関連するものを含んでいることから、受け入れの方向で検討を進めた。現物を確認するために、資料の郵送を依頼し、12 月 10 日に段ボール（140 サイズ）6 箱と地図が入った筒 2 本を収受した。

その後、学芸員 2 名と学生アルバイト 3 名の手によって全資料のリストアップ作業を行った。資料を 1 点ずつ確認し、「分類（資料形態）」「名称（タイトルがあれば）」「個数」「地域」「日時」「備考」の項目に分けて記入し、A4 用紙 48 枚にわたる手書きリスト（図 1）を完成させた。備考欄には、資料の特定につながるように、資料が入っている封筒・ファイルに記載されている文字や、何枚綴りであるかなどの情報を記入している。

その後、当資料は 2019 年 2 月 29 日に開催された 2018 年度第 2 回南山大学人類学博物館資料評価委員会の審議にかけられ、「常見純一氏研究資料」として受け入れが決定した。資料評価委員会での審議の結果、個人情報を含む資料の廃棄、国内資料に関しては、今後、再移管の可能性もありうるという条件の下で受け入れることになった。

3. 整理状況

受け入れ後、2019 年 5 月に資料の燻蒸処理を行い、中性紙箱に移し替えた（図 2）。分類は以下のとおりである。

- | | |
|-----------|---------------|
| 箱 1. 2 | スライド、ネガ類 |
| 箱 3 | オープンリール、カセット類 |
| 箱 4. 11 | ノート類 |
| 箱 5. 6. 7 | 文献類 |
| 箱 8. 9 | 原稿 |
| 箱 10 | その他 |

2020 年 2 月には手書きリストの情報をエクセル台帳に入力し直した。手書きリストの文字が不明瞭であったところや変換できなかった漢字などは、「■」としている。なお、台帳の「No.」は便宜上つけたものであるため、資料とリストを結びつける番号ではない。

その後、完成したエクセル台帳と資料の照合作業を行った。どの箱に入っているのかを 1 点ずつ確認し、リストの「箱番号」の項目に箱番号を示す 1～11 の数字を入力した。見つからなかった資料、判断がつかなかった資料は、箱番号の欄が空欄になっている。引き続き資料の照合を行い、リストの空欄を減らしていく。

本稿の最後には、2020 年 10 月現在の資料台帳を掲載した。

4. 資料の概要

実物資料 (図3)

ユーミエン (ヤオ) 族の脚絆、パチンコ、ひしゃく、キャンドル、竹製の矢、腰蓑、インドのものと思われる石膏像 (破損しているものが多い) などがある。ユーミエン族の脚絆には、上智大学西北タイ歴史・文化調査団が作成した資料タグが付いており、収集年月日などの情報が揃っているが、それ以外の資料に関しては収集の経緯や時期、地域については不明である。書類資料の中に何か足がかりになるものがないか引き続き調査が必要である。

ユーミエン族の脚絆に付けられた資料タグによると、この資料は1970年3月12日に収集されたものであるとわかる。この日付は第1次調査中 (1969年11月19日~1970年3月18日) であるため、第2次調査にのみ参加した常見氏がなぜこの資料を所有しているのか疑問に思い、調査団の日誌を確認したところ、常見氏は3月6日~13日の約一週間のみ、調査団と合流していたことが判明した (上智大学西北タイ歴史・文化調査団1971)。

写真・映像・音声データ類 (図4、図5)

紙焼き写真やネガ、ポジ、ボラロイド写真、未使用のフィルム、オープンリール、カセットテープ、ビデオテープ等が含まれている。写真類は、国内外の調査時に撮影されたもの写真などがある。オープンリールやカセットテープ類は、講演会の音声や国内調査時の聞き取り調査の音声 that 収録されているものがある。題名や内容が一切書かれていないなど、詳細が分からないものも多い。

文献類 (図6)

論文の抜き刷りを中心とした印刷物を文献類に分類した。常見氏自身の論文の抜き刷りはもちろん、他の人からの論文抜き刷りも多く含まれる。

一つの封筒の中に、文献と手書き資料、ノート類など他分類資料が混在している場合もあるが、封筒のまとまりを優先し、文献類に分類した。

原稿類 (図7)

手書きの紙資料はすべて原稿類に分類した。常見氏の論文草稿や、国内外での調査カード、メモ書きなどが含まれている。

ノート類 (図8)

リングノートやスケッチブックなど、冊子状になっているものをここに分類した。紙焼き写真を張り付けたスクラップブックなども含まれる。「タイノート」「インドネシアノート」「香港ノート」と題名がついたノートが何冊も見られるほか、国内調査時に使用されたフィールドノートなどがある。

5. 今後の作業について

写真資料やフィルム、テープには劣化が見られるため、デジタル化しなければならない。手書き資料も同様に、紙やインクが変色しているものがあるため、早めにスキャンしてデジタル化する必要がある。

白紙の紙や、未使用のノート、文献のコピー、重複している抜き刷りなど、収蔵スペースにも限りがあるため、保管するべきかどうか精査が必要なものも多く存在している。

処分寸前であった当資料だが、巡り巡って当館にて受け入れることになった以上、適切に管理し活用していきたい。引き続き台帳の整備を行うとともに、デジタル化を進めていく。

註

- (1) 南山大学人類学研究所 公開講演会
<http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/JINRUIKEN/activity/koen.pdf>
- (2) https://7597992a-7e08-4eeb-9097-513696df12e4.filesusr.com/ugd/358003_608bf3abd3df4854a40fe4e37db30eca.pdf
- (3) 浦安市郷土博物館の学芸員によると、当館の常設展示コーナーの「南山に託す」 (上智大学西北タイ歴史・文化調査団が収集した資料を展示している) が目に留まり、連絡をしたとのこと。
- (4) 比嘉政夫氏は、当時国立歴史民俗博物館の教授で、常見氏の代理で船橋市での調査を引き受けた。
- (5) 浦安市郷土博物館よりメール本文を拝受した。

参考文献

漁村文化研究会

2017『浦安市郷土博物館調査報告 第11集 浦安の漁撈用具1 漁村文化研究会 (「東邦大学漁村問題調査研究自主ゼミナール」) 寄贈資料目録』浦安市郷土博物館 12-17頁

上智大学西北タイ歴史・文化調査団

1971『西北タイ山地民族第一次調査日誌』『上智人類学』第2号 上智人類学研究会 1-30頁

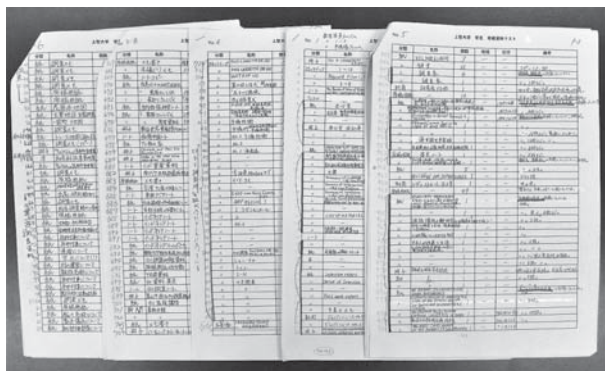


図 1 手書きリスト



図 5 映像・音声データ類



図 2 中性紙箱



図 6 文献類



図 3 現物資料

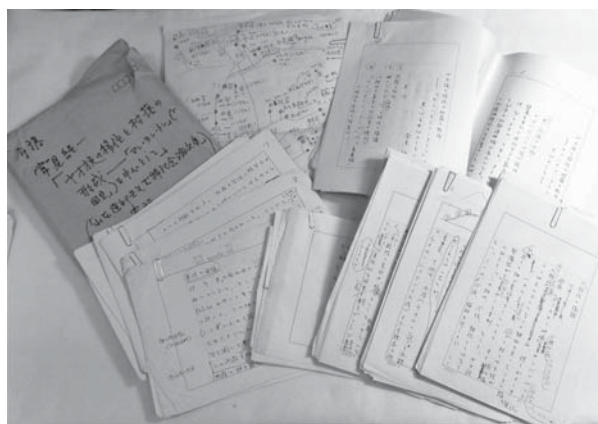


図 7 原稿類

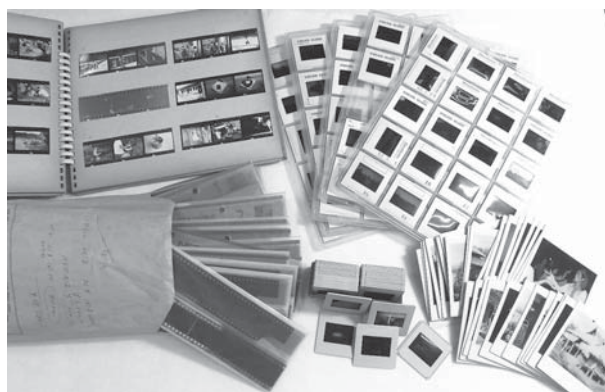


図 4 写真類



図 8 ノート類

常見純一氏 研究資料リスト

NO.	分類	資料名称	点数	地域	日付	箱番号	備考
TNj-1	実物資料	Yao 族 Phalae 脚絆	1	タイ?	1970 年 3 月 12 日	テンバコ	「Yao 族 Phalae 脚絆一足 00223Mar. 12.1970」とタグあり。ひもでくくってある。
TNj-2	実物資料	木製 パチンコ	1	タイ?		テンバコ	ゴムが切れている。
TNj-3	実物資料	ボウル?	1			テンバコ	ヒョウタンの下部分を切り取ったようなもの。
TNj-4-1	実物資料	ひしゃく	1			テンバコ	ヒョウタンの下部分を切り取ったようなものに持ち手を付けたもの。
TNj-4-2	実物資料	キャンドル?	1			テンバコ	
TNj-5-1	実物資料	ひしゃく	1			テンバコ	「ろう」のようなものが残っている。
TNj-5-2	実物資料	キャンドル?	1			テンバコ	
TNj-6a~b	実物資料	矢	2			テンバコ	証書入れに入っている。
TNj-7a~p	実物資料	矢	16			テンバコ	証書入れに入っている。
TNj-8a~q	実物資料	矢	17			テンバコ	証書入れに入っている。
TNj-9a~j	実物資料	矢	10			テンバコ	証書入れに入っている。
TNj-10a~k	実物資料	矢	11			テンバコ	証書入れに入っている。
TNj-11	実物資料	腰蓑	1			テンバコ	破片が落ちるためビニール袋に入れてある。開封時要注意。
TNj-12~20	実物資料	石膏像	1	インド?		テンバコ	詳細不明、水彩塗料不可。溶ける可能性あり。

1	冊子	TAI O COMMUNITY STUDY	1	香港		7	英語表記。建築についての冊子。
2	スケッチブック	1~13	13	香港	1982	4	
3	スケッチブック	Polaroid Film1~2	2	香港	1983	11	Polaroid Film3~8 と同じスケッチブック
4	スケッチブック	Polaroid Film3~8	6	香港	1983	11	Polaroid Film1~2 と同じスケッチブック
5	ノート	The routes of Sales of Fishes	1	香港	1983	4	ノートにポラロイド貼付、手書きのキャプションつき。
6	ファイル		1				白島芳郎氏、山口昌男氏、山田隆治氏、綾部恒男氏の論文をとじたもの。
7	紙	合心堂	1	タイオー 大澳 (香港)		7	「M.-No. 4 大澳「合心堂」の会計簿」の封筒に入っている。コピー。
8	紙	日記簿 新基申請電灯臨時登記	1	タイオー 大澳 (香港)		7	「M.-No. 4 大澳「合心堂」の会計簿」の封筒に入っている。コピー。
9	紙		1	タイオー 大澳 (香港)	一九之一年	7	「M.-No. 4 大澳「合心堂」の会計簿」の封筒に入っている。コピー。CARE U.S.A のノート。
10	冊子	合心堂 会計簿	1	タイオー 大澳 (香港)		7	「M.-No. 4 大澳「合心堂」の会計簿」の封筒に入っている。コピー。
11	冊子	合心堂 会計簿	1	タイオー 大澳 (香港)		7	「M.-No. 4 大澳「合心堂」の会計簿」の封筒に入っている。コピー。
12	冊子	合心堂 会計簿	1	タイオー 大澳 (香港)		7	「M.-No. 4 大澳「合心堂」の会計簿」の封筒に入っている。コピー。
13	紙	COGNITIVE PLAY: SOME MINOR RITUALS AMONG HONG KONG CANTONESE	1	香港		7	「香港文献」と書かれた封筒に入っていた。※誤字と思われる
14	紙	屋内船内の諸神和屋外船外的寺廟社祠 (相関関係)	1	香港		7	「香港資料の①」の封筒に入っていた。
15	紙	青衣區壬戌年龍舟競賽 (木量) 表	3	香港		9	「香港資料の①」の封筒に入っていた。原本 (1 部)、コピー (2 部)。
16	紙	大龍	2	香港		9	「香港資料の①」の封筒に入っていた。原本 (1 部)、コピー (1 部)。
17	紙	Summary of In ■■■■ - By Lau Ping Lun	1	香港	1982 年 5 月 28 日	9	「香港資料の①」の封筒に入っていた。
18	紙	Summary of Znteruieu - By Lau Pinglun	1	香港	1982 年 6 月 2 日	9	「香港資料の①」の封筒に入っていた。
19	紙	Summary of interview - By Lau Pinglun	1	香港	1982 年 6 月 10 日	9	「香港資料の①」の封筒に入っていた。
20	紙	The name list of the members of 同慶堂 as recoded by their recon back (慶州) by (劉炳倫)	1	香港	1982	9	「香港資料の①」の封筒に入っていた。
21	紙		1	慶州	1982 年 6 月 21 日	9	「香港資料の①」の封筒に入っていた。香港中央大學新亞書院學生會の紙。
22	紙	LIST OF MATERIAL	1	香港		9	「香港資料の①」の封筒に入っていた。
23	紙		1	慶州	6 月 21 日 (旧 5 月 1 日)	10	「香港資料②」の封筒に入っていた。
24	紙	大澳漁出—自然環境, 技術經濟, 興社會因素	1	大澳 (香港)		7	張兆私、導師: 王崧興博士。
25	ノート		1	香港	1982 年 6 月 24 日 (五月初四)	4	香港資料 (ノート) の封筒に入っていた。
26	ノート		1	西呉	1981 年 6 月	4	「香港ノート」の封筒に入っていた。スケッチのコピー 1 枚有り。
27	紙	同慶龍の旗舟スケッチ	1	香港	6 月 24 日 (旧 5 月 4 日)		「香港ノート」の封筒に入っていた。
28	本		1	新基棚		7	「香港ワーキング資料」の封筒に入っていた。260 ページ。コピーしたものをも本にしてある。緑色の表紙。
29	本		1	新基棚		7	「香港ワーキング資料」の封筒に入っていた。P261~。上↑のものの続き。
30	紙	interview report	1	新基棚	6 月 10 日	7	「香港ワーキング資料」の封筒に入っていた。by 張兆私。
31	紙	content of interview	1	香港	198 ■年 7 月 9 日	7	「香港ワーキング資料」の封筒に入っていた。by 劉炳倫。
32	紙		1	香港		7	「香港ワーキング資料」の封筒に入っていた。⑩から始まるメモ、おそらくインタビュー記録。
33	紙	field work report	1	新基棚	7 月 12 日	7	「香港ワーキング資料」の封筒に入っていた。By 張兆私。
34	紙		1			8	「copy」の封筒に入っていた。
35	紙	手書きメモ	39	香港		8	「copy」の封筒に入っていた。

36	新聞	ジャパンニュース va. 59	1	香港		8	「copy」の封筒に入っていた。
37	新聞	ジャパンニュース va. 61	1	香港		8	「copy」の封筒に入っていた。
38	冊子	RESEARCH GUIDES AND MONOGRAPHS ON CHINA, HONGKONG SOUTH-East ASIA	1	香港	1982	8	「copy」の封筒に入っていた。CENTER OF ASIAN STUDIES UNIVERSITY OF HONGKONG.
39	紙	手書きメモ	2	香港		8	「copy」の封筒に入っていた。CAFEKENDEZVOUSの紙。
40	紙	家系図	3			9	
41	模造紙	Making Album of Fishermen's Lise	1			9	
42	紙	天后信仰の諸要素	2			9	原本 (1)、コピー (1)
43	紙	List pf Collected Materials	1			9	
44	紙	屋内・船内の諸紙和屋外船外の寺廟社祠 (相関関係)	2			9	原本 (1)、コピー (1)
45	紙	香港の竜舟祭—長洲島事例報告—	1	香港		9	4枚をとじてある。
46	模造紙	■■■■ PERFORMED BY “合心堂” DURING THE ■■■■ BOAT FESTIVAL	1			9	半分に切断されている。
47	原稿用紙	原稿	1			9	6枚をとじてある。
48	原稿用紙	原稿	2			9	
49	原稿用紙	白紙の原稿用紙	4			9	
50	原稿用紙	香港ランタ島 (大岐山島) 大澳における漁民の居住形態	1	香港		9	4枚。ページ番号「4」が抜けている。
51	ノート	手書きメモ	1			9	16枚。
52	紙	香港調査会合	1	香港	1985年2月23日	9	於ホテルサルート東京。
53	紙	白鳥若郎からの手紙 (コピー)	1		S60年2月23日	9	
54	紙	12月行事予定表	1			9	淑徳大学。
55	紙	Dear Mr. K. Miller	1			9	
56	紙	Dear Mr. Ken. Miller	1			9	3枚。
57	紙	白鳥若郎からの手紙	1		1985年2月11日	9	常見先生宛て。
58	紙	手書きメモ	1			9	
59	紙	有限公司靴鞋家理記レシート	1		1983年12月27日	9	
60	紙	昭和60年度新入生セミナー (案)	1		4月8日~4月10日	9	2枚をとじてある。
61	紙	メモ用紙	2			9	1枚には墨のような汚れ有り。
62	紙	ホテルサルート東京地図	1	東京		9	
63	紙	居住地区図	3		1983年12月21日	9	原本 (1)、コピー (2)。
64	紙	家系図	3		1983年12月23日	9	原本 (1)、コピー (2)。
65	紙	A case study of 郭満全's Marriages Marriage Fopeheses and Sources of Revenues	3		1983年12月23日	9	原本 (1)、コピー (2)。各2枚とじ。
66	紙		3		1983年12月22日	9	原本 (1)、コピー (2)。各4枚とじ。
67	原稿用紙	手書きメモ	6			9	6枚中3枚は白紙。
68	紙	昭和59年度卒業判定資料	1		1985年2月22日	9	10枚とじ。
69	原稿用紙	原稿	8			9	8枚中1枚のみ記入あり、他白紙。
70	紙	大澳漁民の住居形態の変遷	15	大澳		9	15枚中2枚のみ記入あり、他白紙。答案用紙?
71	紙	大澳漁民の住居形態の変遷形態	3	大澳		9	3枚中1枚のみ記入あり、他白紙。
72	ノート	フィラーノート (青)	1			4	中に領収証1枚 (YoshirōSiratori 宛)。青ボールペンで「水上居民族譜」と書いてある。
73	ノート	フィラーノート (赤)	1			11	中に書類、多数あり。
74	紙	領収証類	1	香港	1983年7月24日	11	フィラーノート (赤) にはさまれていた。3枚
75	紙	領収証類	1	香港	1983年7月25日	11	フィラーノート (赤) にはさまれていた。5枚とじ。
76	紙	領収証類	1	香港	1983年7月27日	11	フィラーノート (赤) にはさまれていた。4枚とじ。
77	紙	領収証類	1	香港	1983年7月28日	11	フィラーノート (赤) にはさまれていた。5枚とじ。
78	紙	領収証類	1	香港	1983年7月29日	11	フィラーノート (赤) にはさまれていた。4枚とじ。
79	紙	領収証類	1	香港	1983年7月30日	11	フィラーノート (赤) にはさまれていた。2枚とじ。
80	紙	領収証類	1	香港	1983年7月31日	11	フィラーノート (赤) にはさまれていた。3枚とじ。
81	紙	領収証類	1	香港	1983年8月1日	11	フィラーノート (赤) にはさまれていた。4枚とじ。
82	紙	領収証類	1	香港	1983年8月2日	11	フィラーノート (赤) にはさまれていた。5枚とじ。
83	紙	領収証類	1	香港	1983年8月3日	11	フィラーノート (赤) にはさまれていた。9枚とじ。
84	紙	日本旅行 (香港) 有限公司領収証	4	香港	1983年8月1日	11	フィラーノート (赤) にはさまれていた。
85	領収証	手書きメモ	16			11	フィラーノート (赤) にはさまれていた。裏にメモが書いてある。
86	紙	手書きメモ	3			11	フィラーノート (赤) にはさまれていた。
87	紙	Making Q for “rites of passages”	1			11	フィラーノート (赤) にはさまれていた。6枚の紙をホチキス留めしている。
88	紙	Record Center	1				廃棄
89	紙		1				純心女子短期大学のレポート用紙にはさまっていた。
90	紙	南Y島における竜舟祭	2			4	純心女子短期大学のレポート用紙。
91	紙	舟見取図	2		1983年8月3日	9	青いクリアファイルに入っている。
92	紙	南Y島“龍賽”舉行居住民の民住形態 (家屋) 的変遷和祭祀神雷的關係	1			9	黄色いクリアファイルに入っている。黄色く変色。
93	紙	白紙	3			9	黄色いクリアファイルに入っている。黄色く変色。
94	紙	Life history of a woman	1			9	黄色いクリアファイルに入っている。黄色く変色。
95	紙	Concept of ancestor, ritual offering to ancestor	1			9	黄色いクリアファイルに入っている。黄色く変色。
96	紙	Type of family	3			9	黄色いクリアファイルに入っている。黄色く変色。
97	紙	important event in woman's life history	1			9	黄色いクリアファイルに入っている。黄色く変色。
98	紙	手書きメモ	2			9	黄色いクリアファイルに入っている。
99	紙	Seasons physical weather	1			9	青いクリアファイルに入っている。
100	紙	The dinzion of the water	1			9	青いクリアファイルに入っている。
101	紙	Natural Condhitions for fishing	1			9	青いクリアファイルに入っている。2枚とじ。

102	紙	“ 流定時 ”	1		9	青いクリアファイルに入っている。8 枚とじ。2 枚メモはさまっている。	
103	紙	手書き メモ	1		9	青いクリアファイルに入っている。	
104	紙	Collecting Cases	1		9	黄色いクリアファイルに入っている。	
105	紙	Rites of Passages	1		9	ピンク色のクリアファイルに入っている。	
106	紙	Notes on interview	1	1983 年 6 月 24 日	9	ピンク色のクリアファイルに入っている。5 枚とじ。	
107	紙	手書き メモ	2		9	ピンク色のクリアファイルに入っている。	
108	紙	手書き メモ	1	1983 年 7 月 26 日	9	無色透明なクリアファイルに入っている。	
109	原稿	Calender Festivals	1		9	無色透明なクリアファイルに入っている。	
110	紙	Series of Calender Festivals	1		9	無色透明なクリアファイルに入っている。	
111	紙	Miscellaneous	1		9	ピンク色のクリアファイルに入っている。	
112	紙	Notes Interview	1		9	ピンク色のクリアファイルに入っている。コピー。	
113	紙	Functions of Various Deities Written on Red Board	1		9	ピンク色のクリアファイルに入っている。コピー。3 枚とじ。	
114	紙	Report on Interviewing Mrs 果	1	1983 年 8 月 1 日	9	ピンク色のクリアファイルに入っている。コピー。	
115	紙	Religeons Specialists	1		9	ピンク色のクリアファイルに入っている。3 枚とじ。	
116	紙	To celebrate the birth of 候王-The chinese open	1		9	ピンク色のクリアファイルに入っている。	
117	紙	每天 Daily Praying & offering	1		9	ピンク色のクリアファイルに入っている。	
118	紙	毎月 Daily Praying & offering	1		9	ピンク色のクリアファイルに入っている。	
119	紙	Typology of offerings	1		9	ピンク色のクリアファイルに入っている。4 枚とじ。	
120	紙	Social Organization of TAI-O	1	大澳		無色透明なクリアファイルに入っている。	
121	紙	Some notes on Interview	1	1983 年 7 月 13 日		無色透明なクリアファイルに入っている。3 枚とじ。	
122	紙	手書き原稿 (コピー)	1			無色透明なクリアファイルに入っている。3 枚とじ。	
123	新聞紙	華僑日報	1	1983 年 7 月 23 日	10	青いクリアファイルに入っている。	
124	紙	From Fishermen to Consumers	1		9	青いクリアファイルに入っている。	
125	領収証	手書き メモ	4		9	青いクリアファイルに入っている。裏にメモ有り。	
126	応用紙	調査結果の表	1		9	黄色いクリアファイルに入っている。	
127	紙	手書き メモ	1		9	黄色いクリアファイルに入っている。黄色く変色している。	
128	紙	Temples	1		9	ピンク色のクリアファイルに入っている。	
129	紙	A Legend about 赤學天仁廟	1	1983 年 7 月 14 日	9	ピンク色のクリアファイルに入っている。2 枚とじ。	
130	紙	Some fieldnotes on interview with severral pe 大澳	1	香港	1983 年 6 月 16 日	9	ピンク色のクリアファイルに入っている。4 枚とじ。
131	紙	Calender Festivals (Dayly) ①	1		9	緑色のクリアファイルに入っている。	
132	紙	Worshipping the Deties	1		9	緑色のクリアファイルに入っている。	
133	紙	Fisheries	1		9	青いクリアファイルに入っている。	
134	紙	Notes on interview 21F	1	1983 年 7 月 15 日	9	青いクリアファイルに入っている。4 枚とじ。	
135	紙	Notes on Interviews 26F	2	1983 年 7 月 26 日	9	青いクリアファイルに入っている。5 枚とじと 2 枚とじ。	
136	紙	15F	1	1983 年 6 月 16 日	9	青いクリアファイルに入っている。9 枚とじ。	
137	紙	Notes on Interview 8F	1	1983 年 7 月 14 日	9	青いクリアファイルに入っている。2 枚とじ。	
138	紙	3F	1		9	青いクリアファイルに入っている。2 枚とじ。	
139	紙	Some speciak termo/fentuneo & fishing	2	新基棚	1983 年 7 月 26 日	9	青いクリアファイルに入っている。3 枚とじと 1 枚。
140	紙	5F	2		9	青いクリアファイルに入っている。	
141	紙	23F	2		9	青いクリアファイルに入っている。	
142	紙	Family & kingship Group	1		9	無色透明なクリアファイルに入っている。	
143	紙	5H	3		9	無色透明なクリアファイルに入っている。2 枚とじ (1)、1 枚 (2)。	
144	紙	7H Notes on Interview	1	新基棚	1983 年 7 月 1 日	9	無色透明なクリアファイルに入っている。4 枚とじ。
145	紙	8H	1		9	無色透明なクリアファイルに入っている。2 枚とじ。	
146	紙	14H	1		9	無色透明なクリアファイルに入っている。	
147	紙	21H	1		9	無色透明なクリアファイルに入っている。	
148	紙	22H (家系図)	1		9	無色透明なクリアファイルに入っている。7 枚とじ。	
149	紙	23H Notes on Interview	4	1983 年 8 月 1 日	9	無色透明なクリアファイルに入っている。2 枚とじ (2)、1 枚 (2)。	
150	紙	24H	1		9	無色透明なクリアファイルに入っている。2 枚とじ。	
151	ルーズリーフ	The Route of 接紙 of 合心堂	1	大澳 (香港)	1983 年 6 月 14 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。
152	ルーズリーフ	The Schedule of Celebration of 端午 festival of 合心堂 of 大澳	1	大澳 (香港)		8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。6 枚とじ。
153	ルーズリーフ	The basic “ 衣紙 ” used by people in 大澳 during the Dragon beet festival	1	大澳 (香港)		8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。
154	ルーズリーフ	The fishing Perriod	1	新基棚	1983 年 7 月 26 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。6 枚とじ。
155	ルーズリーフ	Notes on Interview	1	香港	1983 年 7 月 15 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。4 枚とじ。
156	ルーズリーフ	A Legend about 赤學天仁廟	1	大澳 (香港)	1983 年 7 月 15 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。
157	ルーズリーフ	Notes on Interview	1	新基棚	1983 年 7 月 1 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。7 枚とじ。
158	ルーズリーフ	Notes on Interview	1	新基棚	1983 年 7 月 14 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。4 枚とじ。
159	ルーズリーフ	Notes Extracted from Tape	1	香港	? 年 7 月 14 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。2 枚とじ。
160	ルーズリーフ	Brief nates on the Feast of 合心堂	1	香港	1983 年 6 月 15 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。2 枚とじ。
161	ルーズリーフ	Some notes on Interview	1	香港	1983 年 7 月 2 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。3 枚とじ。
162	ルーズリーフ	Some notes on Interview	1	香港	1983 年 7 月 8 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。7 枚とじ。
163	ルーズリーフ	Notes on Interview	1	香港	1983 年 7 月 6 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。8 枚とじ。
164	ルーズリーフ	Notes on Interview	1	香港	1983 年 6 月 24 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。3 枚とじ。
165	ルーズリーフ		1	新基棚	1983 年 6 月 16 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。8 枚とじ。
166	ルーズリーフ	Field Report	1	Tai O (大澳か)	1983 年 6 月 14 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。8 枚とじ。
167	ルーズリーフ	Some fieldnotes on interview with severral people in 大澳	1	新基棚	1981 年 6 月 16 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。6 枚とじ。
168	ルーズリーフ	Some notes on 俅王沢	1	香港		8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。2 枚とじ。
169	ルーズリーフ	Some notes on Interview	1	香港	1983 年 7 月 13 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。2 枚とじ。

170	ルーズリーフ	Notes on 接神 of 俠王謹 of 1983	1	香港	1983 年 7 月 13 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。3 枚とじ。
171	ルーズリーフ	Notes on Interview	1	香港	1983 年 7 月 15 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。2 枚とじ。
172	紙	家系図	1	香港		8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。7 枚とじ。
173	ルーズリーフ	Notes on Interview	1	香港	1983 年 8 月 1 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。6 枚とじ。
174	ルーズリーフ	Notes on Interview	1	香港	1983 年 7 月 29 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。3 枚とじ。
175	ルーズリーフ	Summary of the Location of the shrines	1	香港	1983 年 8 月 1 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。10 枚とじ。
176	ルーズリーフ	Notes on Interview	1	香港	1983 年 7 月 26 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。4 枚とじ。
177	ルーズリーフ	Notes On Horisiry Typeand charging style of fishing junk	1	香港		8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。4 枚とじ。
178	ルーズリーフ	Report on Interviewing Mrs 果	1	香港	1983 年 8 月 1 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。3 枚とじ。
179	紙		1	俠王朝	1983 年 7 月 16 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。5 枚とじ。
180	紙	Some notes on peper offering	1	Tai O	1983 年 7 月 7, 8, 9 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。4 枚とじ。
181	紙	Mare details on papeer offering	1	香港	1983 年 7 月 7, 8, 9 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。4 枚とじ。
182	紙		1	香港		8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。4 枚とじ。
183	紙		1	香港		8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。6 枚とじ。
184	紙	Information about the raute of fishers	1	香港	1983 年 8 月 4 日	8	「HONGKONG 調査」の封筒に入っている。6 枚とじ。
185	フィルム	KODAK フィルム片	1	香港		3	「香港等写真未現像多し」の封筒に入っている。8041, 244362 の注記有り。
186	スライド		11	香港		1	「香港等写真未現像多し」の封筒に入っている。「東南アジア」と書かれたビニール袋に入っている。
187	フィルム	Kodak Tri-X pan film	2	香港		3	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。「EXASA 200 カラー」と書かれた袋に入っている。
188	フィルム	Kodak Plus-X pam film	1	TAI-O	1983 年 7 月 27 日	3	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。「EXASA 200 カラー」と書かれた袋に入っている。「これはワタナベのツツキ」と書かれた注記有り。
189	フィルム	Kodachrome 64 FILM FOR COLOR SLIDES	1	香港	1983 年 7 月 27 日	3	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。「EXASA 200 カラー」と書かれた袋に入っている。「これはワタナベのツツキ」と書かれた注記有り。
190	フィルム	FUJICOLOR N100 FOR COLOR PRINTS	1	香港		3	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。「EXASA 200 カラー」と書かれた袋に入っている。
191	スライド		35	香港		1	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。「香港」のプラスチックの箱に入っている。
192	スライド		37	香港		1	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。「香港」のプラスチックの箱に入っている。
193	フィルム	FUJI NEPAN SS FILM	1	香港		3	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。FUJI 緑色のプラスチックケースに入っている。
194	フィルム	FUJICOLOR N100 FOR COLOR PRINTS	1	香港		3	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。透明なフィルムケースに入っている。
195	フィルム		2	香港		3	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。グレーのフタ、黒いフィルムケースに入っている。
196	フィルム	Kodacolor II FILM FOR COLOR PAINTS	1	香港		3	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。透明なフィルムケースに入っている。
197	フィルム		3	香港		3	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。グレーのフタ、黒いフィルムケースに入っている。
198	フィルム	J・T・2	1	大澳（香港）	1983 年 7 月 29 日	3	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。グレーのフタ、黒いフィルムケースに入っている。
199	フィルム	J・T・No. 3	1	東涌	1983 年 8 月 3 日	3	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。グレーのフタ、黒いフィルムケースに入っている。
200	フィルム	J・T・No. 4	1	東涌	1983 年 8 月 3 日	3	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。グレーのフタ、黒いフィルムケースに入っている。
201	フィルム	J・T・No. 5	1	東涌	1983 年 8 月 3 日	3	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。グレーのフタ、黒いフィルムケースに入っている。
202	フィルム	J・T・No. 1	1	東涌	1983 年 8 月 3 日	3	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。グレーのフタ、黒いフィルムケースに入っている。
203	フィルム	PX125. No. 3	1	TaiO	? 年 7 月 29 日	3	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。グレーのフタ、黒いフィルムケースに入っている。
204	フィルム	No. 2	1	東涌	1983 年 8 月 3 日	3	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。グレーのフタ、黒いフィルムケースに入っている。
205	フィルム	No. 4	1	TaiO	? 年 7 月 29 日	3	「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。グレーのフタ、黒いフィルムケースに入っている。
206	8 ミリフィルム	? to J. T No. 1	1		1983 年 8 月 6 日	3	「DUTY FREE SHOP TOKYO」の袋に入っている。「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。Kodachrome 40 MOVE FILM TYPE A. K40.
207	8 ミリフィルム	J. T No. 2 Lamma to Aberdeen	1		1983 年 8 月 7 日	3	「DUTY FREE SHOP TOKYO」の袋に入っている。「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。Kodachrome 40 MOVE FILM TYPE A. K40. E160.
208	8 ミリフィルム	J. T No. 3 Lamma to Aberdeen	1		1983 年 8 月 7 日	3	「DUTY FREE SHOP TOKYO」の袋に入っている。「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。Kodachrome 40 MOVE FILM TYPE A. K40. E160.
209	8 ミリフィルム	J. T No. 2 赤柱	1		1983 年 8 月 6 日	3	「DUTY FREE SHOP TOKYO」の袋に入っている。「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。Kodachrome 40 MOVE FILM TYPE A. K40.
210	8 ミリフィルム	J. T No. 3 赤柱	1		1983 年 8 月 6 日	3	「DUTY FREE SHOP TOKYO」の袋に入っている。「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。Kodachrome 40 MOVE FILM TYPE A. K40.
211	8 ミリフィルム	J. T No. 4 赤柱	1		1983 年 8 月 6 日	3	「DUTY FREE SHOP TOKYO」の袋に入っている。「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。Kodachrome 40 MOVE FILM TYPE A. K40.

212	8ミリフィルム	J. T No. 6 大澤 to Reservoir	1		1983 年 8 月 6 日	3	「DUTY FREE SHOP TOKYO」の袋に入っている。 「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。 Kodachrome 40 MOVE FILM TYPE A。 K40。
213	8ミリフィルム	No. 7 大澤 to 紫湾	1		1983 年 8 月 6 日	3	「DUTY FREE SHOP TOKYO」の袋に入っている。 「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。 Kodachrome 40 MOVE FILM TYPE A。 K40。
214	8ミリフィルム	No. 8 JT ■■■■■	1		1983 年 8 月 6 日	3	「DUTY FREE SHOP TOKYO」の袋に入っている。 「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。 Kodachrome 40 MOVE FILM TYPE A。 K40。
215	8ミリフィルム		1		1983 年 8 月 6 日	3	「DUTY FREE SHOP TOKYO」の袋に入っている。 「香港等写真未現像多し」の緑封筒に入っている。 Kodachrome 40 MOVE FILM TYPE A。 K40。
216	オープンリール		1			3	南アジア民族研究会第 9 回例会馬淵東一氏…「オープンリール多数」(緑封筒)
217	オープンリール		1			3	太平洋学術会ギ「オープンリール多数」(緑封筒)
218	オープンリール		1			3	No. 1 2 月? 台湾アミ族「オープンリール多数」(緑封筒)
219	オープンリール		1			3	_____ 康氏表孝? の大主? 「オープンリール多数」(緑封筒)
220	オープンリール	第 148 回順天堂区学会例会南アジア民族調査団?	1		1967 年 6 年 22 日	3	上條浩明 - 9.5cm/s- 「オープンリール多数」(緑封筒)
221	オープンリール	長者の大王?, サーギン・プスメー	1		1966 年 秋	3	日本民族学会・日本人類学会連合大会「オープンリール多数」(緑封筒)
222	オープンリール	ヒンディーズムー昔と今	1			3	南アジア民族研究会第 10 回例会 奈良康明氏「カセットテープ多数」(緑封筒)
223	オープンリール		1			3	アダオ 4-? No. 1 「オープンリール多数」(緑封筒)
224	オープンリール		1			3	順天堂大学南アジア民族研究会「オープンリール多数」(緑封筒)
225	オープンリール		1			3	? ハールー 比嘉の? 「オープンリール多数」(緑封筒)
226	オープンリール		4			3	注記有り、判読できず「オープンリール多数」(緑封筒)
227	オープンリール		5			3	注記無「オープンリール 8mm フィルム」(淑徳大学封筒)
228	オープンリール		1		1961	3	内容? に関する注記有「オープンリール 8mm フィルム」(淑徳大学封筒)
229	オープンリール		4			3	注記無「オープンリール多数」(緑封筒)
230	8ミリフィルム		1			3	注記無「オープンリール多数」(緑封筒)
231	カセットテープ	石井豊治氏より (二子地区)	4		1983 年 7 月 9 日	3	No. 2~5 「オープンリール多数」(緑封筒)
232	カセットテープ	梨本政雄氏より	1		1983 年 7 月 10 日	3	No. 1 「カセットテープ多数」(緑封筒) ビニール袋
233	カセットテープ	梨本政雄氏より	1		1983 年 9 月 10 日	3	No. 2 「カセットテープ多数」(緑封筒) ビニール袋
234	カセットテープ	石井やすさんより	1		1983 年 7 月 29 日	3	No. 2 「カセットテープ多数」(緑封筒) ビニール袋
235	カセットテープ	石井やす (途中)	1		1983 年 8 月 5 日	3	「カセットテープ多数」(緑封筒)
236	カセットテープ	印内田中てるさんより	1		1983 年 8 月 10 日		
237	カセットテープ	鈴木惣太郎 (続き)	1			3	「カセットテープ多数」(緑封筒)
238	カセットテープ	田中長吉氏より、田久保実 (西海神)	1		1983 年 8 月 14 日、1983 年 8 月 25 日	3	「カセットテープ多数」(緑封筒)
239	カセットテープ	玉城章慶氏	1		1991 年 6 月 23 日	3	糸満市糸満四三四「カセットテープ多数」(緑封筒)
240	カセットテープ	宮城竹雄氏宅	4		1982 年 1 月 30 日、2 月 1 日	3	固頭村字安波「カセットテープ多数」(緑封筒) ビニール袋
241	カセットテープ	A. 恩納村大兼久のハーリー、B. 名護市久志東村のハーリー	1		A. 1982 年 1 月 30 日、B. 1982 年 1 月 31 日	3	「カセットテープ多数」(緑封筒)
242	カセットテープ	那覇のハーリー、話? 国吉瑞?	1		1982 年 1 月 24 日	3	「カセットテープ多数」(緑封筒)
243	カセットテープ	東永? 故事 (Yao?)	1	タイ		3	「カセットテープ多数」(緑封筒) ビニール袋
244	カセットテープ	東永? 故事	1	タイ		3	内容に関する注記有り「カセットテープ多数」(緑封筒) ビニール袋
245	カセットテープ	李有財氏 009~137. 永? 故事 (Yao?)	1			3	「カセットテープ多数」(緑封筒) ビニール袋
246	カセットテープ	ラオ・? の②	1	タイ		3	バッテリーの 1 「カセットテープ多数」(緑封筒) ビニール袋
247	カセットテープ		1			3	No. 1 「カセットテープ多数」(緑封筒) ビニール袋
248	カセットテープ		2				注記無 SONY1 個 MAXI1 個「カセットテープ多数」(緑封筒) ビニール袋
249	カセットテープ	佐久間	1		1983 年 7 月 10 日	3	III まで佐久間氏。「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)
250	カセットテープ	二子地区かつ石井豊治氏より No. 1	1	日本	1983 年 7 月 9 日	3	「カセットテープ多数」「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)
251	カセットテープ	国頭村字安波 107 番地宮城武男氏 ②	1	日本		3	①海②陸③山の呼称「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)
252	カセットテープ	二子 ウラサン 石井やすさんより	1	日本	1983 年 7 月 26 日	3	「カセットテープ多数」「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)
253	オープンリール		1			3	茶色気味「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)
254	カセットテープ (小)	A: 藤井睦雄 No. 2 B: 藤井睦雄	1	日本		3	「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)
255	カセットテープ (小)	土佐ナカ氏 (マゴベエ)	1	日本	1983 年 10 月 1 日	3	「カセットテープ多数」(緑封筒) カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本)
256	カセットテープ (小)	小栗原 藤井栄一氏より (大黒屋)	1	日本	1983 年 8 月 22 日	3	「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)

257	カセットテープ (小)	印内 田中長吉氏より 屋号	1	日本	1983 年 7 月 17 日	3	A. 田中長吉、B. 1983 年 8 月 13 日 “盒”「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)
258	カセットテープ (小)	J. T. No. 2 ? 華有	1		1983 年 10 月 8 日 ?	3	「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)
259	カセットテープ (小)	㊤ J. T. No. 1 ? 華有	1			3	㊤ Rites of Passage「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)
260	カセットテープ (小)		1			3	「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)
261	カセットテープ (小)		1			3	注記有、判読できず「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)
262	カセットテープ (小)		3			3	「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)
263	カセットテープ (小)	田中留吉氏	1		1983 年 7 月 16 日	3	後半「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)
264	カセットテープ (小)		2			3	「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)
265	カセットテープ (小)	M??	1		6 月 30 日 ?	3	「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)
266	カセットテープ (小)		2			3	「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)
267	カセットテープ (小)		24			3	「カセットテープ 2 本 マイクロカセット多数 オープンリール 1 本」(緑封筒)
268	カセットテープ	英語 IV c 常見先生 リーディング No. 4	1		6 月 24 日 (水)	3	85193 二階堂美和子「カセットテープたぶん船橋聞取が多い ビデオテープ不明」(緑封筒)
269	カセットテープ	Reading No. 2	1			3	84167 五十嵐妙子「カセットテープたぶん船橋聞取が多い ビデオテープ不明」(緑封筒)
270	カセットテープ	B iv 038~V 15 まで 椎名裕子	1			3	「カセットテープたぶん船橋聞取が多い ビデオテープ不明」(緑封筒)
271	カセットテープ	㊤ Facinaing Argentine Tango ㊤リーディングテープ①	1			3	85116 神保江利「カセットテープたぶん船橋聞取が多い ビデオテープ不明」(緑封筒)
272	カセットテープ	reading No. 3	1		6 月 24 日	3	85164 高柳仁恵「カセットテープたぶん船橋聞取が多い ビデオテープ不明」(緑封筒)
273	ビデオテープ	すばらしい世界旅行 “アジア大陸の秘境”	1			3	「カセットテープたぶん船橋聞取が多い ビデオテープ不明」(緑封筒)
274	ビデオカセット		3			3	「カセットテープたぶん船橋聞取が多い ビデオテープ不明」(緑封筒)
275	8 ミリフィルム	No. 10~No. 15 2hd June 鹿州 ?	1	鹿州 ?	1981	3	photo accessories の黒い箱
276	8 ミリフィルム	No. 16~No. 20 2hd June 鹿州 ?	1	鹿州 ?	1981		その 2
277	8 ミリフィルム	No. 21~No. 29 東浦 variar placer	1	東浦	1981 年 6 月 6 日	3	photo accessories の黒い箱
278	8 ミリフィルム	No. 30~No. 37 東浦	1	東浦	1981 年 6 月 6 日	3	photo accessories の黒い箱
279	8 ミリフィルム	No. 40~No. 45 東浦 No. 38~No. 39	1	東浦	1981 年 6 月 6 日	3	photo accessories の黒い箱
280	アルバム		3			2	一部メモ書有、青・黄・灰の 3 冊
281	アルバム		1			2	ネガと写真
282	写真・ネガ	Kuching 出発空港行途中→ヒキロ	1			2	31
283	写真・ネガ	8UNGEI DURIN 帰りの村入口キ ウイン→ヒキロ	1			2	36
284	写真・ネガ	SARAWAK MUSEUM? → KUCHIN 市街	1			2	31
285	写真・ネガ	SARAWAK MUSEUM →同 MUSSEUM 全景	1			2	30
286	写真・ネガ		2				
287	写真・ネガ	シンガポール?→セイ?フ?ダ迄	1			2	35
288	写真・ネガ	メオ村→ドイステープ カレン村 行の途中	1			2	37
289	写真・ネガ	シンガポール空港帰→クアララン プール→バンコク カナル	1			2	21
290	写真・ネガ	チェンマイ市内→メオ→メオ村	1			2	37
291	写真・ネガ	第 11 回太平洋学会ギ SectionX …	2			2	
292	ネガ		1				
293	ネガ		1				
294	ネガ		1				
295	写真	TAUNGYI	1	ミャンマー		2	
296	写真・ネガ	TAJ MAHAL	1	インド		2	
297	写真・ネガ	TAJ MAHAL/VARNASI/CCU VINTGE CAR RALLEY	1	インド		2	
298	写真・ネガ		1				
299	写真・ネガ	ベタユ? スモン村	1			2	
300	ネガ		2				
301	ネガ・写真	インド写真	1	インド		2	写真はコピー
302	ネガ		1				
303	写真・ネガ	香港 大澳	1	香港		2	
304	ネガ		1	タイ		2	
305	ネガ		1	インド		2	
306	ネガ		1	タイ?		2	
307	ネガ		1			2	CCU、封筒に注記有
308	ネガ		1			2	KTM ?

309	ネガ		1			2	KTM MEI HUA
310	ネガ	SHAN 村?	1				
311	写真・ネガ		5				
312	写真		1				
313	封筒		6				写真用の、一部注記有
314	ネガ		6				
315	写真・ネガ		6				
316	写真・ネガ	ON THE WAY TO KIURO STATION & KIURO VILLAGE	1			2	
317	写真・ネガ	桃源花	1			2	
318	写真・ネガ	ボルネオ	1			2	
319	写真・ネガ	THAI FROM CHIENGMAI TO SUKHOTHAI	1	タイ		2	
320	写真・ネガ		19				
321	写真		3				
322	写真		8				
323	スライド		1				23
324	郵便物	日本国語大辞典	1			廃棄	常見氏宛の郵便物
325	ネガ	淑徳?	1			2	
326	写真・ネガ	ヴルネイ	3	九州		2	
327	写真	九州 白黒プリント	6			2	
328	写真・ネガ	大林別花 沖縄文化協会、仲?美史先生記念会	1			2	
329	写真・ネガ	都立大	1		1967	2	
330	写真・ネガ	山梨	3	山梨			
331	写真・ネガ	中国少数民族文献資料	5			2	
332	写真・ネガ		1				
333	写真・ネガ	マレーシア	4	マレーシア		2	
334	写真・ネガ	大岳山荘行	3			2	No. 1~3、常見純一?
335	写真・ネガ	マレーシア、ブルネイ	1	マレーシア		2	
336	写真・ネガ	タイ山地(?)	1	タイ		2	
337	スライド	順天堂大学	19			1	
338	スライド	タイ?	50	タイ?	1968	1	
339	スライド	インド	132	インド	1969	1	
340	スライド	インドかネパール	35			1	
341	スライド	インド	32	インド		1	
342	スライド	インド?	26			1	
343	スライド		5			1	各ハコに 32、38、38、38、11 枚
344	スライド		3			1	各ハコに 38、36、41 枚
345	スライド		5			1	各ハコに 37、37、37、28、35 枚
346	写真		61			2	
347	写真		11			2	
348	スライド	タイ・ヤオ族(ラオター 一家他)	30	タイ	1969~1971	1	
349	スライド	タイ山岳民族(ヤオ、アカー)	37	タイ	1970 年、MAY	1	
350	スライド	タイ	38	タイ	1970 年、MAY	1	
351	スライド	C-17 スコタイ→イセキ→カエリ駅マデ	114			1	一部スライドに注記有
352	スライド	C-19 バンコク	49			1	
353	スライド	C-18 タウォン→?	199			1	
354	スライド		56			1	
355	スライド	C-5 キルバナ→サンダカン着→ 水上?マデ	19			1	
356	スライド	C-4 キウロ→オーフク J→ザン J カン行ヒ■中マデ	47			1	
357	スライド	C-2 MSL (ホンコン行) から →JesseLton →トアランオーフク	37		1968 年 2 月 18 日	1	
358	スライド	C-1 台湾アミ→台北→MSL (ホ ンコン)	49		1968 年 1 月~1 月 18 日	1	アミのタタミ→台北の? カダザン→?
359	スライド	C-16 カレン行途中→カレン カ レン帰途	37			1	
360	スライド	C-15 ミャオ村→ドイステブ→カ レン返上	15			1	
361	スライド	C-14 シンガポール市内 ヒキ →KL →タヤレ→バンコク	97			1	
362	写真	インド 白黒プリント	11	インド		1	
363	スライド		89			1	
392	スライド	沖縄 国頭村	1	沖縄のもの		2	封筒の中に 1 枚だけ
393	写真	インデックスフォト	1				
394	領収書	写真代 ¥4350	1		1976 年 3 月 25 日		
395	領収書	忠実屋 ¥4500	1		1982 年 3 月 25 日		
396	領収書	忠実屋 ¥198	1		1982 年 3 月 30 日		
397	領収書	忠実屋 ¥1000	1		1982 年 3 月 8 日		
398	領収書	忠実屋 ¥12105	1		1982 年 3 月 8 日		
399	領収書	宅急便控					神奈川県←熊本
400	写真封筒	中身のない写真封筒	33				廃棄を検討
401	写真		31			2	文献を撮影したもの「福本書院月報」の封筒

402	紙	手書きメモ	5				講談社用箋、講談書原稿用紙に書かれたもの。
403	紙	“Cornell 大学：Slamese rise village” の紹介	20	日本	1957 年 1 月 19 日		綾部恒雄の講演会聞き書きメモ
404	はがき		17		1970 年、1971 年	10	「『青い生と赤い死』手紙」の封筒に入っている。
405	手紙		2		1970 年		宮田登からの手紙。上記と同じ封筒の中。
406	紙	THE DOBAMA ANTI-COLONIAL MOVEMENT IN BURMA	7		1960	7	「東南アジア文献資料」ファイルの中。コピー？
407	紙	WORLD WAR II JAPANESE INVOLVEMENT IN BURMA THROUGH THE MINAMI KIKAN	17				
408	紙	山本達郎博士古稀記念 東南アジア・インドの社会と文化 下	18		1980		目次、裏表紙、常見執筆論文のコピー。
409	紙	手書きメモ	1				文章が途切れている。
410	紙	紐とじされた原稿（第二章第一節）	17			8	「中国文献」とボールペンで書かれた封筒の中。
411	紙	■書卷三、唐■撰、六詔第三	1				
412	紙	後漢書卷九十五西南夷伝	13			8	原稿用紙への写し書き。「後漢書卷九十五西南夷伝」の封筒の中。
413	紙	漢書地理志補■柯郡〜に関する メモ	2			9	「“■柯”に関する資料」の封筒の中。
414	紙	管子卷■小■第二十の書き写し	1				漢文大系第二十巻（大正五年発行）のもの。上記と同じ封筒。
415	紙	Shoka-gun ■柯郡に関するメモ	10			9	「“■柯”に関する資料」の封筒の中。
416	紙	手書きメモ	3				
417	原稿		6			8	「地方志ノート」の封筒の中。（白紙）
418	紙	手書きメモ	2			8	「地方志ノート」の封筒の中。（白紙）
419	紙	浙江国書館■書第一集のメモ	5			8	「地方志ノート」の封筒の中。（白紙）
420	紙	満桂■撰『杞■』巻七“■柯”の メモ	1			8	「地方志ノート」の封筒の中。（白紙）
421	紙	「雲南通志」の書き写し	4			8	「地方志ノート」の封筒の中。（白紙）
422	紙	「南寧縣志卷之藝文上」の書き写し	5			8	「地方志ノート」の封筒の中。（白紙）
423	紙	漢文文献の書き写し	8			8	「地方志ノート」の封筒の中。（白紙）
424	紙	「南寧縣志」巻一の書き写し	3			8	「地方志ノート」の封筒の中。（白紙）
425	紙	「南寧縣志」巻九藝文上の書き写し	6			8	「地方志ノート」の封筒の中。（白紙）
426	紙	雲南通志目録のメモ	4			8	「地方志ノート」の封筒の中。（白紙）
427	紙	「南寧縣志」目録のメモ	4			8	「地方志ノート」の封筒の中。（白紙）
428	紙	「■■■子碑」の書き写し	18			8	「地方志ノート」の封筒の中。（白紙）
429	紙	「華陽國志卷一巴志」の書き写し	5			8	晉常■「華陽國志」（句■済のもの在中）の封筒
430	ネガ	タイトル不明	4				
431	紙	写真袋	6				
432	紙	THE IFUGAO CALENDAR The Ifugao has a home-made clendar	2			6	2 枚組、コピー？ BY EMILIO PAGADA
433	紙	THE DEVELOPMENT OF THE JAPANESE ECONOMY : A SOCIO- CULTUAL APPROACH	10		1956?	6	コピー？ 紙表面ヤケ Clifford Geertz
434	紙	Differentiation by adaptation in polynesian societies.	7			6	コピー？ 中にメモ、同タイトル封筒有
435	写真		28			2	「インドネシア人？写真」の封筒、裏面番号有
436	紙	名刺	3			2	「インドネシア人？写真」の封筒、裏面番号有、内常見氏のもの 2 枚
437	冊子	The Legend of King Tung-ming 東明王 The Founder of Fu-yu-Kuo 夫餘國	1		1938	7	
438	紙	学会発表の原稿？下書きらしきもの	21			9	「学会発表インド」の封筒
439	冊子	漢代の郡都尉について	1	中国		7	「漢代西南夷関係抜刷」の封筒
440	冊子	漢代西南支那の歴史地理	1	中国		7	「漢代西南夷関係抜刷」の封筒
441	冊子	研究集録 人文社会科学	1	中国	1953	7	「漢代西南夷関係抜刷」の封筒
442	冊子	カールグレン氏 「支那の銅器に於ける殷と周」	1	中国		7	「漢代西南夷関係抜刷」の封筒
443	紙	漢代夜郎の中心地と豚温二水	1	中国	1937	7	東洋学級第二十四卷三号四三七～四四七頁一部。上記の封筒の中。
444	紙	ノート、原稿	252	東南アジア		8	常見東南アジアノート③の封筒の中
445	封筒	■呉卓信「漢書地理志補注」 ■考郡 特村部	1				内容物無し
446	紙	マブチ講義 StructuralAnthropology	4				「マブチ講 StructuralAnthropology」の封筒の中。
447	ノート	宗教と呪術（北タイのミャオ）	1			4	常見東南アジアノート②の封筒の中
448	ノート		1	東南アジア		9	常見東南アジアノート②の封筒の中
449	紙		72	東南アジア		9	常見東南アジアノート②の封筒の中
450	紙		9	東南アジア		9	東南アジア調査資料の封筒の中
451	紙	会計資料？	5			9	東南アジア調査資料の封筒の中
452	紙	原稿（資料解説用）	4		1964/8/14	8	原稿（資料解説用）1. 「インド中央州ゴンド族、バリ ア族の皮革化」2. インド、ビハール州ランチャーのゴム ゾーリ」の封筒の中
453	紙	メモ、調査カード 2	21	東南アジア		9	「東南アジア調査カード原稿？」の白い封筒の中
454	紙	原稿？ Field note'79 の■き書き	13	東南アジア		9	「東南アジア調査カード原稿？」の白い封筒の中
455	紙	文献の書き写し、メモ	23	中国		7	「史記卷一百一十六西南夷列伝」の封筒の中。
456	紙	原稿	11	中国		7	「史記卷一百一十六西南夷列伝」の封筒の中。
457	冊子	史記西南夷列傳 漢司馬遷著	1	中国		7	「史記卷一百一十六西南夷列伝」の封筒の中。同様の ものが箱⑤にある。

458	冊子	第三次南アジア民族調査隊報告 (第2次日印合同人類調査)	1		1964年6月14日	9	「MUNDA 族における時間表象—その1、1日の時間構成、資料」の封筒内。
459	紙	メモ	1			9	「MUNDA 族における時間表象—その1、1日の時間構成、資料」の封筒内。
460	紙	原稿「MUNDA 族における時間表象—その1、1日の時間構成、資料」	1		1964年6月3日	9	「MUNDA 族における時間表象—その1、1日の時間構成、資料」の封筒内。
461	紙	メモ	14		1964年6月4日	9	「原稿・草稿その他 MUNDA 族における時間表象—その1、1日の時間構成、資料」の封筒内
462	紙	原稿・草稿	30			9	「原稿・草稿その他 MUNDA 族における時間表象—その1、2日の時間構成、資料」の封筒内
463	紙	草稿	1			9	計37ページ「講談社 東南アジア草稿」の封筒内
464	冊子	新整備構想検討委員会討議記録	1		1995年11月21日	6	計19ページ大和屋の紙袋内
465	冊子	シーザーロードを行く(仮称) ～ 5000の時をかけエジプトから沖縄へ渡ったシーザーの軌跡をたどる～	1			6	計20ページ
466	冊子	The symbolic meaning of the Pot on the Root TA case study of the kansa ■ Southern Etyhiopia	1		1993		文献の複写
467	冊子	ラオス少数民族の祈りと暮らし	1	ラオス	1995	6	文献の複写
468	冊子	父母の祖先祭祀の分割についての一考察	1		1994年3月	6	『国立歴史民俗博物館研究報告』第57集抜刷。上野和男著。
469	紙	INSTITUT DE RECHERCHE SUR LE SUD-EST ASIATIQUE	1			6	パンフレット
470	冊子	Colocasia esculenta var. aquatilis on Okinawa Island Southern Japan: The Distribution and Possible Origins of a Wild Diplaid Taro	1		1992	6	文献の複写
471	冊子	劉海■と保生大帝—天理参考館所 属資料—	1		1995年10月26日	6	文献の複写
472	冊子	Maori kinship under “Modernization”	1		1993	6	お茶の水大学人文科学紀要第46巻抜刷
473	冊子	Akamata-Kuromata	1		1965	6	文献の複写。
474	冊子	ことわざに関する社会心理学的研究序論	1		1996年3月	6	明治大学「政経講義」
475	紙	原稿	31				
476	紙	メモ	20				
477	地図		1				東南アジアの地図
478	紙		1				■4ページ。文献資料の複写
479	紙	調査カード・メモ	261			9	「東南アジア 竹村卓二」の封筒の中
480	紙	文献のメモ	12			9	「東南アジア 竹村卓二」の封筒の中
481	紙	白紙	9				
482	紙	メモ	9				
483	紙	死と靈魂信仰に関する諸表象	27				
484	紙	死骸の見張り = Toteuwache = 通夜	4				
485	紙	埋葬 Begrabwis	11				
486	紙	死後1年後の“死者の祭り”	2				
487	紙	服喪 = Totentrauen 喪中	2				
488	紙	その他の比較資料 その他のデータ	11				
489	紙	死の報告、死体の処置	3				
490	紙	Gotthei ■ en と精霊	36				
491	冊子	Navigational Conditions of Sea Routes To Polynesia	2		1966	7	
492	冊子	The Ethnic Anthropology of the Eastern Asia	2		1966	7	
493	冊子	Catalogue of Graphems of The Kitan Script	2		1966	7	
494	冊子	Linguistic Problems of Ethnic Consolidation of the Aboriginal Population of Oceania	1		1966	7	
495	冊子	Community in New Gwinea	1		1966	7	
496	冊子	Economic-Cultural Types and Historico-Ethnographic Provinces of The Easten Asia	1		1966	7	
497	冊子	Two Millennia of Cultural Evolution of Bering Sea Hunters	1		1966	7	
498	紙	歴史 上対馬	350			7	書名の書かれた封筒の中
499	紙	文献のコピー・書名不明	18			7	「人類学文献」の封筒の中
500	紙	ドイツ語文献コピー	1			7	「人類学文献」の封筒の中、全23ページ
501	冊子	Descent 理論の系譜	1		1982	7	「人類学文献」の封筒の中
502	紙	中国大陸古文化研究第1集	1		1965	7	「人類学文献」の封筒の中、全7ページ
503	紙	「日本人の生死観」コピー	1			7	「人類学文献」の封筒の中、全33ページ
504	紙	東南アジア地図	1			10	
505	冊子	“Mythen und Märchen”	1				
506	冊子	Bernat ■ ik: Akha u. Mean	1				
507	紙	原稿	1				全10ページ
508	紙	インドシナのミャオの葬制例一斑 (マラバイユ)	1				全2ページ

509	紙	領収書	1	1959 年 11 月 11 日		
510	紙	「死亡の報告」の原稿	3			
511	紙	「司祭の諸儀礼」原稿	134			
512	冊子	原稿用紙にメモ	1		9	「常見 東南アジアノート 講義ノート含む」の封筒の中
513	紙	メモ	10			
514	紙	メモ cp. 140b~143b	11			
515	紙	The Meo of xieug khouang promise Laos Project Paper の訳	1			全 6 ページ。「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
516	紙	戦いの唄 (335) 原稿	1			全 6 ページ。「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
517	紙	原稿	1			全 4 ページ。「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
518	紙	メモ「黎■」	1			全 2 ページ。「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
519	紙	メモ「グラハムツ苗の慣習」	1			全 2 ページ。「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
520	紙	原稿 cp. 249a~250a	1			全 11 ページ。「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
521	紙	メモ	1			全 4 ページ。「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
522	紙	メモ「シャーマン Lie ■■ gast と Helfeigiest? 」	1			「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
523	紙	メモ	1			「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
524	紙	調査カード	1			全 21 ページ。「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
525	紙	メモ「安部講」	1	1970 年 11 月 19 日		全 6 ページ。「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
526	ノート		2			「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
527	紙	「Phlo ethnography 企画祖案」	1	1976 年 2 月		全 3 ページ。「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
528	冊子	「三国時代の蛮について一孫呉の武陵蛮対策を中心として」	1	1971 年		抜刷。「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
529	紙	講義ノート	1			全 14 ページ。「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
530	紙	メモ「異類女房譚と■■■■」	1			全 21 ページ。「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
531	原稿		11			全 22 ページ。「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
532	原稿	ページでまとまっていないもの	6			全 23 ページ。「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
533	紙	短冊（年号などが書かれる）	51			全 24 ページ。「常見東南アジアノート講義ノート」の封筒の中。
534	紙	シャン族学校建設	12			「タイ シャン族小学校募金」の封筒の中。
535	紙	昭和 18 年参某本部 タイ地形図	1	1944		
536	紙	メモ	122			
537	紙	ミャオ族の弔葬儀礼「開路」	1			全 21 ページ
538	原稿用紙	メモ	1			
539	本	Ethnography of the Hill Tribes of Southeast Asia	1		7	Abridged Transration
540	冊子	RACE FORMATION OF THE MAORI AND MORIORI	1	1966	7	By Goro SHIMA and Makoto SUZUKI
541	冊子	IRRIGATION AND SOCIAL STRUCTURE: NARROW VALLEYS AND INDIVIDUAL ENTERPRISE	1	1966	7	By Peter Kunstadter University of Washington.
542	紙	Lolo 族のメモ	1		9	「東京都立大学社会学研究室」の封筒の中
543	紙	yao 族のメモ	3		9	「東京都立大学社会学研究室」の封筒の中
544	紙	Wu-Mo ■■ 又は Lolo のメモ	3		9	「東京都立大学社会学研究室」の封筒の中
545	紙	Chuang or TAI のメモ	3		9	「東京都立大学社会学研究室」の封筒の中
546	紙	「白竜」のメモ	2		9	「東京都立大学社会学研究室」の封筒の中
547	紙	TAN 族のメモ	1		9	「東京都立大学社会学研究室」の封筒の中
548	紙	CH'ANG 族のメモ	3		9	「東京都立大学社会学研究室」の封筒の中
549	原稿用紙	メモ	1			横書原稿用紙
550	紙	川苗の葬制に関する草稿	1			全 8 ページ
551	紙	「死」に関する草稿	1			全 2 ページ
552	紙	DIETRICH REIMER VERLAG IN BERLIN	1			
553	紙	メモ（単語の意）	5			
554	紙	「宗教」題されたノート	1			
555	紙	草稿あるいはメモ	124			種々雑多
556	写真		2			老人のものと仏郭建築 2
557	冊子	「華中・湖北—湖南平野のは竜船祭り」by GöranAijmer	1	1964	7	「爬龍船研究会」1~87 翻訳されたもの
558	ノート	「タイノート」日付等無し	4		4	
559	ノート	「西南中国ノート」	1		4	黄色リングノート
560	ノート	「タイノート」日付等有	12		4	黄表紙リングノート
561	紙	CPC 調査用カラーチャート A	3		8	
562	紙	西双版纳絵葉書	1		10	10 枚 1 セット・「シーサーバナナ絵葉書」の封筒内
563	冊子	西双版纳の絵葉書	1		10	10 枚 1 セット・「シーサーバナナ絵葉書」の封筒内

564	紙	中国大陸古文化研究第一集 中国少数民族特集	1		7	p17～27 複写「東南アジア文献資料」の封筒内
565	紙	LAMAISM (R. C. CUNNINGHAM)	1		7	6 ページ分複写「東南アジア文献資料」の封筒内
566	紙	JUORNAL W. C. BORDER REASEARCH SOCIETY	1		7	p99～104 複写「東南アジア文献資料」の封筒内
567	紙	PERSISTENCE OF CUSTOM AS ILLUSTRATED IN THE COLLECTION OF HAN DYNASTY CLAY IMAGES IN THE WEST CHINA UNION	1		7	p105～106 複写「東南アジア文献資料」の封筒内 UNIVERSITY MUSEUM
568	紙	AMONG THE FOOTHILLS OF THE CHINESE-TIBETAN BORDER	1		7	p107～113 の複写「東南アジア文献資料」の封筒内
569	紙	A PRELIMINARY REPORT OF THE HANSCOW EXCAVATION	1		7	20 ページ分の複写「東南アジア文献資料」の封筒内
570	紙	JOURNAC W. C. BORDER RESEARCH SOCIETY BOOK REVIEWS	1		7	209～285 の複写
571	紙	論文複写 (JORNAR W. C. BORDER RESEARCH SOCIETY)	1		7	p128～131、図版の複写
572	紙	THE WEST CHINA UNION UNIVERSITY MUSEUM	1		7	p132～137 の複写
573	紙	THE T'IENT MA WHAT IS IT	1		7	p140～141 の複写
574	紙	THE GOLDEN AGE AND DARK AGE IN HANCHOW, SZECHWAN	1		7	p208～239 の複写
575	紙	JOURNAL W. C. BORDER RESEARCH SOCIETY	1		5	p240～263 の複写
576	紙	PROCEEDINGS of the West china Border Research Society	1	1933 年～1934 年	7	序盤と終盤の複写
577	紙	HSIANG CH'ENG or DUHALDE'S "LAND OF THE LAMAS"	1		7	p12～29、図版の複写
578	紙	THE BARLEY QUEST, Arable Land In Eastern Tibet	1		7	p31～35 複写
579	紙	WEST CHINA BORDER RESEARCH SOCIETY	1		7	p36～80 の複写
580	紙	PROCEEDINGS of the West china Border Research Society	1	1934 年～1935 年	7	複写、INDEX
581	紙	THE TIBETAN LANGUAGE	1		7	p137～159 複写
582	紙	OM MA NI PAD ME HUM	1		7	p190～197 の複写
583	紙	SHORTER ALTICLES AND NOTES	1		7	p131～133 の複写
584	紙	THE SIX PLANKS ACROSS THE STREAM	1		7	p167～173 の複写
585	紙	TIBETAN MONSTER MASKS	1		7	p9～19 の複写
586	紙	LAMAISM	1		7	p25～33 の複写
587	紙	中国大陸古文化研究 華南・大陸東南アジアにおける山地民及び平地民の歴史民族学的研究 特集号	1	1980 年	7	p119～132 の複写
588	紙	Religionen der Naturvolker Indonesiens	1	インドネシア	7	複写
589	紙	台湾アミ族の住居と方位観	1	タイ	7	
590	冊子	食事模習論断章—靈魂と食事—	1	1978 年、11 月	7	
591	紙	文献模写	1		7	PREFACE～p19「東南アジア文献資料」のファイル内
592	紙	1987 年常見ゼミ住所録	2		廃棄	PREFACE～p20「東南アジア文献資料」のファイル内
593	紙	TRIAUS IN BURMA	1			本一冊 239 ページの模写
594	ファイル	「民族研究メモ」	1		4	「PAPER HOLDER」の印字が施された緑のファイル
595	本	An Introduction to the Thai (Siamese) for European Students	1	1955 年	7	「東南アジア資料」ファイル内
596	冊子	INDEX OF THE JOURNAL OF THE SIAM SOCIETY General Table of Contents	1		7	「東南アジア資料」ファイル内
597	本	l'Ecole Francaise	1	1917 年	7	「東南アジア資料」ファイル内
598	冊子	SONDERDRUCK	1	1966 年	7	「東南アジア資料」ファイル内
599	紙	馬端臨『文献通考』卷四商考「交趾」條	1		7	「東南アジア資料」ファイル (折りなし) の中 封筒内に文献の複写在中。
600	写真	カレン・メオ・イバン顔写真	1		2	一人当たり正面一枚、横顔一枚の二カット、15 ファイル写真合計 148 枚
601	写真	複写 写真資料 南シナ	35	南シナ		文献複写。
602	カセット	雲南奇趣録	1	香港	2	
603	冊子	KANTOR NOTARIS	1		7	「東南アジア 印刷物」の封筒の中
604	冊子	東南アジア史学会会報	1	東南アジア	1967 年 9 月 14 日	「東南アジア 印刷物」の封筒の中
605	紙	メモ?	6		7	ルーズリーフ書き「東南アジア 印刷物」の封筒の中
606	紙	ノートコピー「経済生活」	4		7	「東南アジア 印刷物」の封筒の中
607	冊子	ネパールにおける言語・文化・社会の動態 (研究報告)	1	ネパール	1986 年	「東南アジア 印刷物」の封筒の中
608	手紙	↑ 添え状	1		1990 年、9 月 26 日	「東南アジア 印刷物」の封筒の中
609	冊子	族譜を通してみた畚民 (傜族) の社会状況—古文獻の人類学的解釈への一試探—	1	ネパール	1968 年 3 月	「西南中国の民族学資料」の封筒の中
610	冊子	古代呉越の文化	1		7	「西南中国の民族学資料」の封筒の中
611	冊子	歴史教育研究実論	1		1964 年 9 月 15 日	「西南中国の民族学資料」の封筒の中
612	冊子	石田英一郎教授還暦記念論文集抜刷	1		7	白鳥芳郎著「西南中国の民族学資料」の封筒の中

613	冊子	東南アジアにおける文化複合の性格と民族国家形成の一類型—南詔王国形成を中心として—	1	東南アジア		7	白鳥芳郎著「西南中国の民族学資料」の封筒の中
614	冊子	民族系譜から見た華南史の構成試論	1		1968 年 2 月	7	白鳥芳郎著「西南中国の民族学資料」の封筒の中
615	冊子	Concerning the racial and cultural relation of the Miao	2	西南中国	1960	7	白鳥芳郎著「西南中国の民族学資料」の封筒の中
616	冊子	THAI, KADAI, AND INDONESIAN: A New Alignment in Southeastern Asia	1	東南アジア		6	Paul K. Benedict 文献複写。
617	地図	タイ地図	1	アジア		10	
618	紙	タイ ヤオ調査資料用紙	2	タイ		9	18 枚 1 冊・16 枚 1 冊
619	スケッチブック	タイ ヤオ族 資料	1	タイ		4	スケッチブックの中に多数の資料が挟まっている
620	冊子	タイ調査資料 印刷	1	タイ		9	146 枚紐とじ
621	紙	常見先生 原稿	1			9	修正原稿多数在中
622	紙	ヤオ族の住居と附属小屋	1	タイ		9	修正原稿多数在中
623	紙	文献 中国	300	タイ		7 ?	図版写真他多数、300 枚ほど。日本民族学研究所の封筒内。封筒は二つ折り、青ボールペン字。
624	紙	漢武帝に関する調査カード	16	西南中国			
625	ネガ	—	1	西南中国			
626	紙	調査カード	8	西南中国			ビルマ・インドシナ・南シナ・中国・タイ・ボルネオの民族分布図
627	紙	調査カード（白紙）	26	西南中国			
628	紙	メモ	7	西南中国			クリップ止め
629	紙	メモ	複数	西南中国			計算やちょっとしたメモなど多数
630	紙	領収書「民族画報」	1	東京			
631	紙	名刺 川谷勝潤氏	1	東京			中居色彩写真研究所
632	紙	名刺 伊東眞氏	1	東京			早稲田大学第一法学部
633	紙	民族学研究集 原稿	1				
634	紙	タイトル不明英文原稿	2				
635	紙	世界の秘境シリーズ第 68 集	1	世界		10	
636	本	ネパールパンフレット	2	ネパール		10	「Helambu」というタイトル
637	冊子	DELHT welcomes you	1	Delhi	1979 年	10	
638	冊子	ネパールパンフレット	2	ネパール		10	お祭り特集
639	冊子	ネパールパンフレット	2	ネパール		10	寺
640	冊子	ネパールパンフレット	2	ネパール		10	山の風景
641	冊子	ネパール観光ガイド	1	ネパール		10	
642	冊子	ネパールパンフレット	1	ネパール		10	ネパール航空
643	冊子	インド地図	1	インド		10	INDIAN SUBCONTINENT
644	冊子	東南アジア地図	1	東南アジア		10	ROUTEMAP
645	冊子	バンコクフリーペーパー	1	タイ		10	This WeeK
646	冊子	インド地図	1	インド		10	MAP of AGRA
647	冊子	釈迦一覽表	1	タイ		10	
648	紙	NEPAL RASTRA BANK	1	ネパール		10	
649	冊子	TRIBHUVAN UNIVERSITY RESEARCH CENTRE	1	ネパール	1978 年 12 月	10	
650	冊子	インド 観光ガイド	1	インド			
651	本	タイ 観光ガイドブック	1			10	*タイトル・中身全てタイ語のため解読できず
652	冊子	(抜刷) 佛教芸術 127 号	1		1979 年 11 月	7	「抜刷」と書かれた緑の封筒内
653	紙	ポストカード	3	雲南省			お花・風景などのポストカード
654	紙	広州博物館パンフ	2	広州			
655	紙	広州観光パンフ	1	広州			
656	紙	江東省 地図	1	江東省			
657	紙	中国都市ガイド 広州	1	広州			
658	冊子	南寧ガイドブック	1	南寧		10	
659	冊子	圓通山ガイドブック	1	圓通山?		10	
660	紙	昆明市地図	1	昆明市			
661	紙	昆明市パンフレット	1	昆明市			
662	紙	中国大陸古文化研究会のお知らせ	3		1976 年		
663	紙	中国大陸古文化研究会月例会資料	1		1976 年		
664	紙	ヤオ族の女王	1	タイ	1973 年		レジメ
665	紙	宋代・華南における土着種族の諸相	1	中国	1978 年、11 月		レジメ
666	紙	死者の旗	1	中国			レジメ
667	原稿用紙	メモ書き	複数				メモ
668	原稿用紙	会議(?) メモ	1				長谷川さん・村井さん・栗原さんの 3 名による会議録
669	紙	ノートコピー	1				麗江一帯民族と永寧一帯民族の比較
670	紙	白鳥ゼミナール研究発表会	1	中国	1978 年 5 月 8 日		
671	紙	同上 栗原さんレジメ	1	中国	1978 年 5 月 9 日		「イ族」について
672	紙	同上 長谷川さんレジメ	1	中国	1978 年 5 月 10 日		民主改革以前の Lu 族について
673	紙	納西族研究ノート	1	中国			
674	紙	栗原さんレジメ	1	中国	1979 年 12 月 15 日		西南中国におけるイ族の社会について
675	紙	参考資料	1	中国	1979 年 12 月 16 日		西南中国におけるイ族の社会について
676	冊子	新谷史彦・東海言学アラカノート?	1				解読不可
677	ノート	西南中国ノート	1	西南中国		4	黄表紙大学ノート
678	紙	アミ族の家	4	台湾			
679	冊子	Chinese and Thai Kin Numerative	1	中国・タイ		7	
680	冊子	Note on the west china aboriginal tribes	1	西南中国		7	
681	ノート	インド音楽資料	1	インド		4	
682	冊子	南アジア民族調査隊報告	4	南アジア		6	第 2 次、第 4 次、第 5 次のもの。第 5 次が 2 冊。
683	原稿用紙	メモ書き	1	台湾		8	アミ族の住居・屋敷と方位

684	紙	台湾・アミ族の住居と方位観	1	台湾		7	
685	ノート	東南アジアノート	1	東南アジア		4	青いリングノート
686	紙	タイ系諸王国の市場組織と～	1	タイ	1983 年 12 月	4	東南アジア史学会資料・長谷川氏
687	ノート	名称不明メモ書きノート	1				黄色いリングノート
688	ノート	インドネシアノート	1	インドネシア		4	葉っぱが数枚挟まっている
689	ノート	インドネシアノート	1	インドネシア		4	青いリングノート
690	ノート	インドネシアノート	1	インドネシア		4	緑の縞々ノート
691	ノート	インドネシアノート	1	インドネシア		4	クリーム色大学ノート
692	紙	インドネシアフィールドノート	1	インドネシア		8	メモ書き複数枚
693	紙	東南アジア稲作民族文化総合調査用	1	東南アジア		10	地図
694	紙	タイ調査研究会資料	1	タイ	1972 年 9 月 28 日	8	ヤオ・ボーシリアム村各戸制一般データ
695	紙	原稿用紙メモ多数	複数	タイ			下書きメモ書き他
696	紙	ヤオ語資料	複数	タイ			ヤオ語⇄日本語メモなど
697	紙	タイ資料英文	19	タイ		7	
698	ノート	タイ調査ノート	1	タイ		8	黄色表紙のノート
699	冊子	第2次西北タイ調査趣意書	2	タイ	1971 年	8	
700	紙	タイ家族構成	3	タイ		8	「family procreation
701	新聞	星暹日報	1	タイ?	1972 年	7	1972 年 1 月 7 日「タイ調査資料」の封筒の中
702	新聞	星暹日報	1	タイ?	1972 年	7	1972 年 1 月 22 日「タイ調査資料」の封筒の中
703	紙	メモ書き	8	タイ?		7	聞き取り調査時のメモか「タイ調査資料」の封筒の中
704	冊子	ハーモニックカラーチャート 166	1	日本		7	財団法人日本色彩研究所編「タイ調査資料」の封筒の中
705	紙	メモ書き	3	タイ		7	タイ語の調査等のメモ書き「タイ調査資料」の封筒の中
706	冊子	第二次西北タイ歴史調査趣意書	1	タイ		7	上智西北タイ歴史調査委員会「タイ調査資料」の封筒の中
707	紙	メモ書き	2	タイ		7	タイ語調査時メモ? 「タイ調査資料」の封筒の中
708	紙	カラーチャート	1			7	CPC 調査用カラーチャート A 「タイ調査資料」の封筒の中
709	本	タイ地図帳	1	タイ		7	タイトル解説できず。地図帳と思しき「タイ調査資料」の封筒の中
710	紙	タイ地図 (コピー)	1	タイ		8	タイを中心にラオス・ビルマ・カンボジアまで
711	紙	調査カード	22	タイ		8	
712	紙	メモ書き	21	タイ		8	
713	紙	調査シート	4	タイ		8	他のものと一緒に閉じられていたと思われる。
714	冊子	ヤオ族の住居、屋敷、村落と方位観	1	タイ		8	金具で止められている
715	冊子	タイトル不明	1	タイ		8	金具で止められている
716	冊子	タイトル不明	1	タイ		8	金具で止められている
717	冊子	タイトル不明	1	タイ		8	金具で止められている
718	冊子	タイトル不明「陰名について」?	1	タイ		8	金具で止められている
719	冊子	タイトル不明「家族形態について」	1	タイ		8	金具で止められている
720	冊子	タイトル不明「人の死について」	1	タイ		8	金具で止められている
721	紙	タイ語の読み方	1	タイ		8	
722	冊子	タイトル不明	1	タイ		8	金具で止められている
723	冊子	ノート③馮春龍の Supp	1	タイ		8	金具で止められている
724	紙	タイの家について (英文)	8	タイ			羊紙のような紙質
725	写真	民族衣装 写真	3	タイ			カラー2枚、モノクロ1枚「タイ 写真」の茶封筒に入っている
726	冊子	タイ調査日誌	1	タイ	1971 年	4	
727	紙	タイフィールドノート	1	タイ			「タイフィールドノート」と書かれた茶封筒
728	紙	カラーチャート	1	タイ		8	タイ語の色名称
729	紙	落書き帳 表紙	1			8	? 「タイノート」と書かれた封筒に入っている。
730	紙	メモ書き	4	タイ		8	「タイノート」と書かれた封筒に入っている。聞き取りや地図のメモ。
731	紙	旅程表リスト	7			8	「タイノート」と書かれた封筒に入っている。フライトや宿の情報。
732	紙	調査カード	42	タイ		8	「タイノート」と書かれた封筒に入っている
733	紙	英論文下書き稿	40	タイ			黄色いファイルに。
734	カセットテープ	FUJI CASSETTE DR120	1			2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。
735	カセットテープ	FUJI CASSETTE DR60	1			2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。
736	カセットテープ	SONY BHF120	1			2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。
737	カセットテープ	第10 回入学式 於体育館	1		1974 年 4 月 10 日	2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。
738	カセットテープ	「花まつり講演」	1		1973 年 6 月 7 日	2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。演題「この騒然とした世の中で」講師 泰正流先生 (大阪朝日編集局長)
739	カセットテープ	第6 回卒業式	1		1974 年 3 月 15 日	2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。
740	カセットテープ	0～584、584 学組墓前祭高橋進	1			2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。学組七回忌 墓前等 於 本堂 講演企画 A 面 0～584
741	カセットテープ	学組墓前祭 講演塚本哲「長谷川先生の人と思想」	1		1973 年 7 月 6 日	2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。宗教行事 講演「長谷川先生の人と思想」塚本哲先生
742	カセットテープ	予備折衝	1		1975 年 11 月 13 日	2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。
743	カセットテープ	予備折 昭和 50 年度学費値上予備折衝	1		1975 年 12 月 12 日	2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。
744	カセットテープ	No. 2 予備折衝	1			2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。
745	カセットテープ	No. 2	1			2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。VBA C-60
746	カセットテープ	No. 1 海南島	1			2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。「毛陽大隊の■■■■」
747	カセットテープ		1			2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。
748	カセットテープ		1			2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。
749	カセットテープ	淳海県 Market マデ	1		1982 年 2 月 18 日	2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。「Market ■■■■」

750	カセットテープ	インド・タイ	1		2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。ANOPGOSHA の3トの方。
751	カセットテープ		1		2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。「カルカッタ・G・E・Hの前の靴の客引き」
752	カセットテープ	C60F Low Noise Cassette Tape	4		2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。
753	カセットテープ	ANUP Ghosal 1	1		2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。
754	カセットテープ	1 ラビシヤンカール	1	1979 年 3 月 24 日	2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。「ラヴィシヤンカール」
755	カセットテープ	2	1		2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。「ラヴィシヤンカール 3」
756	カセットテープ	No. 3	1		2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。イナ保大■の文芸大■の歌と踊り Li 族
757	カセットテープ		1	2 月 18 日	2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。■隆飯店前道 2 月 18 日 16・半」
758	カセットテープ		1		2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。VBAC-60
759	カセットテープ		1		2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。Maxell Normal Bias 120as EQUP60
760	カセットテープ	ヤオ調査 Salacen208-253 サイセンのカイカツ	1		2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。「ヤオのマンラントン…後背山小■か」
761	カセットテープ	シャン・アカ	1		2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。「A・アカ」
762	カセットテープ	シャン	1	1979 年 8 月 14 日	2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。「Fuei Namkhon シャンの会合 2 回」
763	カセットテープ	I-N	1		2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。
764	カセットテープ	ヤオ調査	1		2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。「シャンの村人」
765	カセットテープ	ヤオ調査	1	A：3 月 27 日、 B：3 月 29 日	2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。A：「ヤオ放送」、B：「調査ノート パーレーイの移動と man ■ Long fon」
766	カセットテープ	ヤオ調査	1		2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。「ヤオラオシップ調査（手紙のウタ）」
767	カセットテープ	ヤオ調査	1		2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。「ラオシップ①」
768	カセットテープ	ヤオ調査	1		2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。「パレーラオシップ・ラオタ」「パタヤーのラオターの■■パタヤ調③」
769	カセットテープ	ヤオ調査	1		2	「XV タイ調査他」の紙が入ったケースに入っている。「パタヤーの②」
770	原稿用紙	d. 住居内の Guardiamspirit	1		8	770～787 まで同一ファイル内。7 枚綴じ
771	原稿用紙	e. 住居の間取りと道路の関係	1		8	770～787 まで同一ファイル内。7 枚綴じ
772	原稿用紙	f. 住居と水（川）との位置関係	1		8	770～787 まで同一ファイル内。6 枚綴じ
773	原稿用紙	g. 住居空間における双分的対立	1		8	770～787 まで同一ファイル内。7 枚コピー
774	原稿用紙	2. 男と女の双分的対立	1		8	770～787 まで同一ファイル内。10 枚コピー
775	原稿用紙	1. 住居	1		8	770～787 まで同一ファイル内。22 枚
776	原稿用紙	目次	1		8	770～787 まで同一ファイル内。9 枚
777	原稿用紙		1		8	770～787 まで同一ファイル内。23 枚
778	原稿用紙		1		8	770～787 まで同一ファイル内。24 枚
779	原稿用紙		1		8	770～787 まで同一ファイル内。11 枚
780	原稿用紙		1		8	770～787 まで同一ファイル内。10 枚
781	原稿用紙	c. トウモロコシ倉	1		8	770～787 まで同一ファイル内。10 枚
782	原稿用紙	b. 米倉 biao Lam	1		8	770～787 まで同一ファイル内。9 枚
783	原稿用紙		1		8	770～787 まで同一ファイル内。8 枚
784	原稿用紙	2. 穀物貯蔵庫と家畜十屋	1		8	770～787 まで同一ファイル内。1 枚
785	原稿用紙	h. 住居と墓の位置関係	1		8	770～787 まで同一ファイル内。4 枚
786	原稿用紙	7. マキヤ屋	1		8	770～787 まで同一ファイル内。1 枚
787	紙	メモ	1		8	770～787 まで同一ファイル内。1 枚。「前面＝正面」とあり。
788	原稿用紙	マキ小屋	1		8	788～792 まで同一ファイル内。1 枚
789	原稿用紙		1		8	788～792 まで同一ファイル内。6 枚
790	原稿用紙	3. 村落	1		8	788～792 まで同一ファイル内。6 枚
791	原稿用紙	天と地の形態	1		8	788～792 まで同一ファイル内。21 枚綴じ
792	原稿用紙	「堂皇置天・天皇置地」	1		8	788～792 まで同一ファイル内。22 枚
793	原稿用紙	住居 Piao	1		8	793～799 まで同一ファイル内。70 枚綴じ
794	原稿用紙		1		8	793～799 まで同一ファイル内。1 枚
795	原稿用紙	5 年前から 2 本	1		8	793～799 まで同一ファイル内。1 枚
796	原稿用紙	メモ	1		8	793～799 まで同一ファイル内。1 枚。①～④リストアップしてある
797	原稿用紙		19		8	793～799 まで同一ファイル内。すべて白紙
798	原稿用紙	メモ	1		8	793～799 まで同一ファイル内。裏面に英語メモあり
799	原稿用紙		1		8	793～799 まで同一ファイル内。手書きメモ
800	原稿用紙	死後の去界への道（■）	1		8	800～809 まで同一ファイル内。11 枚
801	原稿用紙	霊魂■	1		8	800～809 まで同一ファイル内。15 枚
802	原稿用紙		1		8	800～809 まで同一ファイル内。3 枚
803	原稿用紙		1		8	800～809 まで同一ファイル内。4 枚
804	原稿用紙	死後の去界	1		8	800～809 まで同一ファイル内。8 枚
805	原稿用紙	ヤオ族の宇宙観	1		8	800～809 まで同一ファイル内。39 枚
806	原稿用紙	2. 住居の建築と方向	1		8	800～809 まで同一ファイル内。1 枚
807	原稿用紙	註 1	1		8	800～809 まで同一ファイル内。

808	原稿用紙	註2	1		8	800～809 まで同一ファイル内。
809	原稿用紙		4		8	800～809 まで同一ファイル内。
810	原稿用紙		1		8	「ヤオ印刷済」の封筒に入っていた。
811	原稿用紙		1		8	「ヤオ印刷済」の封筒に入っていた。
812	原稿用紙	調査の概要	1		8	「ヤオ印刷済」の封筒に入っていた。
813	ファイル	家族（行）	1			沖縄の親族名称とその社会的側面（2）沖縄本島国頭村阿波の事例から。
814	冊子	すばる星の結婚とその背景―倭族における二つの七星姉妹婚姻譚の関係と世界観―	2		5	「原稿 常見純―「ヤオ族の移住と村落の形成―「マン・ラン・トン」、国見を中心として」（山本達郎先生古稀記念論文集）のための寄稿）」の封筒に入っていた。
815	原稿用紙	ヤオ族の移住と村落の形成 ノーマン・ラン・トーン（国見）を中心として	1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。55 枚コピー
816	原稿用紙	ヤオ族の移住と村落の形成 ノーマン・ラン・トーン（国見）を中心として	1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。5 枚。
817	原稿用紙	バ・コングランにおける「マン・ラン・トーン」	1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。4 枚。
818	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。1 枚。「一行はこの四■目の「くにみ」の結果に…？」
819	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。
820	紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。フェヤーモントホテル東京のメモ。
821	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。原稿用紙を 1/4 に切ったもの。裏面にメモあり。
822	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。赤ペンで書かれている。
823	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。原稿用紙の裏にメモあり。地図？
824	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。
825	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。フェヤーモントホテル東京のメモ。
826	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。
827	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。原稿の裏にメモあり。
828	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。5 枚。右上に 60～64 の番号あり。
829	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。2 枚。
830	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。11 枚。
831	原稿用紙	ヤオ族の移住と村落の形成	1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。6 枚。
832	原稿用紙	ヤオ族の移住と村落の形成―「マン・ラン・トーン」（国見）を中心として―	1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。4 枚。
833	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。6 枚。
834	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。3 枚。
835	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。1 枚。
836	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。7 枚。
837	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。14 枚。うち 2 枚は貼り合わせたもの。
838	原稿用紙	「マン・ラン・トーン」	1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。3 枚。
839	原稿用紙	「マン・ラン・トーン」	1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。4 枚。
840	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。8 枚。
841	原稿用紙	村落の立地条件	1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。2 枚。
842	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。5 枚。うち 2 枚は貼り合わせたもの。
843	原稿用紙		3		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。3 枚。
844	原稿用紙	「マン・ラン・トーン」	1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。原稿用紙 裏にメモあり
845	答案用紙	ヤオ族の移住と村落の形成―「マン・ラン・トーン」（国見）を中心として―	1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。淑徳大学の答案用紙。
846	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。3 枚。
847	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。3 枚。
848	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。4 枚。
849	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。12 枚。
850	紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。原紙に紙がついている。
851	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。「(8) 同上 P76」。
852	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。「72 の国のタイトル」。
853	原稿用紙	ヤオ族の移住と村落の形成―「マン・ラン・トーン」（盾塞■）を中心として―	1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。2 枚。東邦大学期試験の裏紙。
854	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。裏紙。
855	原稿用紙		3		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。メモ。
856	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。裏紙。
857	原稿用紙		2		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。
858	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。3 枚。

859	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。1 枚。
860	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。2 枚。
861	原稿用紙		2		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。原稿用紙裏面、地図か？
862	手紙		2		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。封筒と手紙が 2 セット
863	原稿用紙	常見純一宛 山本達郎先生古稀記念論叢編集委員会	1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。7 枚
864	原稿用紙	事件の発端	1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。9 枚
865	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。9 枚
866	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。8 枚
867	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。15 枚
868	原稿用紙		1		9	「原稿 常見～」の封筒に入っていた。26 枚
869	冊子	文化人類学リポート	1		6	表紙「人類学 030」。
870	冊子	文化人類学リポート	1		6	表紙「人類学 071」。
871	紙	大学院（修士）履修方法並学位授与について	1		5	5 枚とじ。
872	紙	昭和三十二年度大学院（修士課程）授業科目内容 人文・社会学研究科	1		6	13 枚とじ。
873	冊子	民族学博物館報 No. 20	1	1958 年 12 月	5	キモノ芸術展
874	冊子	東京都立大学大学院学則	1		5	
875	紙	パネル（厚紙）	1		8	「形質人類調査資料」の封筒に入っていた。顔や目が複数スケッチされている。
876	紙	パネル（厚紙）	1		8	「形質人類調査資料」の封筒に入っていた。顔や目が複数スケッチされている。白紙。
877	紙	紙	1		8	「形質人類調査資料」の封筒に入っていた。顔や目が複数スケッチされている。白紙。
878	紙	紙	2		8	鼻の形をスケッチしたもの。
879	紙	紙	2		8	口の形をスケッチしたもの。
880	紙	紙	7		8	目の形をスケッチしたもの。
881	紙	パネル（厚紙）	1		8	鼻と口のスケッチがはられている。
882	紙	パネル（厚紙）	1		8	男性の顔がスケッチされている。
883	紙	パネル（厚紙）	1		8	白紙。
884	紙	パネルシート	3		8	顔 etc3 枚。
885	冊子	Glossary	1		6	捺印が押されている。
886	紙	中古	1			7 枚。
887	紙	1781 Neckel; Comptredu an roi	1			
888	紙	革命暦	1			
889	紙		23			メモ。
890	紙	近代（世）の意義について	1			7 枚。
891	紙	近古後期明代 1368-1644	1			3 枚。
892	紙	上古の没落	1			
893	紙	近古 7 代—明末（907-1644）	1			2 枚。
894	紙	豪族の抬頭	1			8 枚。
895	原稿用紙		1			2 枚。常見純一宛て、彙文堂書店の封筒に入っていた。
896	原稿用紙	■■■	1			2 枚。
897	原稿用紙		1			2 枚。
898	紙	Ptolemin Seiyoshi gaisetsu	1			「西洋史概説の問題点」だろう。
899	紙	文化闘争 kultur kampf.	1			3 枚。
900	厚紙	y1500-	1		廃棄	「雑々雑中の雑 すてるも可」の封筒に入っていた。裏面に目次の下書きのようなものあり。
901	紙	昭和 32 年度大学院（修士課程）受験者への注意	1		廃棄	
902	紙	上智大学要覧	1		廃棄	
903	ノート		1		廃棄	2 つに分かれてしまっている。
904	紙		1		廃棄	
905	原稿用紙	進化主義	1		廃棄	
906	回答用紙		1		廃棄	「東京都立大学人文学文」の用紙。
907	紙	受講メモ	1	1982 年 5 月 8 日	8	「中国大陸古文化研究室 明代の■■省経営と■苗 喜田幹生」。
908	紙		1			古文書をコピーしたものと思われる。
909	冊子	OAMIS TAIWAN 台湾・3 族の住居と方位観	3			
910	原稿用紙	原稿	51		8	「常見ノート（原稿）方位観」の封筒に入っていた。1 枚は台紙にくっついている。
911	原稿用紙	原稿	10		8	「千葉（？）調査ノート国内漁村」の封筒に入っていた。
912	原稿用紙	原稿	20		8	「鹿島調査」の封筒に入っていた。淑徳大学社会学・人類学研究室原稿用紙。
913	原稿用紙	養沢部落調査ノート	1		8	「東京都下西多摩郡松原養沢調査ノート」の封筒に入っていた。9 枚。順天堂大学の原稿用紙。
914	アルバム	写真アルバム	1	1986 年 6 月 20 日～1986 年 8 月 5 日	8	「フィールドノート東京都下西多摩郡松原村三ツ郷 Aptipocks」の封筒に入っていた。
915	ネガ	ネガフィルム	1		8	「フィールドノート東京都下西多摩郡松原村三ツ郷 Aptipocks」の封筒に入っていた。
916	紙		1		8	「フィールドノート東京都下西多摩郡松原村三ツ郷 Aptipocks」の封筒に入っていた。7 枚。川越市役所の用紙。
917	紙		37		8	「調査ノート東京奥多摩？」の封筒に入っていた。
918	現像写真	写真	10		10	「丹羽山資料含写真地図」の封筒に入っていた。うち 7 枚は紙につつまである。

919	現像写真	写真	1		10	「丹羽山資料含写真地図」の封筒に入っていた。「高畑より→奥秋へ」。写真2枚を貼り合わせたもの。
920	現像写真	写真	1		10	「丹羽山資料含写真地図」の封筒に入っていた。「所畑を下から 所畑を下から」。写真2枚を貼り合わせたもの。
921	現像写真	写真	1		10	「丹羽山資料含写真地図」の封筒に入っていた。「(高畑と杉奈久保のイラスト入り)」。写真2枚を貼り合わせたもの。
922	現像写真	写真	1		10	「丹羽山資料含写真地図」の封筒に入っていた。「丹波宿(下から) viel T-6」。写真2枚を貼り合わせたもの。
923	現像写真	写真	1		10	「丹羽山資料含写真地図」の封筒に入っていた。「T-3 杉奈久保」。写真3枚を貼り合わせたもの。
924	現像写真	写真	1		10	「丹羽山資料含写真地図」の封筒に入っていた。「御祭」。写真7枚。
925	現像写真	写真	1		10	「丹羽山資料含写真地図」の封筒に入っていた。「保文瀬の下の家 vid・T-5」。写真5枚貼り合わせ。
926	現像写真	写真	1		10	「丹羽山資料含写真地図」の封筒に入っていた。「所畑所畑 T-2」。写真4枚貼り合わせ。
927	現像写真	写真	1		10	「丹羽山資料含写真地図」の封筒に入っていた。「vidT-4」。写真6枚貼り合わせ。
928	現像写真	写真	1		10	「丹羽山資料含写真地図」の封筒に入っていた。「鴨沢 vidT-1」。写真2枚貼り合わせ。
929	紙	領収書	1	1977 年 7 月 7 日	10	「丹羽山資料含写真地図」の封筒に入っていた。常見宛て、丹波漁場のもの。
930	紙	地図	8		10	「丹羽山資料含写真地図」の封筒に入っていた。裏面にメモ有り。
931	冊子	くつと健康 月星ゴム株式会社	1		7	「月星ゴム k. k. 資料 '68、10、12、■、小学生及び中学生『足』調査。くつと健康。」の封筒に入っていた。
932	紙	小学生及び中学生「足調査」	1		7	「月星ゴム k. k. 資料 '68、10、12、■、小学生及び中学生『足』調査。くつと健康。」の封筒に入っていた。10枚とじ。
933	冊子	L'ESPACE PHYSIQUE ET L'ESPACE GÉOMÉTRIQUE	1		6	「英論文資料」の封筒に入っていた。
934	紙	BIBLIOGRAPHY OF POLYNESIAN LINGUISTICS 1953-1966	1		6	6枚とじ。
935	紙		1			論文コピー。
936	紙		7			本の表紙や目次のコピー。
937	紙	DAS FISCHER LEXIKON VÖLKERKUNDE	1		6	本のコピー。
938	冊子	すばる星の結婚とその背景—倭族における2つの七星姉妹婚姻譚の関係と世界観	1			常見純一著。
939	紙	MAQUESAN VOCABULARY OF SPATIAL ORIENTATION, A CONTRIBUTION TO ETHNOSCIENCE	1		7	図2枚、計3枚。
940	紙	ウンナピッチャの両端の山際にあるムラ 墓・門中墓・ガン小の見取り図	3		8	
941	原稿用紙	親族名称	1		8	9枚とじ。東京都立大の用紙。
942	原稿用紙	戸主会(字会)	1		8	9枚とじ。裏面に「常見ノート」とあり。
943	紙	Inhaltsverzeichnis	1		6	コピー。5枚。
944	紙	目次	1			「第一篇民族学の歴史」と書いてある。
945	紙	VÖLKER KUNDE	7			
946	紙	辞書	13		6	コピーしたもの。
947	紙	調査表	4		8	「調査表 調査済」の封筒に入っていた。
948	紙	調査表	1		8	「調査表 調査済」の封筒に入っていた。3枚とじ。
949	封筒	研究会メモ他	1			中は空。京都府長岡京市役所の封筒。
950	原稿用紙		13			メモ。1枚だけ異なる様式の前稿用紙。
951	紙	「わが国企業の東南アジア進出に伴う緊張と摩擦」VI 海外生活の経験	1	1979 年 6 月 18 日	8	「学会発表メモ特定研究常見森高橋」の封筒に入っていた。5枚とじ。
952	紙	特定研究市村班「わが国企業の東南アジア進出に伴う緊張と摩擦」VI 海外生活の経験(資料)	1	1979 年 6 月 18 日	8	「学会発表メモ特定研究常見森高橋」の封筒に入っていた。4枚とじ。
953	紙	Archaeology in Ancient Sarawak & Taiwan	1	1974 年 11 月 17 日	7	「東南アジア資料」の封筒に入っていた。3枚とじ。
954	紙	Fifteenth Century Java in the Light of Ming Shih-lu	1		7	「東南アジア資料」の封筒に入っていた。3枚とじ。
955	紙	Fifteenth Century Java in the Light of Ming Shih-lu	1		7	「東南アジア資料」の封筒に入っていた。13枚とじ。裏面にメモあり。
956	紙	浦甘國史事零拾	1		7	「東南アジア資料」の封筒に入っていた。12枚とじ。裏面にメモあり。
957	紙	香港發現文暹羅陶瓷及其有關問題	1		7	「東南アジア資料」の封筒に入っていた。6枚とじ。
958	原稿用紙	常見ノート	1			「東南アジア資料」の封筒に入っていた。7枚とじ。
959	原稿用紙	すばる星の結婚—倭族に見られる二つの「土星姉妹」婚姻譚と去界観—	1		8	「常見氏 原稿色々」の封筒に入っていた。39枚。
960	紙		6		8	「常見氏 原稿色々」の封筒に入っていた。メモ。
961	紙	BEITRÄGE ZUR JAPANOLOGIE	1		6	ドイツ語。
962	封筒	レヴィ・ストロース 英文等	1			中は空。
963	原稿用紙		49		8	「常見メモ 市原」のビニール袋に入っている。

964	紙	明治 32 (1899) -昭和 21 年間の各年次に生まれた男子は昭和 19 (1944) -昭和 21 年 (1946) の 3 ヶ年にどの様に死んでいったであろうか。	1			8	「民族衛生学会」の封筒に入っている。4 枚。
965	紙		1			8	「民族衛生学会」の封筒に入っている。英文。6 枚とじ。
966	紙	I、家族構成の歴史的变化 (岐阜県白川村 T 家)	1			8	「民族衛生学会」の封筒に入っている。2 枚。
967	紙	日本人の健康と生活—家族社会学の立場から	1			8	「民族衛生学会」の封筒に入っている。
968	紙	人口問題についてのおもな数字	1			8	「民族衛生学会」の封筒に入っている。
969	紙	日本人の健康と生活	1			8	「民族衛生学会」の封筒に入っている。2 枚。
970	紙	七合村国保受診像から見た農村民の健康像	1			8	「民族衛生学会」の封筒に入っている。2 枚。
971	紙		1			8	「民族衛生学会」の封筒に入っている。2 枚。順天堂医院の用紙。
972	紙		1			8	「民族衛生学会」の封筒に入っている。6 枚。順天堂医院の用紙。
973	冊子	日本民族衛生学会総会	1			8	「民族衛生学会」の封筒に入っている。中に順天堂医院の用紙のメモあり。
974	紙	表	1			8	「民族衛生学会」の封筒に入っている。3 枚
975	紙	表	1			8	「民族衛生学会」の封筒に入っている。3 枚
976	紙	AN OCEANIC LEXICOSTATISTICAL STUDY REEXAMINED	1			5	「第 11 回太平洋学術会議」の封筒に入っていた。5 枚。
977	紙	CLASSIFICATION OF SUBSISTENCE TYPE OF THE ETHNIC GROUPS IN SOUTH AND SOUTHWESTERN CHINA	1			5	「第 11 回太平洋学術会議」の封筒に入っていた。4 枚。
978	紙	The Eleventh Pacific Science Congress UNIVERSITY OF TOKYO	1	1996 年 8 月 22 日-9 月 3 日		5	「第 11 回太平洋学術会議」の封筒に入っていた。地図。
979	紙	第 11 回太平洋学術会議 開会式	1	1967 年 8 月 22 日-9 月 4 日		5	「第 12 回太平洋学術会議」の封筒に入っていた。
980	紙	THE MULTI-LEVEL HOUSES OF THE MANOBO IN SALANGSANG	1	? 年 8 月 30 日		5	
981	紙		1				「第 12 回太平洋学術会議」の封筒に入っていた。6 枚とじ。
982	紙	ARCHAEOLOGY OF THE COOK ISLANDS	1				「第 12 回太平洋学術会議」の封筒に入っていた。17 枚とじ。
983	ノート	科研ニュース 編集部	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。文部省指定教育ノート中学校用
984	手紙		1	1950 年 9 月 16 日		8	「暁星高校 1951 頃」の封筒に入っていた。暁星高等学校中学校宛て、気象協會。中身は紙 1 枚。
985	紙	図書文部	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。2 枚。
986	原稿用紙	後記	2			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。2 枚。
987	原稿用紙	編集を終りて	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。2 枚。
988	原稿用紙	たんじえんと	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。4 枚。
989	原稿用紙	地球の重さを測ること	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。4 枚。
990	原稿用紙	発明発見と動機	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。4 枚。
991	原稿用紙	ブレーキ作用 = 使用スルプロペラー	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。8 枚
992	原稿用紙	人間はいかにして大空を征服したか?	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。12 枚。
993	原稿用紙	天気■報の発表まで	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。7 枚。
994	原稿用紙	可変ビッチプロペラ	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。6 枚。
995	原稿用紙	随筆写真 (一)	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。2 枚。
996	原稿用紙	翼につける安全装置	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。4 枚。
997	原稿用紙	発明発見と動機	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。5 枚。
998	原稿用紙	ウメグサ巨知識	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。3 枚。
999	ルーズリーフ		1	? 年 6 月 26 日		8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。3 枚。
1000	原稿用紙	雪	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。6 枚。
1001	原稿用紙	空気—風—気流	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。9 枚。
1002	原稿用紙	正倉院	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。16 枚。
1003	ルーズリーフ		3			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。すべて白紙。
1004	紙		1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。兵隊の絵が書かれている。
1005	紙	暁星科学研究会 図書貸出票	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。
1006	紙	輸送証明証	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。裏面にメモあり。
1007	紙	会則	1			8	「暁星高校 1951 頃」の封筒に入っていた。裏面にメモあり。
1008	紙		1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。計算が書いてある。
1009	はがき		1	1929 年 7 月 19 日		8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。平野元宛て、高橋盛鑑。
1010	紙		1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。スケジュール?
1011	紙	図書貸出票	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。
1012	紙	新会員募集	1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。裏面には会則がのっている。

1013	紙	実力鉄道知識問題	1		1928 年 11 月 2 日	8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。
1014	紙		1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。「暁星科学」のレイアウト下書き。
1015	紙		4			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。メモ。
1016	原稿用紙		1			8	「暁星高校 1950 頃」の封筒に入っていた。クリップで留めていた形跡あり
1017	紙		1			6	「雑」のファイルに入っていた。タイ語。18 枚。
1018	紙	Bot ti Prateht pur-ah ban	1				「雑」のファイルに入っていた。タイ語。18 枚。
1019	紙	古典松曳木追眼丹波山村	1			5	「雑」のファイルに入っていた。06 枚。赤字で修正が入っており、正確なタイトルではない可能性あり。
1020	紙	Ⅲ 通過儀礼	1			7	「雑」のファイルに入っていた。「上智大学通過儀礼質問項目」の封筒に入っている。13 枚。
1021		[2] 年中行事	1			7	「雑」のファイルに入っていた。「民族調査項目年中行事上智大学、史学研究会」の封筒。8 枚。
1022	冊子	O ■ E レポート 90 号 奥多摩山岳会	1		1957 年 5 月	5	「雑」のファイルに入っていた。
1023	紙	会費未納通知について	1			5	「雑」のファイルに入っていた。O ■ E レポート 90 号にはさんである。
1024	紙		1			5	「雑」のファイルに入っていた。O ■ E レポート 91 号にはさんである。出欠と会費に関する通達。
1025	紙	出欠はがき	1			5	「雑」のファイルに入っていた。O ■ E レポート 92 号にはさんである。門馬武伯宛て。
1026	冊子	O ■ E レポート 91 号 奥多摩山岳会	1		1957 年 6 月	5	「雑」のファイルに入っていた。
1027	紙	平成三年度学年暦	1			10	「雑」のファイルに入っていた。2 枚
1028	インデックスプリント		23			2	「雑」のファイルに入っていた。「学会 博多 九大 1957 年連合大会 写真」
1029	紙	日本人類学会日本民族学協会連合第 12 回大会発表 (九州大学医学部)	1		1957 年 10 月 24 日～27 日	2	「雑」のファイルに入っていた。「学会 博多 九大 1958 年連合大会 写真」。4 枚。
1030	紙		1				「雑」のファイルに入っていた。ドイツ語。33 枚。
1031	冊子	日蘭交渉史関係資料目録 (主として海外所蔵並に出版文献)	3		1955 年 11 月 1 日	5	「雑」のファイルに入っていた。
1032	紙	西南中国貴州省における非漢民族の文化特徴	1	中国			人類学文献ファイル・10 枚コピー
1033	紙	LE MOM DU CHAMAN DANS LES TEXTES	1				人類学文献ファイル。20 枚。フランス語「トルコ・モンゴル資料におけるシャーマンの名」
1034	紙	アジア全図	1	アジア		10	雑ファイル
1035	紙	IV GESELLUNG	1			8	雑ファイル。11 枚。「名古屋大学医学部図書館内名古屋医学会」の封筒内
1036	紙	原稿用紙	1			8	2 枚クリップ留め 雑ファイル。クンソデッドマー「民族学概論」封筒
1037	紙	調査カード	1				雑ファイル。11 枚。クンソデッドマー「民族学概論」封筒
1038	紙	北部沖縄の若干部落における親族と祭祀——《門中》制度の未発達 のムラ社会における父系的親族組織の側面——	1	沖縄			竹村卓二著ファイル。6 枚。第 19 回日本人類学会日本民族学会連合大会における発表の要旨。同名の封筒内。
1039	紙	日本における年令集団組織の諸類見	1			5	竹村卓二著ファイル。6 枚。
1040	冊子	チモール の諸王國	1	東ティモール		5	竹村卓二著ファイル。
1041	紙	伊豆新島における家の神	1			5	竹村卓二著ファイル。日本民族学会？
1042	紙	日本の婚姻儀礼	1			5	竹村卓二著ファイル。11 枚
1043	紙	社会科学習指導案	3	日本		5	常見論文ファイル。
1044	紙	ミャオ族の絵姿女房譚とその発見	1	タイ		5	常見論文ファイル。8P
1045	冊子	村学究	1		1953 年 12 月 8 日	11	32P
1046	本	暁星 第 3 号	1		1957 年 12 月	5	雑ファイル。学園同窓会誌。
1047	紙	メモ	1				雑ファイル。5 枚。英字。
1048	紙	横浜地図	1	横浜	1939	10	雑ファイル。
1049	紙	近森正 カンボジアの淡水漁業	1	カンボジア		8	雑ファイル。3 枚。
1050	紙	ESPACE ET DIMENSION	1			6	雑ファイル。6 枚。フランス語。
1051	紙	岩井大慧講義録	1		1959 年	8	雑ファイル。2 枚組×5 セット 10 枚
1052	紙	ヤオ族の民族について	1	タイ			「翻訳の参考にしてください」ファイル。5 枚
1053	紙	タイの村落について	1	タイ			「翻訳の参考にしてください」ファイル。3 部。英文。
1054	紙	ヤオ族の村落について	1	タイ			「翻訳の参考にしてください」ファイル。34 枚コピー。
1055	冊子	常見ビル計画案	1	日本		10	人類学 英文資料。
1056	紙	業績報告書	1	日本		10	人類学 英文資料。15 枚
1057	紙	産育について	1	青森		11	青森調査報告名称。11 枚。
1058	紙	村学究	1				青森調査報告名称。
1059	ノート	赤子の呼び方 他	1		1964 年 12 月	11	青森調査報告名称。
1060	ノート	儀礼の調査ノート？	1			11	青森調査報告名称。
1061	ノート	親族名称の調査	1			11	青森調査報告名称。4 冊シリーズ。
1062	ノート	親族名称の調査	1			11	青森調査報告名称。43 枚。サクラフィルム封筒入り。
1063	紙	The Musical Structure of Taue-bayashi	1			6	人類学関係英論文。3 枚。
1064	冊子	糸とじ本	2		2005 年 1 月 17 日		人類学関係英論文。
1065	冊子	Tungusen und Miao.	1		1930 年	6	人類学関係英論文。ドイツ語。
1066	紙	ドイツ語論文	1			7	人類学関係英論文。ドイツ語 95 枚。
1067	冊子	Die Geschicrite des institutes fur Volkerkunde.	1		1924～1954 年	7	人類学関係英論文。ドイツ語。
1068	冊子	Zur kulturhistorischen stellung Mutterrechch tes den Tuareg	1			7	人類学関係英論文。ドイツ語。
1069	紙	The Tibetan system	1			7	人類学関係英論文。34 枚。英語。

1070	紙	An Analysis of Annamese kinship terms	1			7	人類学関係英論文。26 枚。英語。
1071	写真	インスタントカメラ写真	55	雲南		2	フォトマアルバム 3 冊
1072	冊子	LIFE AMONG THE LAMAS OF CHONI Describing the Mystery Plays and Butter Festival in the Monastery of an Almost Unknown Tibetan Principality in Kansu Province, China BYJOSEPH. F. Rock	1				p. 569-p. 620 バラバラになっている。By Joseph F. Rock Festival in the Monaster yofan almost Unknown Tibetan Principality in Konsu Province china
1073	原稿用紙	四浅水播網■■■	1				9 枚クリップ留め
1074	原稿用紙	下書き	1				1 枚メモのようなもの
1075	原稿用紙	手紙	1				常見先生宛ての内容
1076	ネガ	ネガフィルム	1			2	無記入のケース入り
1077	インデックスプリント	インデックスプリント	10			2	上記ネガのもの、同封、裏面に B-1 ^e と記入有り
1078	写真	写真	1			2	カヌーに乗る人々の写真、裏面に '81 ■■■州■■長崎市■■田 NBC は広■■の VIDEO あり、と記入有り
1079	インデックスプリント	インデックスプリント	7			2	裏面に 2 I-1~ I-7 の記入有り
1080	ネガ	ネガフィルム	1		1962 年 11 月 11-13 日	2	博士課程入る■■、研究室の箱根行 6 と記入のあるケース
1081	ネガ	ネガフィルム	1			2	No49 善福寺公園一満一か月の浩 IfordASA20
1082	インデックスプリント	インデックスプリント	2			2	上記同封。
1083	紙	台湾高山族始祖創生 説 類型的族群分布図	1			7	地図、トレーシングペーパー
1084	冊子	台湾原住民図誌	1				第 1 巻ヤミ族、6 ページ。英題「THE ILLUSTRATED ETHNOGRAPHY OF FORMOSAN ABORIGINIES」
1085	冊子	明末における漢緬境域の情勢について (上)	1			5	太田常蔵 東京学芸大学研究報告第六集 抜刷 p. 29~p. 36 (368-361)
1086	冊子	明末における漢緬境域の情勢について (下)	1	1958 年		5	太田常蔵 東京学芸大学研究報告第六■■集 抜刷 p. 9~p. 17
1087	冊子	儂智高の反乱をめぐる諸問題	1			5	岡田宏二 大東文化大学紀要十七号人文科学別刷 謹呈常見純一先生の記載あり p93~p112
1088	冊子	早大東洋史部会	1		1947 年	5	5 ページ
1089	冊子	研究紀要 第 7 号	1		1964 年	5	安田学園 p. 1~p. 102
1090	冊子	研究紀要 第 18 号	1		1977 年	5	安田学園 p. 1~p. 59
1091	冊子	研究紀要 第 19 号	1		1979 年	5	安田学園 p. 1~p. 79
1092	冊子	中国古歳時記の研究 その二 「四時纂要」訳注稿 (二)	1		1980 年	5	安田学園研究紀要第 20 号抜刷 渡部武 常見先生の記載あり p. 1~p. 44
1093	写真	集合写真	1				上記抜刷に挟まれている
1094	手紙	手紙	1				上記抜刷に挟まれている
1095	冊子	五代楚王国の「溪州銅柱」について	1		1984 年 3 月 31 日	5	岡田宏二 大東文化大学紀要第 20 号別冊 謹呈 常見純一先生 筆者 p. 123~p. 143
1096	冊子	「南州異物志」輯本稿 (その二・完)	1			5	安田学園研究紀要第 3 号 小川博 常見純一■■■の記載あり。P. 35~p. 45
1097	紙	土官底簿に見える土司の姓と族種	1			5	4 ページ、ホチキス留め
1098	紙	図版	1				上記の図版 13 ページ ホチキス留め
1099	プリント	SONGS AND STORIES OF THE CHUAN MIAO				6	BV DAVID CROCKETTGRAHAM p. 1~p. 19 一部書き込みあり 複数部あり。
1100	紙	学生による和訳	4			6	上記論文の和訳、名簿
1101	ノート	陰暦の正月 (和訳)	1			8	貴州省の海貝苗族
1102	ノート	女司祭或いは女シャーマン (和訳)	1			8	貴州省の海貝苗族
1103	紙	柔父随筆	1			5	松崎鶴雄著 座右■■刊行會版 p229~261 複写。
1104	プリント	タイトル不明 英論文	1				9 枚バラバラ
1105	紙	タイトル不明 中国語論文	2			8	p41、p102
1106	原稿用紙	下書きなど	1			8	「漢代西南夷侵略と犍■■郡■■■の■■■」
1107	冊子	報告 (2)「犍為郡設置後における漢の西南夷対策とそれを物語る資料について	1			8	梗概
1108	冊子	特に潮田■■■の見解との関連において					p1、p35
1109	プリント	中国語プリント	1			8	9 ページ クリップ止め
1110	はがき	郵便はがき	1			8	上智大学図書館 本の返却について
1111	紙	下書きなど	1			8	11 枚
1112	紙	東洋文庫圖書閲覧申込表	1			8	未記入
1113	ポスター	地名、地図	2	中国		8	上智大学史学会部会にて譲と封筒に記載有り
1114	原稿用紙	論文原稿 下書き	1			8	「常見原稿ノート」封筒 38 枚 10 枚
1115	プリント	中国語論文	1				10 枚バラバラ
1116	紙	調査ヤード	6				
1117	原稿用紙	下書き	1			8	3 ページ 名簿あり
1118	ポスター	親族名称表	1			8	「苗族の親族呼称に関する最近の動向」の封筒
1119	原稿用紙	MEAU 族の KmShip term	1			8	
1120	原稿用紙	芮逸夫：ミャオ族親族組織の名称構造	1			8	4 枚クリップ止め
1121	原稿用紙	① Teknongmg	1			8	2 枚クリップ止め
1122	原稿用紙	② Tekeisongmy	1			8	2 枚クリップ止め
1123	原稿用紙	③ Spousalideutity	1			8	3 枚クリップ止め
1124	原稿用紙	⑤ Deference	1			8	4 枚クリップ止め
1125	原稿用紙	⑥ Han-Chinese の諸影響	1			8	4 枚クリップ止め
1126	原稿用紙	結語	1			8	3 枚クリップ止め
1127	原稿用紙	組織の分析	1			8	5 枚クリップ止め
1128	紙	漢字資料	1				342 枚
1129	原稿用紙	下書き MOSO	1			8	4 枚クリップ止め
1130	原稿用紙	下書き NUTSĪ	1			8	5 枚クリップ止め
1131	原稿用紙	下書き K'TUTSĪ	1			8	4 枚クリップ止め
1132	原稿用紙	下書き SIHIA	1			8	5 枚クリップ止め

1133	原稿用紙	下書き 少数民族の言語文字使用の情况	1			8	1 枚
1134	紙	地図	2				トレーシングペーパー
1135	原稿用紙	下書き	1				17 枚 サイズバラバラ 一部クリップ止め
1136	原稿用紙	モン族と羌族の祭天儀礼	1			8	メモなど 25 枚
1137	原稿用紙	下書き	1				16 枚バラバラ
1138	ノート	ハンス・スチューベル：雲南に於ける大花苗の村落Ⅰ	1			11	赤字注記「〈常見訳稿〉ノート 5 冊」の封筒に、訳稿の草稿と思しきものと同封。
1139	郵便はがき	はがき	1			11	平松昌子から常見純一 上記ノートに挟み込み
1140	ノート	ハンス・スチューベル：雲南における大花苗の村落Ⅱ	1			11	赤字注記「〈常見訳稿〉ノート 5 冊」の封筒に、訳稿の草稿と思しきものと同封。
1141	ノート	ハンス・スチューベル：雲南における大花苗の村落Ⅲ	1			11	赤字注記「〈常見訳稿〉ノート 5 冊」の封筒に、訳稿の草稿と思しきものと同封。
1142	ノート	ハンス・スチューベル：雲南における大花苗の村落Ⅳ	1			11	赤字注記「〈常見訳稿〉ノート 5 冊」の封筒に、訳稿の草稿と思しきものと同封。
1143	ノート	ハンス・スチューベル：雲南における大花苗の村落Ⅴ	1			11	赤字注記「〈常見訳稿〉ノート 5 冊」の封筒に、訳稿の草稿と思しきものと同封。
1144	本	版納人物志	1	中国	1982 年 1 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1145	本	大理文化 第 2 期	1	中国	1981 年 4 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1146	本	大理文化 第 4 期	1	中国	1981 年	5	「中国雑誌」封筒入り
1147	本	拉■族社会■史調査	1	中国	1980 年	5 ?	「中国雑誌」封筒入り
1148	本	山茶 第 2 期	1	中国	1982 年	5	「中国雑誌」封筒入り
1149	本	民族文化 第 1 期	1	中国	1980 年 7 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1150	本	民族文化 第 9 期	1	中国	1982 年 2 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1151	本	民族文化 第 8 期	1	中国	1982 年 1 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1152	本	民族文化 第 2 期	1	中国	1980 年 2 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1153	本	民族文化 第 4 期	1	中国	1981 年 4 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1154	本	民族文化 第 1 期	1	中国	1981 年 1 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1155	本	民族文化 第 2 期	1	中国	1981 年 2 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1156	本	民族文化 第 3 期	1	中国	1981 年 3 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1157	本	民族文化 第 3 期	1	中国	1980 年 12 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1158	本	辺疆画刊	1	中国	1981 年 12 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1159	本	辺疆画刊	1	中国	1982 年 2 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1160	本	社会	1	中国	1981 年 10 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1161	本	版納	1	中国	1981 年 7 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1162	本	大理文化	1	中国	1982 年 2 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1163	本	版納	1	中国	1981 年 10 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1164	本	朋友族社■史調査	1	中国	1980 年 10 月	5	「中国雑誌」封筒入り
1165	紙	「事關人過律」について	1	中国		5	「漢文資料コピー」2 枚
1166	ノート	勞幹「象郡群柯和夜郎的關係」	1	中国		4	「漢文資料コピー」。DesignBook 茶色ノートに複写が貼付されている。
1167	紙	漢字資料	1	中国		5	「漢文資料コピー」193 枚
1168	紙	漢字資料	1	中国		5	「漢文資料コピー」450 枚
1169	冊子	中国の漁業政策と漁業生産の現状	1	中国		5	「日中漁業」封筒
1170	紙	中国大陸古文化研究	1	中国	1966 年	5	「中国文献」封筒 ホチキス止め
1171	紙	中国大陸古文化研究	2	中国	1980 年	5	「中国文献」封筒 ホチキス止め
1172	紙	傣族の經典“人の生命を延ばす祭”の翻訳と註解	1	中国	1959 年	8	「中国文献」封筒 クリップ止め
1173	本	民間■物故事	1	中国		5	「中国雑誌」封筒
1174	本	大理風情録	1	中国		5	「中国雑誌」封筒
1175	本	阿■山和調■江的歌	1	中国		5	「中国雑誌」封筒
1176	本	西双版纳密林的趣聞	1	中国		5	「中国雑誌」封筒
1177	本	三只■	1	中国		5	「中国雑誌」封筒
1178	本	車里	1	中国		5	「中国雑誌」封筒
1179	冊子	昆明黑龍潭 風光	1	中国	1979 年	5	「中国雑誌」封筒
1180	本	■■西賀	1	中国		5	「中国雑誌」封筒
1181	本	民間情歌	1	中国		5	「中国雑誌」封筒
1182	本	「周礼」■中有■■条文的解釈	2	中国		5	「中国雑誌」封筒
1183	本	人■社会■展史活	1	中国		5	「中国雑誌」封筒
1184	本	養玻璃	1	中国		5	「中国雑誌」封筒
1185	本	■川石窟	1	中国		5	「中国雑誌」封筒
1186	雑誌	China Reconstructs	1	中国	1982 年	5	「中国雑誌」封筒
1187	雑誌	China Reconstructs	1	中国	1981 年	5	「中国雑誌」封筒
1188	新聞	語言美	1	中国	1982 年	5	「中国雑誌」封筒
1189	紙	婚姻	1	中国		8	湘西苗族の儀礼 12 枚
1190	紙	家庭	1	中国		8	湘西苗族の儀礼 2 枚
1191	紙	呪術と宗教	1	中国		8	湘西苗族の儀礼 ルーズリーフ 11 枚
1192	紙	家庭	1	中国		8	湘西苗族の儀礼 原稿用紙 2 枚
1193	紙	湘西苗族の儀礼	1	中国		8	湘西苗族の儀礼 ルーズリーフ 1 枚
1194	紙	苗族の地理分布	1	中国		8	湘西苗族の儀礼 原稿用紙 14 枚
1195	紙	吃猪（ブタ）	1	中国		8	湘西苗族の儀礼 2 枚
1196	紙	祭祖	1	中国		8	湘西苗族の儀礼 6 枚
1197	紙	書評	1	中国		8	人類学 中国資料 4 枚
1198	紙	原稿用紙	1	中国		8	人類学 中国資料 12 枚 リング片止め
1199	紙	英文漢文和訳	1	中国		8	人類学 中国資料 10 枚 ルーズリーフ
1200	紙	民間文学	1	中国	1955 年～1957 年	8	人類学 中国資料 原稿用紙 3 枚
1201	紙	黎族の親族名稱	1	中国		8	人類学 中国資料 原稿用紙 3 枚
1202	紙	漢族の親族名稱	1	中国		8	人類学 中国資料 クラフト紙 1 枚
1203	紙	「台湾及東南亜の同胞～」	1	中国		8	人類学 中国資料 5 枚 + 白紙数枚

1204	紙	ミャオ族調査メモ	1	中国		9	ミャオ族封筒 12 枚
1205	紙	ミャオ族調査メモ	1	中国		9	ミャオ族封筒 13 枚 クリップ留め
1206	紙	ミャオ族調査メモ	1	中国		9	ミャオ族封筒 11 枚
1207	紙	ミャオ族調査メモ	1	中国		9	ミャオ族封筒 8 枚
1208	紙	ミャオ族調査メモ	1	中国		9	ミャオ族封筒 9 枚
1209	紙	ミャオ族調査メモ	1	中国		9	ミャオ族封筒 1 枚
1210	紙	ミャオ族調査メモ	1	中国		9	ミャオ族封筒 12 枚
1211	紙	人類学文献（ミャオ）	1	中国			439 枚 コピー
1212	紙	下書き 大洪水	1			8	2 枚 クリップ留め Savina F, M Histore de Miao の封筒に入っている
1213	紙	目次 V-1	1				5 枚 ホチキス留め Savina F, M Histore de Miao の封筒に入っている
1214	紙	《宗教》	1	タイ		8	北部タイの白ミャオ族（Dhuratsadorn: The White Meo）5 枚クリップ留め
1215	紙	“家の諸精霊と禁止。”	1	タイ		8	北部タイ白ミャオ族 House-Spirits, An Offence againststirt 3 枚クリップ留め
1216	紙	下書き	1			8	8 枚クリップ留め
1217	紙	山■氏■授 Vannicelli: ミャオの祭祀と宗教	1	タイ		8	10 枚クリップ留め
1218	紙	下書き	1			8	7 枚クリップ留め
1219	紙	Graham: Chuan Mioco2	1			8	2 枚クリップ留め
1220	紙	BULLETIN DE l'E'cole Franaise D'EXTRÊME-ORIENT	2			5	サイズ違い 2 部 モン族の封筒
1221	紙	和訳ノート	1				サイズバラバラ 計 79 枚
1222	原稿用紙	『苗族の弔儀礼葬儀礼』《開路》	1				3 枚クリップ留め
1223	紙	漢字資料	1			5	2 枚。文献複写「史記評林卷之一百一十六」その他
1224	紙	文献	1			5	唐樊綽撰『蠻書』十巻の封筒
1225	紙	メモ 下書き	1				8 枚バラバラ
1226	原稿用紙	下書き	1				37 枚バラバラ
1227	紙	包装紙の一部	1				
1228	紙	庭州の位置について（史料集）	1				長澤和俊
1229	紙	漢字資料	1			5	22 枚。複写資料紫色に変色か。処々に書き込みあり。
1230	紙	第四回原水爆禁止世界大会を成功させよう	1			5	裏面を使用 メモ
1231	紙	一、「依前」について	1			5	書き込みあり
1232	紙	二、「大中祥符二年五月二十八日の條について」	1			5	書き込みあり
1233	冊子	史記西南夷列傳	6			5	漢司馬遷著 唐司馬貞素隠
1234	冊子	前漢書卷九十五西南夷傳第六十五	1			5	
1235	紙	華陽國志卷四	12			5	2 枚 1
1236	紙	地図	2	雲南省		5	
1237	紙	漢字資料	1				バラバラ 19 枚
1238	紙	メモ	2			5	
1239	紙	フランス中世史附図 2（上智大史学科）	1			5	
1240	紙	「南洋上代史雑考」	1			5	桑田六郎（大阪大学文学部 紀要Ⅲ 195）
1241	紙	隋常駿行程諸氏考証一覽図	1			5	
1242	紙	南洋上代史雑考 附図	1			5	桑田六郎 大阪大学文学部紀要第三巻 1944 年 3 月
1243	紙	「宋代神宗朝に於ける制科停廃と党争の關係」参考資料	1			5	荒木敏一
1244	紙	参考資料	1			5	
1245	冊子	徳之島採集手帖 NO. 17	1	鹿児島	1971 年 10 月 20 日	6	「他者学会資料」封筒。P1-14（175-188）
1246	紙	大塚民俗学会報	5		1972 年 11 月～1974 年 2 月	6	「他者学会資料」封筒。No. 26-No30
1247	冊子	史學第三十巻第 4 号虎抜刷 約束考	1			6	「他者学会資料」封筒。P39-53（455-471）
1248	冊子	Social Anthropological Resarches in India Some Preliminary Observations.	1				「他者学会資料」封筒。by. h. 9. VIDYARTHI 74 ページ。
1249	冊子	体育における主体的人間形成の構造（試論）	1			6	「他者学会資料」封筒。P179-184。
1250	紙	研究発表抄録	1		1964 年 10 月 11-12 日	6	「他者学会資料」封筒。2 ページ。倉田勇様と記載。タイトル「沖縄・那覇の商業演劇における穀物期限神話のドラマ《長者の大王》——眞境名由康氏を話者として——」
1251	冊子	焼畑農耕民の村落の形態と構造—東南アジア・南米の事例を中心に—	1		1965 年 12 月	6	「他者学会資料」封筒。人文学報第 21 号抜刷。佐々木高明。謹呈 常見純一様と記載。P79-128.
1252	冊子	わが国の焼畑経営方式の地域的類型—わが国の〈主穀生産型〉焼畑の経営類型に関する地誌的研究	1		1968 年 9 月	6	「他者学会資料」封筒。史林五十一巻五号抜刷 佐々木高明 P. 91-129（545-751）
1253	冊子	沖縄の集落（平民百姓村の景観的研究）	1		1963 年 5 月	6	「他者学会資料」封筒。琉大文学部紀要第七号別刷 仲村彌秀 p123-175 謹呈 赤嶺先生 若者と記載あり
1254	冊子	焼畑農業の研究とその課題—〈焼畑の比較地理学〉への序論	1		1965 年 12 月 28 日	6	「他者学会資料」封筒。人文地理誌第 17 巻第 6 号抜刷。謹呈 常見純一様。
1255	冊子	わが国における焼畑の地域的分布—日本の焼畑の地域的類型に関する研究	1		1966 年 10 月	6	「他者学会資料」封筒。立命館大学 第二五六号 抜刷
1256	冊子	文化人類の宝庫 ニューギニア芸術展	1		1962 年 9 月 11 日	6	「他者学会資料」封筒。18 ページ。慶応義塾大学文学部民族学研究室からの差し込みあり。
1257	冊子	文学研究 中国の羽衣 説話（一）型と分布	1			6	「他者学会資料」封筒。君島久子 p9-20

1258	冊子	中国の羽衣説話（二）—日本の説話との比較—	1		6	「他者学会資料」封筒。文芸研究第二号別刷 君島久子 常見純一様 恵存と記載あり
1259	冊子	中国南部少数民族の成年式について	1	1967 年	6	「他者学会資料」封筒。大林太良 抜刷 一橋論叢 57 巻 6 号（1967 年 p770-777）
1260	冊子	華南土着住民の種族＝民族分類とその史的背景	1	1967 年	6	「他者学会資料」封筒。上智大学 12 号 1967 常見純一学兄 恵存 白鳥芳郎と記載あり。P24-49
1261	冊子	インドシナにおける製塩の民族史的意義	1		6	「他者学会資料」封筒。大林太良 p69-84 一橋論叢 第 58 巻第 1 号
1262	冊子	憑きもの現象と社会構造 社会人類学的アプローチ	1	1969 年 3 月	6	「他者学会資料」封筒。吉田禎吾 上田将 九州大学教育学部紀要 第 14 集 別刷 p125-143
1263	冊子	CULTIVATED RICE PLANTS IN THE BASIN OF MEKONG RIVER	1	1960 年 3 月 10 日発行	6	「他者学会資料」封筒。Report of systhetic Research of Culture of Southeast Asian Countries No1 THE JAPANESE SOCIETY OF ETHNOLOGY JUKYU CHO pp. 1-3
1264	冊子	宋代の殺人祭鬼について	1		6	「他者学会資料」封筒。河原正博法政史学 19 号（昭和 42 年 1 月抜刷）常見純一学兄恵存と記載あり pp. 1-18
1265	冊子	西晋の戸調式に関する研究	1		6	「他者学会資料」封筒。河原正博 法政大学 文学部紀要第十号（昭和 39 年年度）抜刷 法政大学文学部 p57-75
1266	冊子	「省地」・「省民」の意味について	1		6	「他者学会資料」封筒。著者 常見純一学兄恵存と記載あり。P325-336
1267	原稿用紙	研究発表レジュメ（於南山大学）	1		6	「他者学会資料」封筒。沖繩漁撈活動における宗教的動機—沖繩本島・国頭村安波の事例
1268	原稿用紙	東北地方親族名称調査「予備調査票」	1			「他者学会資料」封筒。複数枚の用紙をセロテープでつなげている。
1269	原稿用紙	東北地方「親族名称調査」予備調査についての御依頼	1			「他者学会資料」封筒。2 ページ。
1270	原稿用紙	東北地方「親族名称調査」についてのお願いとご説明				「他者学会資料」封筒。
1271	原稿用紙	④封筒 AB	1		6	「他者学会資料」封筒。封筒宛名のメモ
1272	封筒	法政大学学務課調査係宛	1			「他者学会資料」封筒。返信用封筒。
1273	冊子	zur kulturhistorischen strllungdes Mutterrechtes der Tuareg Andreas kronenberg	2		6	P24-P27 Tirage a part-Actes du Ive Congres International des Sciences Antnropolgiques et Ethnologiques, Vienne 1952 Tome III (publie 1956)
1274	冊子	A CHAM COLONYON THE ISLAND OF HAINAN	1		6	Paul K, Benedict, P129-P134
1275	紙	海南島のチャム族の植民地	2			上記 P132 に差し込まれていたもの
1276	冊子	最近における北部タイ山地民族の人類学的調査の成果（動向と展望）—ヤオ族とメオ族を中心にして—	1		6	竹村卓二「人文学報」（都立大学）第九十二号（一九七三）常見純一学兄恵存, P21-P51
1277	冊子	バーリア族の精霊（ゴサイン）と焼畑農耕儀禮—インド未開焼畑農耕民のカミとその供養についての調査報告—	1		6	佐々木高明 立明館大学第二六五号（一九六七年 七月号）抜刷 P477-P984
1278	冊子	季刊人類学第 10 巻第 3 別刷	1	1979 年 9 月	6	松永和人 P36-P70
1279	冊子	葬制と精霊の形成 —与論島の事例—	1	1977 年 6 月	6	「南島史学」第 10 号（一九七七年六月）抜刷 譚呈常見純一先生への記載あり 加藤正孝 P45-P59
1280	冊子	《願》と《精霊》 —与論島の神拝み—	1		6	加藤正孝 譚呈常見純一の記載あり P133-P157
1281	冊子	東恩納寛惇全集 付報 9	1	1981 年 8 月	6	P1-P10
1282	冊子	昭和五十四年度 第八回 南島史学会八重山大会 研究発表要旨	1		6	南島史学会編 南島史学（第十号）別冊付録 P1-P15
1283	冊子	南島史学会第 15 号	1	1980 年 3 月	6	P1-P84 南島史学会（払込通知がはさまっている）
1284	冊子	南島史学会第 19 号	1	1982 年 2 月	6	P1-P76 南島史学会
1285	冊子	南島史学会第 23 号	1	1984 年 4 月	6	P1-P84 南島史学会（払込通知がはさまっている）
1286	冊子	南島史学会第 30 号	1	1987 年 9 月	6	P1-P85 南島史学会（払込通知がはさまっている）
1287	冊子	南島史学会第 32 号	1	1988 年 9 月	6	P1-P50 南島史学会（払込通知がはさまっている）
1288	紙	ある体験から 等	1		6	「淡交」新年号 渡辺欣雄 4 枚 もてなしの人類学（1）～（4）「江戸たてもの園」の封筒
1289	冊子	宗教実践の地域性—ヨーロッパ諸国におけるカトリック教徒の主日ミサ出序調査結果より見たる—	1	1963 年	6	カトリック神学 3 号（別冊）安斎伸 中央出版社発行 P77-P99「江戸たてもの園」の封筒
1290	冊子	宗教実践と社会＝経済的環境	1	1962 年 12 月 31 日発行	6	安斎伸「宗教研究」第一七三号（第三六巻第二号）抜刷 P73-P93（209～229）「江戸たてもの園」の封筒
1291	冊子	Oikounene—文化成長 CuHuureGrowth に関する 考察	1	1958 年 6 月	6	住谷一彦 立教経済研究第十二巻第一号 抜刷 譚呈 村武精一学兄と記載 P227-P254「江戸たてもの園」の封筒
1292	冊子	溝生正男編「現代文化人類学のエッセンス」（ベリかん社）	1	1978 年 7 月 15 日	6	P86-P104「江戸たてもの園」の封筒
1293	冊子	もてなしの人類学	1		6	1～12, 渡辺欣雄「淡交」淡行社発行「江戸たてもの園」の封筒
1294	冊子	中国の博物館	1		6	渡部武 P78-P109
1295	冊子	漢人社会の宗教—シンクレティズム再考—	1	1986 年 6 月 30 日刊	6	渡辺欣雄 敬贈 常見純一様 指正と記載あり「文化人類学」第三号〔特呆：宗教的シンクレティズム〕P117-P130
1296	冊子	唐・宋時代の「平蛮頌」についての一嶺南少数民族漢化過程の一断面—	1	1975 年 3 月 25 日発行		白山史学第十八号抜刷 谷口房男 P27-P52
1297	冊子	ナシ族の龍説話とトンバ教の開祖	1	1988 年 3 月	6	斎藤達次郎 比較文化研究会 比較文化研究 No. 7 別刷 常見純一先生恵存の記載あり 手紙付 P3-P12

1298	冊子	唐末五代宋初湖南地域の民族問題—とくに彭氏の系譜と土家族との関係を中心として—	1	1983 年 3 月	6	東洋研究第七一号 抜刷 岡田宏二 P87-P132
1299	冊子	古代中国の射礼 On the Snooting Ritual of Ancient China	1		6	伊藤清司 民俗学研究第 23 巻第 3 号 別刷 常見学兄の記載あり P185-P202
1300	冊子	Dualism in the Soufnerm RyuKyu	1		6	By SEICHI MURATAKE SONDERDRUCK AUS ARCHIV FÜR VÖLKERKUNDE BANDXIX 1964/1965 常見純一 学兄恵存の記載あり
1301	冊子	北アジア民族学論果 第 3 集	1	1966 年	6	北アジア民俗学研究会 P63-P69
1302	冊子	千葉県民俗緊急調査要項	1	1970 年	6	千葉県教育委員会 P1-P8
1303	冊子	支那の藝術上に現はれたる陰陽鬼想	1		6	「考古学粗説」第二十七巻 第二号 別刷 白鳥庫吉 P31-P38
1304	冊子	ブラホック——チャムとクメールの交渉関係についての野帳から——	1	1967 年 11 月刊	6	近森正 史学第四十巻 第二・三号 抜刷 恵存 常見純一様 筆者の記載あり P213-P239 (375-401)
1305	冊子	上総沿岸のシホフミ	1		6	郷田洋文 P80-P84
1306	冊子	民具について	1		6	日本常民文化研究所編 岡正雄
1307	冊子	村落の祭祀組織と〈ハラ〉の祭祀組織—沖縄南部における事例から—	1		6	比嘉政夫 常見様恵存 P20-P28
1308	冊子	南部仏教の復興	1		6	アジア仏教史 日本編 V『鎌倉仏教 3』抜刷吉田文夫 P167-P220
1309	冊子	南九州の山村社会の構造とその変化—焼畑経営隔絶山村の地理的分析・その二—	1	1964 年 11 月	6	立命館大学 第二三三三号 抜刷 佐々木高明 P1209-P1239
1310	冊子	逸脱行動へのアノミー論の視角—マートン・アノミー論の学術的再解釈—	1	1979 年	6	米川茂信 謹呈常見純一先生の記載あり 犯罪社会学研究 第 4 号 P140-P169
1311	冊子	アルクレッド・クローバー	1			
1312	冊子	東南アジア大陸	1		6	加治明 ボールペン書き「日本民俗学の回顧と展望、1966 所収」
1313	冊子	人類学週刊 香港の民間文化	1	1984 年	6	「豊中市」封筒 香港
1314	冊子	香港—長洲島における竜舟祭の儀礼過程— 予備的報告	1	1985 年 10 月	6	「豊中市」封筒 香港
1315	冊子	日本の親族組織	1		6	解説ページから「川越市立博物館」封筒 他社論文（誤字）
1316	冊子	わが国における焼畑の地域的分布—日本の焼畑の地域的類型に関する研究—	1	1966 年 10 月	6	「川越市立博物館」封筒 他社論文（誤字）
1317	冊子	我が国農村の文化変化に関する一つの覚え書—「文化的遅滞」現象の解釈によせて—	1	1979 年 11 月発行	6	「川越市立博物館」封筒 他社論文（誤字）
1318	冊子	昭和 56 年度 研究年報 第 9 号	1		6	長谷川仏教文化研究所「川越市立博物館」封筒 他社論文（誤字）
1319	冊子	ははの国へ—〈母さん〉〈河川・井泉〉〈おかみさん〉をめぐって— A Study on the Japanese Material kinship from the riewpoint of Formasan ranguages	1	1987 年 11 月 3 日発行	6	「川越市立博物館」封筒 他社論文（誤字）
1320	冊子	昭和 51 年度 研究年報 第 4 号	1		6	長谷川仏教文化研究所「川越市立博物館」封筒 他社論文（誤字）
1321	冊子	山口貞夫—その研究と方法—	1	1979 年	6	瀬川清子・植松明石編「日本民俗学のエッセンス」ベリカン社「川越市立博物館」封筒 他社論文（誤字）
1322	冊子	伝統的水田耕作民の社会組織と土地所有—中心部インドのムンダ族の現地研究（上）—	1	1971 年 3 月	6	
1323	冊子	第 1 次日印合同人類学調査学報告—昭和 41 年度—	1		6	
1324	紙	順天堂大学 南アジア民族調査団 趣意書	1		6	
1325	冊子	BAESSLER-ARCHIV BEITÄGE ZUR VÖLKERKUNDE	1		6	
1326	冊子	Glossary	1		6	
1327	冊子	I.S. GURVICH SOCIAL AND ETHNIC CHANGES IN THE EXTREME NORTH EAST OF ASIA FOR THE RECENT FIFTY YEARS	2		6	
1328	冊子	HEIRATSKLASSEN Eine anglytische Studie	1		6	
1329	紙	THE FLEVENTH PACIFC SCIENCE CONGRESS	1			
1330	紙	FILM SHOW	1		6	
1331	紙	SCHEDULE FOR SYMPOSIUM: NO. 52 PEOPLES OF THE NORTH PACIFIC	1		6	
1332	紙	WEEKEND TOUR & LADIES PROGRAM	1		6	officers of the Elventh Pacific Science Congress の紙あり
1333	冊子	A CATALOGUE OF POST WAR ACQUISITIONS	1	1953 年	5	EXHIBITED IN THE TO YORUNKO (THE ORIENTAL LIBRARY) MAY9, 10, 11 p1-p70
1334	ノート	日記	1		4	マルゴノート「生来日記らしきものは…」
1335	ノート	無題	1			

1336	冊子	日蘭交渉史関係資料目録（主として海外所蔵並に出版文献）	2		1955 年 11 月 1 日		上智大学にて展示 p1-p13（1冊にはメモ書きあり）
1337	冊子	東南アジアの稲作民族文化の総合調査趣意書	1		1957 年 3 月	5	財団法人日本民族学協会 東南アジア稲作民族文化総合調査委員会 p1-p17
1338	冊子	Foreign Laborers in Japan	1		1991 年	5	by Yeshi Wangdi p1-p84
1339	冊子	〔古代絹街道地名表〕	1			5	Reprinted in Tientsin, China, 1941 17 ページ
1340	冊子	蔵書目録＝日本史之部＝上智大学図書館	1			5	33 ページ 上智大学史学会
1341	冊子	上智大学史學會主催キリシタン資料展覧會	1			5	p1-p10 欧文キリシタン研究書（1589-1940 年迄）及新購入古文日本キリシタン文献
1342	冊子	考古人類學刊	1			5	第五期至第八期 中華民國四十四年至四十五年
1343	冊子	The Lists of Publications Received	1			5	The Japanese Society of Ethnology p1-p5
1344	紙	地図のようなもの	5			5	保存状態が悪い
1345	冊子	史学文献略撰 東洋篇	1		1953 年 10 月	5	上智大学史学研究会 p1-p14 保存状態が悪い
1346	冊子	史学文献略撰 西洋篇	1			5	上智大学史学研究会 p1-p24 までは残存 保存状態悪い
1347	紙	参考文献？ 欠落ページ	6			5	上記の欠落か。1 枚大破。ANTHROPOS の目次等
1348	冊子	狩猟バンドから養鹿キャンプへー北東シベリア・チュワチ族における気候変動	1			5	
1349	冊子	北アジア民族学論集 第 4 集	1		1967	5	北アジア民族学研究会 常見様恵存黒田の記載あり p51-p64
1350	冊子	PROCEEDINGS OF THE IXTH INTERNATIONAL CONGRESS FOR THE HISTORY OF RELIGIONS TOKYO AND KYOTO 1958	1		1960	5	MARUZEN p51-p62 62 ページ目 分離
1351	冊子	Taros and Yams as the New Year's Foods	1		1966	5	The Eleventh Pacific Science Congress Toshi Honma Machiko Aoyagi 12 ページ 地図 4 枚 4 枚目分離 恵存常見様 青柳真智子の記載あり
1352	プリント	神葬祭化の要因と神仏関係ー茨城県行方郡における事例ー	1		1967 年 5 月 7 日	5	参考資料 日本民族学会第 6 回研究大会 藤井正雄 5 枚
1353	プリント	高曾祖父大位	2			5	6 ページ
1354	プリント	伊豆新島若郷村社会組織	1			5	p207-p214 (73-80) 民族学研究
1355	プリント	A NOTE ON DESCENT GROUPS IN POLYNESIA	1			5	by PROFESSOR RAYMOND FIRTH F. B. A London School of Economics and Political Science
1356	プリント	RECHTEN OP GROND EN WATER IN DE ONDERAFDEELING BENEDEN-DAJAK	1			5	p402-p415
1357	プリント	BEMOEIENIS VANDE DESA METBEVLOEIINGS WATER	1			5	p441 (440) -p449
1358	冊子	Seals in South-Sahalin-Orok, Gilyak, and Ainu Terminologies	5			5	
1359	紙	第 11 回太平洋学術会議開会式御出席の際のお願い	1			5	
1360	紙	関連資料	1				Robert Austerlitz (Columbia University, New York) p1-p14 図？
1361	紙	SCHEDULE FOR SYMPOSIUM: NO. 52 PEOPLES OF THE NORTH PACIFIC	1				
1362	冊子	THE RELATION OF WAKASHAN TO ESKIMO-ALEUTIAN AND CHUKCHIAN	3			5	by Mauricio Swadesh Universidad Nacional Autónoma de México p1-p11
1363	紙	相模考古研究会巡検資料	4	相模	1970 年 7 月 7 日	7	石器のスケッチ 1 枚 地図 3 枚「考古関係」の封筒の中
1364	紙	玉川遺跡土器拓影	1	相模	1970 年 7 月 7 日	7	「考古関係」の封筒の中
1365	本	後田原遺跡	1	長野		7	岡谷市発掘調査報告書「考古関係」の封筒の中
1366	本	朝日ジャーナル NO. 29	1	日本	1972 年 7 月 21 日		「日本列島改造は何をもたらすか」
1367	紙	ゼミ旅行のメモ等	39	日本	1970 年 10 月～		淑徳の学生によるレポート各種
1368	ノート	調査日誌	1		1972 年 7 月 10 日～16 日	4	※中は白紙…
1369	冊子	学生のレポート	8				
1370	冊子	国頭村安波における門中制度	1			5	常見先生著
1371	冊子	日本民族学会 第 3 回研究大会	1	池袋	1964 年 5 月 30 日～31 日	5	
1372	冊子	東京都立大学 社会人類学研究会 スケジュール	1		1964 年度	5	
1373	冊子	東京都立大学 社会人類学研究会 報	1		1962 年 8 月	5	
1374	冊子	東京都立大学 社会人類学研究会 報 2	2		1962 年～1963 年	5	
1375	紙	メモ書き	2				
1376	冊子	第 11 回日本人類学会 日本民族学協会 連合大会	1	奈良	1956 年 11 月	5	
1377	冊子	日本民族学会第 3 回大会	1	池袋	1964 年 5 月 30 日	5	
1378	冊子	(論文) 日本の婚姻体系	1				蒲生正男氏著
1379	冊子	日本における年令集団組織	1		1958 年 2 月	5	東洋大学紀要
1380	冊子	日本民族学会第 1 回研究大会	1		1962 年 5 月 10 日、11 日	5	明治大学にて
1381	冊子	第 12 回九学会連合大会	1		1958 年	5	東京国立博物館にて
1382	冊子	第 16 回日本人類学会 民族学会～	1		1961 年	5	連合大会 プログラムと抄録
1383	冊子	第 12 回日本人類学会 民族学会～	1		1957 年	5	連合大会 プログラムと抄録
1384	冊子	第 15 回日本人類学会 民族学会～	1		1960 年	5	連合大会 プログラムと抄録

1385	冊子	DORA'S INDIVIDUAL MAGAZINE	1		1971 年 9 月	5	DORA 書院
1386	紙	メモ帳	1		1968 年～	5	英文資料の裏面に多くのメモ書き
1387	冊子	東南アジア史学会会報	1		1974 年 2 月	5	
1388	冊子	(論文) 同族における系譜関係の意味	1		1961 年	5	九州大学九州文化史研究所紀要
1389	冊子	(論文) 日本における年令集団組織の諸類型	1		1958 年	5	東洋大学紀要
1390	冊子	第 4 次 南アジア民族調査隊報告	1		1969 年	5	順天堂大学南アジア民族調査団
1391	冊子	東京都立大学 社会人類学研究会 スケジュール	1		1962 年	5	東京都立大学社会人類学研究会
1392	冊子	社会人類学研究会報	1		1962 年-1963 年		東京都立大学社会人類学研究会
1393	冊子	第 2 次アジア民族調査隊報告	1		1967 年	5	順天堂大学
1394	プリント	長生村史	2	日本		5	長生村一松閣書資料等の封筒。文献のコピー
1395	プリント		2	日本		5	長生村一松閣書資料等の封筒。文献のコピー
1396	プリント	18. 民話	1	日本		5	長生村一松閣書資料等の封筒。インデックス子守うた、わらべ歌、虫、小動物 全 20 ページ
1397	プリント	16. 子供の遊び、生活	1	日本		5	長生村一松閣書資料等の封筒。インデックス 遊び、メンコ、コマ、陣とり、けんか たんやたんや 全 20 ページ
1398	プリント		1	日本		5	長生村一松閣書資料等の封筒。文献のコピー 迷信、ことわざ等の内容、全 10 ページ
1399	プリント	供養	1	日本		5	長生村一松閣書資料等の封筒。全 8 ページ
1400	プリント	農村家庭の一年間の行事	1	日本		5	長生村一松閣書資料等の封筒。インデックス チョッポ、丸坊主 全 16 ページ
1401	プリント	5、食生活	1	日本		5	長生村一松閣書資料等の封筒。インデックス 食べ物、芋の切干 全 26 ページ
1402	プリント	村の中に聞こえた音響	1	日本		5	長生村一松閣書資料等の封筒。インデックス 音響、衣生活 全 18 ページ
1403	プリント	徴兵検査	1	日本		5	長生村一松閣書資料等の封筒。文献のコピー 全 21 ページ
1404	プリント	祇園様の幽霊	1	日本		5	長生村一松閣書資料等の封筒。コピー 全 4 ページ
1405	プリント	長生村風土記	1	日本		5	長生村一松閣書資料等の封筒。インデックス 女の子、こま、しきたり、しつけ、全 16 ページ
1406	プリント	お祭り風景いろいろ (お店その他)	1	日本		5	長生村一松閣書資料等の封筒。コピー お祭り、宗教、信仰等の内容 全 22 ページ
1407	プリント	父と子をつなぐワンパク遊びあとがき	1	日本		5	長生村一松閣書資料等の封筒。コピー 全 6 ページ
1408	プリント	[2] 年中行事	1	日本		5	長生村一松閣書資料等の封筒。コピー 全 12 ページ
1409	紙	東間惣次聞き書きメモ	13	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。東間早苗聞き書き資料 年中行事の封筒。ルーズリーフ 手書き
1410	紙	年中行事と子供聞き書きメモ	14	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。東間早苗聞き書き資料 年中行事の封筒。ルーズリーフ 手書き
1411	紙	調査計画	2	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。東間早苗聞き書き資料 年中行事の封筒
1412	紙	「長生村一松地区における子供の集団生活と遊びについて考える」メモ	1	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。東間早苗聞き書き資料 年中行事の封筒。東間早苗 ルーズリーフ 手書き
1413	紙	参考文献メモ	1	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。東間早苗聞き書き資料 年中行事の封筒。東間早苗 ルーズリーフ 手書き
1414	ノート	あとがき	1	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。常見先生と記入された封筒の中。ブルーのノート
1415	紙	年中行事 (前期) 五味	11	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。常見先生と記入された封筒の中。手書き ホチキス留め
1416	紙	千葉県民俗調査文献目録	2	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。常見先生と記入された封筒の中。手書き ホチキス留め
1417	紙	メモ	23	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。常見先生と記入された封筒の中。手書き
1418	紙	吉野同家 メモ	5	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。常見先生と記入された封筒の中。クリップ留め、手書き
1419	紙	長谷川同家 メモ	5	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。常見先生と記入された封筒の中。手書き
1420	紙	参考文献メモ	2	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。常見先生と記入された封筒の中。手書き
1421	紙	葬制補充調査項目 メモ	2	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。常見先生と記入された封筒の中。手書き ホチキス留め
1422	地図	睦沢村岩井住居図	1	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。常見先生と記入された封筒の中。手書き
1423	地図		1	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。常見先生と記入された封筒の中。
1424	地図	茂原	1	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。常見先生と記入された封筒の中。
1425	地図	岩井略図	1	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。常見先生と記入された封筒の中。手書き
1426	地図	岩井略図トレース	1	日本		9	長生村一松閣書資料等の封筒。常見先生と記入された封筒の中。手書き
1427	写真	モノクロ写真	6			10	雑②封筒。男性が歩いている様子
1428	写真	モノクロ写真	23			10	雑②封筒。陳荊和先生封筒。陳先生が歩いている様子 (?)
1429	ノート	メモ書き	1			4	雑②封筒。南方土俗・東洋文化について

1430	原稿用紙	沖縄における祖先崇拝と親族組織の関係	4 枚	沖縄		9	雑②封筒。下書き
1431	ノート	タイトルなし	1				雑②封筒。めも書き用
1432	冊子	タイ語タイトル読めず	1	タイ		5	雑②封筒。
1433	紙	原稿用紙メモ	5 枚				雑②封筒。
1434	ノート	調査メモ	1				雑②封筒。赤いリングノート「今村豊 島五郎：1935」
1435	ノート	調査メモ	1				雑②封筒。
1436	写真	モノクロ写真	4 枚			10	雑②封筒。岩井大■先生
1437	冊子	「中華古代思想史」	2 部	中国		6	飯田伝一著、茶封筒に封入
1438	ノート	「Memories Histories」	1		1957 年 4 月 3 日～	4	雑③封筒
1439	ノート	史記西南夷列傳	1	中国		4	常見先生メモ
1440	ノート	チベット語	1	チベット		4	雑④
1441	ノート	タイトルなし不明（台北のこと）	1	台北？			雑④。メモ書き
1442	ノート	百夷館來文ノート	1	中国		4	雑④。漢文訳など
1443	ノート	西南夷研究資料	1	中国		4	雑④。地図
1444	ノート	マプチ	1			4	処々に押し花が挟まっている。取り扱い注意。
1445	ノート	Memories historiques	1			4	雑④
1446	冊子	西南中国民族史の研究	1			6	他者論文抜刷。南語関係論文。藤沢義美著。
1447	冊子	歴史教育十五・六合併号	1	日本		6	他者論文抜刷。南語関係論文。
1448	冊子	南語王権の確立と対吐蕃関係	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。藤沢義美著
1449	冊子	大理国の城についての一考察	1			6	他者論文抜刷。南語関係論文。牧野修二著
1450	冊子	南詔国の成立と吐蕃との関係	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。藤沢義美著
1451	冊子	南詔国の支配階層について	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。藤沢義美著
1452	冊子	南詔の民族系統と哀牢伝説について	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。藤沢義美著
1453	冊子	唐代入雲路の史的考察	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。藤沢義美著
1454	冊子	古代東南アジアの文化交流	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。藤沢義美著
1455	冊子	ビルマ雲南ルートと東西文化交流	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。藤沢義美著
1456	冊子	新中国における雲南史研究の動向	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。藤沢義美著 東洋學報 第四拾三卷第二號抜刷
1457	冊子	南詔の官制	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。牧野修二著
1458	冊子	唐朝雲南経営の目的について	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。藤沢義美著
1459	冊子	元朝征緬■に見えたるシャン族の動向	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。白鳥芳郎著
1460	冊子	ビルマ国号考	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。伊藤隆夫著
1461	冊子	父子連名制と■氏の系譜	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。白鳥芳郎著
1462	冊子	南詔国における段氏の地位	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。牧野修二著
1463	冊子	唐朝雲南経営史の研究	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。藤沢義美著
1464	冊子	唐朝雲南経営史の研究 其三	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。藤沢義美著
1465	冊子	唐朝雲南経営の内容と目的	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。藤沢義美著
1466	紙	南詔王の年表	2 枚	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。629 年～755 年
1467	冊子	唐朝雲南経営史の研究 其二	1	中国		6	他者論文抜刷。南語関係論文。藤沢義美著
1468	冊子	船橋市域の風邪・咳の神様	1	日本		6	他者論文抜刷。南語関係論文。綿貫啓一著
1469	冊子	音楽学習 5 研究	1	日本		6	他者論文抜刷。南語関係論文。
1470	本	あ・えむ・で	1	日本	1980 年	6	他者論文抜刷。南語関係論文。演劇論研究 6
1471	紙	書評・竹村卓二氏	1			6	他者論文抜刷。南語関係論文。何かの本の抜すいか。
1472	紙	屋久町の民俗Ⅱ	1		1989 年 3 月	6	他者論文抜刷。南語関係論文。屋久町民俗文化財調査 報告書（3）
1473	本	中国大陸古文化研究一ナシ族一	1		1987 年	6	他者論文抜刷。南語関係論文。中国大陸古文化研究会
1474	冊子	香港の氏族・宗親団体	1	香港		6	他者論文抜刷。南語関係論文。吉原和男著
1475	冊子	香港の潮州人社会 その 1	1		1982 年 1 月	6	他者論文抜刷。南語関係論文。吉原和男著
1476	冊子	中国大陸古文化研究 第一集	1	中国	1965 年	6	他者論文抜刷。中国大陸古文化研究会。
1477	冊子	中国大陸古文化研究 第二集	1	中国	1965 年	6	他者論文抜刷。中国大陸古文化研究会。
1478	冊子	中国大陸古文化研究 第三集	1	中国	1965 年	6	他者論文抜刷。中国大陸古文化研究会。
1479	冊子	伊予・佐田岬の漁労	1	愛媛		6	他者論文抜刷。小川博著
1480	冊子	下北半島尻労の漁撈	1			6	他者論文抜刷。小川博著。杉山莊平著
1481	冊子	佐渡における漁業の展開	1	新潟		6	他者論文抜刷。小川博著
1482	冊子	相模民族学会「民俗」	6	相模		6	他者論文抜刷。52・53・55・58・60・64 号
1483	冊子	岡山民俗田児島湾の漁区民俗覚書	1	岡山	1960 年 8 月	6	他者論文抜刷。小川博・原三正著
1484	紙	東書高校通信地理	1	日本	1965 年 1 月	6	他者論文抜刷。片桐達夫・小川博氏
1485	冊子	伊予の御崎の旅	1	愛媛		6	他者論文抜刷。小川博氏
1486	冊子	蒲庭調査報告書	1	福島		6	他者論文抜刷。早稲田大学人類学会
1487	冊子	筒石調査報告書	1	福島	1965 年	6	他者論文抜刷。早稲田大学人類学会
1488	冊子	岩船調査報告書	1	千葉	1962 年	6	他者論文抜刷。早稲田大学人類学会
1489	冊子	仲木調査中間報告書	1	静岡	1963 年	6	他者論文抜刷。早稲田大学人類学会
1490	紙	メモ	6 枚				ルーズリーフに
1491	冊子	市原市史別巻コピー	1	市原市		5	第 3 章市原市の民俗
1492	本	成人大学講座「自然と人間」	1	千葉	1986 年	6	君津市君津中央公民館
1493	本	千葉県民俗資料緊急調査記入例	1	千葉		6	千葉県教育委員会
1494	紙	民俗調査項目コピー	1	千葉	1965 年 9 月	6	上智大学史学研究会
1495	冊子	ちばの博物館	5	千葉	1986 年～1987 年	6	42・43・45・46・47 号
1496	冊子	おおとね	1	千葉	1980 年	6	千葉県立大利根博物館報
1497	紙	長柄町地図	1	千葉		10	
1498	紙	東浪見村 地図	1	千葉		10	
1499	紙	調査メモ	1	千葉			漁村に関するメモか
1500	紙	社会関係調査	36	千葉	1959 年	8	東京都立大学/千葉県館山市伊戸。
1501	冊子	習志野市市勢要覧	1	千葉	1980 年	6	
1502	紙	沖縄県国頭郡調査資料	70	沖縄	1989 年		
1503	紙	千葉県夷隅郡御宿町地図	6	千葉		10	
1504	紙	調査区地図	1	千葉			

1505	紙	押日地区	5	千葉		10	
1506	紙	陸沢村平面図	7	千葉		10	
1507	紙	東浪見枇杷畑区調査項目	1	千葉		6	
1508	紙	長生村全図	6	千葉	1969 年	10	長生村平面図封筒
1509	紙	旭市全図	1	千葉	1969 年		長生村平面図封筒
1510	紙	昭和 40 年国勢調査	4	千葉	1965 年	6	世帯名簿
1511	本	季刊『Panoramic mag.』	1	日本	1983 年	6	定価 580 円、ボーラ発行
1512	冊子	浦安町誌 上	1	千葉	1971 年	6	コピー。昭和 46 年度個人研究費
1513	冊子	陸沢村民俗調査項目	1	千葉	1963 年～1966 年	5	民俗調査項目（原本）上智・史学研究会。コピー。村組織・年中行事など
1514	冊子	陸沢村民俗調査項目	1	千葉	1963 年～1966 年	5	民俗調査項目（原本）上智・史学研究会。手書きのもの。↑はワープロうちしたものか。
1515	紙	陸沢村民俗調査項目の一部分	3	千葉	1963 年～1966 年	5	民俗調査項目（原本）上智・史学研究会。↑の落丁分か？
1516	紙	市原市史編集委員会通達	1	千葉	1978 年 3 月 16 日	9	市原市調査。コピー
1517	紙	年中行事担当調査メモ	2	千葉			市原市調査。
1518	紙	原稿用紙	4	千葉			市原市調査。目次の下書き？
1519	紙	長柄町地図他	4	千葉			市原市調査。地図・住宅図詳細など
1520	紙	ドーグ関係図メモ	2	千葉			市原市調査。
1521	紙	文献コピー	5	千葉			市原市調査。民族研究参考資料か
1522	冊子	原稿用紙コピー	1	千葉			市原市調査。ホチキス留め、結婚、出産について
1523	冊子	原稿用紙コピー	1	千葉			市原市調査。年中行事について
1524	冊子	原稿用紙コピー	1	千葉			市原市調査。村組織について
1525	冊子	原稿用紙コピー	1	千葉			市原市調査。死生観について
1526	紙	世帯一覧表	1	千葉			市原市調査。
1527	冊子	原稿用紙コピー	1	千葉			市原市調査。通過儀礼について
1528	冊子	原稿用紙コピー	1	千葉			市原市調査。村組織について
1529	冊子	原稿用紙コピー	1	千葉			市原市調査。班制度について
1530	冊子	原稿用紙コピー	1	千葉			市原市調査。年中行事について
1531	冊子	原稿用紙コピー	1	千葉			市原市調査。班制度について
1532	紙	披露宴御席	1	千葉			市原市調査。B1 サイズの紙に新郎・新婦との続柄など
1533	紙	御香殿帳	9	千葉			市原市調査。
1534	紙	メモ	4	千葉			市原市調査。
1535	紙	市原くらしの行事コピー	1	千葉			市原市調査。
1536	紙	原稿用紙コピー	1	千葉			市原市調査。八日講メンバー一覧
1537	紙	調査メモ	5	千葉			市原市調査。
1538	紙	原稿用紙	1	千葉			市原市調査。「市原の民俗」
1539	冊子	学生レポート	1	千葉	1977 年	4	市原市調査。社会調査実習 昭和 52 年 11 月 7 日～12 日
1540	紙	市原市地図	1	千葉		10	市原市調査。
1541	紙	学生レポート	1	千葉			市原市調査。市原市の民俗調査を見学して
1542	紙	原稿用紙	1	千葉			市原市調査。市原市の海保中郷について
1543	紙	調査メモ	1	千葉			市原市調査。中郷 年中行事
1544	紙	学生レポート	1	ラオス			市原市調査。東南アジアの少数民族について
1545	紙	調査メモ	1	千葉			市原市調査。金郷 年中行事
1546	紙	調査メモ	1	千葉			市原市調査。年中行事 金郷他において
1547	紙	調査メモ	5	千葉			市原市調査。聞き取り調査時の記録か
1548	紙	調査メモ	1	千葉			市原市調査。聞き取り調査時の記録か。4 枚
1549	紙	調査メモ	1	千葉			市原市調査。聞き取り調査時の記録か。4 枚
1550	紙	原稿用紙	1	千葉			市原市調査。聞き取り調査時の記録か。19 枚
1551	紙	原稿用紙	1	千葉	1977 年 11 月 11 日		市原市調査。聞き取り調査時の記録か。15 枚
1552	紙	茂原市地図	8	千葉		10	
1553	紙	太東地区生業調査	5	千葉		10	水田の情態・農具の種類など
1554	紙	一宮町地図	8	千葉	1968 年 11 月	10	
1555	紙	調査メモ	8	千葉		9	銚子封筒。教育委員会名簿他
1556	紙	トレース地図（銚子）	1	千葉		9	銚子封筒。トレーシングペーパーに鉛筆書きの地図
1557	紙	調査メモ（コピー）	24	千葉		9	銚子封筒。枇杷畑について？
1558	冊子	「ちょうなん」（長南町勢要覧）	1	千葉	1969	6	長南封筒。千葉県長勢郡長南町。
1559	本	社会科指導資料集	1	千葉	1969	6	長南封筒。長南町教育委員会。
1560	紙	「ちょうなん」（長南町勢要覧）	1	千葉	1966	6	長南封筒。千葉県長生郡長南町
1561	紙	調査メモ	4	千葉			漁村地域の調査
1562	紙	原稿用紙	4	千葉			
1563	紙	上智大学史学研究会民族班調査報告	3	千葉	1965 年		コピー
1564	紙	出産に関する聞き取り	1	千葉			11 枚ホチキス留め、コピー
1565	紙	調査メモ	8	千葉			原稿用紙やルーズリーフなどに
1566	紙	民俗調査聞きとり資料	24	千葉			老人会、婦人学級などについて
1567	紙	原稿用紙	23	千葉			
1568	紙	大村区・枇杷畑区	1	千葉			10 枚ホチキス留め、漁業関連
1569	紙	長生郡東浪見村権現前（？）	1	千葉	1970		5 枚ホチキス留め、コピー
1570	紙	年中行事について	1	千葉			15 枚ホチキス留め、コピー
1571	紙	年中行事について	1	千葉			14 枚ホチキス留め、コピー
1572	紙	通婚について	1	千葉			5 枚ホチキス留め、コピー
1573	紙	宗派について（？）	1	千葉			7 枚バラバラ、コピー
1574	紙	村の運営について	1	千葉			5 枚バラバラ、コピー
1575	紙	親族名称について	1	千葉			4 枚バラバラ、コピー
1576	紙	年中行事について	1	千葉			6 枚ホチキス留め、コピー
1577	紙	年中行事について	1	千葉			14 枚ホチキス留め、コピー
1578	紙	民族班活動計画	1	千葉			コピー
1579	紙	調査メモ	1	千葉			
1580	紙	原稿用紙	1	千葉			9 枚ホチキス留め
1581	紙	船の名称について	1	千葉			3 枚ホチキス留め

1582	紙	葬送儀礼について	1	千葉			25 枚ホチキス留め、コピー
1583	紙	枇杷畑部落について	1	千葉			11 枚ホチキス留め、コピー
1584	紙	年中行事について	1	千葉			13 枚ホチキス留め、コピー
1585	紙	船の命名について	1	千葉		9	4 枚ホチキス留め、コピー
1586	紙	漁業について	1	千葉			5 枚ホチキス留め、コピー
1587	紙	調査メモ	1	千葉			3 枚
1588	紙	村のルール等について	1	千葉			16 枚バラバラ・コピー
1589	紙	年中行事について	3	千葉			15 枚・15 枚、10 枚セット
1590	紙	調査メモ	1	千葉			
1591	紙	反省会の進行について	1	千葉			8 枚 バラバラ
1592	紙	総合調査評議会議題	1	千葉	1967 年		5 枚、10 ページ
1593	紙	調査メモ	1	千葉			6 枚
1594	ノート	伊豆半島文化財調査	2	千葉	1957 年		
1595	紙	一宮地図	3	千葉	1969 年		
1596	紙	葬制に関する帳面	1	千葉	1909 年	10	古文書のようなもの。
1597	紙	世帯帳簿	2	千葉	1965 年		国勢調査
1598	紙	学生レポート（？）	1	千葉			ルーズリーフ・参考文献等
1599	紙	学生レポート（？）	1	千葉			ルーズリーフ・参考文献等
1600	紙	学生レポート（？）	1	千葉			ルーズリーフ・参考文献等
1601	紙	獅子舞唄	1	山梨			山梨県北部留郡丹波山村 丹協 4 枚ホチキス（1 枚破れ）
1602	ノート	利島雑記の 2	1	伊豆		4	昭和 32 年度北部伊豆諸島文化財総合調査、民俗 A 班 社会構造 ツネミ
1603	紙	行動記録	1	伊豆	1957 年	10	12 枚 32 年 7 月 14 日～32 年 7 月 25 日分
1604	紙	調査メモ	1	伊豆			26 枚 バラバラ
1605	原稿用紙	四、年令集団に就いて	1	利島		8	7 枚 紙サイズバラバラ クリップ留め
1606	原稿用紙	四の（イ）の（2）新島の子守	1	新島		8	3 枚 バラバラ
1607	原稿用紙	四の（ロ）の（1）利島の若者組	1	利島		8	4 枚 クリップ留め
1608	原稿用紙	四の（ロ）の（2）新島若郷の若者宿	1	新島		8	2 枚 クリップ留め
1609	原稿用紙	親族名称について 原稿下書き	1				10 枚 クリップ留め
1610	写真	白黒写真	1				舟、山、川（海？）
1611	冊子	北部伊豆諸島文化財総合調査実施要項	1	伊豆	1957 年 昭和 32 年		東京都教育委員会、民俗 A 班社会構造 常見 p8
1612	紙	北部伊豆諸島文化財総合調査連絡機関一覧	1	伊豆			上記冊子にはさまっていた
1613	紙	調査メモ	1	伊豆			9 枚 紙サイズ、種類バラバラ
1614	冊子	神津島村概観	1	神津島村	1957 年		昭和三十二年五月編 p1-p52
1615	ノート	皿ヶ関（ねずみがせき）調査ノート（大川谷部落）	1	大川谷部落		4	
1616	紙	調査メモ	1	大川谷部落			ノートにはさみ込み 2 枚
1617	はがき	暑中見舞	1		1965 年		テラーオオイシより ノートにはさみこみ
1618	ノート	《津軽党書》	1	津軽	1989 年 7 月 30 日～8 月 8 日	4	1 ページ破れ 津軽調査ノート封筒内
1619	紙	弘前パンフレット	1	弘前			
1620	紙	原稿下書きなど	1	伊豆新島		8	原稿用紙・メモなど 28 枚「伊豆新島 党書」封筒
1621	原稿用紙	I のムラの沿革	1			8	3 枚クリップ留め
1622	原稿用紙	下書き	2			8	タイトル不明
1623	原稿用紙	下書き	1			8	3 枚 タイトル不明
1624	原稿用紙	図説日本文化史大系 I	1			8	（小学館—1956）一部書き写しか
1625	原稿用紙	下書き	1			8	9 枚バラバラ
1626	原稿用紙	下書き（仮 1～仮 5）	1			8	5 枚クリップ留め
1627	原稿用紙	身分階層制一本戸と半戸	1	若郷村落		8	11 枚クリップ留め
1628	原稿用紙	II 地域組織と漁業組織	1	若郷村落		8	14 枚クリップ留め
1629	原稿用紙	下書き	1			8	6 枚バラバラ
1630	原稿用紙	下書き（仮 7）	1			8	3 枚クリップ留め
1631	原稿用紙	下書き（仮 13）	1			8	1 枚
1632	原稿用紙	下書き	1			8	3 枚バラバラ
1633	原稿用紙	■帯の統計	1			8	2 枚クリップ留め
1634	原稿用紙	下書き	1			8	2 枚バラバラ
1635	原稿用紙	下書き	1			8	7 枚 2 枚クリップ留め
1636	原稿用紙	下書き	1			8	15 枚 p11-p26 クリップ留め
1637	原稿用紙	下書き	1			8	13 枚 切れ端 3 枚クリップ留め
1638	原稿用紙	下書き	1			8	7 枚クリップ留め
1639	原稿用紙	下書き	1			8	2 枚バラバラ
1640	原稿用紙	下書き	1			8	3 枚クリップ留め
1641	原稿用紙	I 身分階層制一本戸と半戸	1			8	12 枚クリップ留め
1642	原稿用紙	IV 家族 隠居 親族	1			8	9 枚クリップ留め
1643	原稿用紙	隠居制家族	1			8	18 枚クリップ留め
1644	原稿用紙	婚姻	1			8	21 枚クリップ留め
1645	原稿用紙	婚姻と隠居	1			8	31 枚 バラバラ（1-31）
1646	原稿用紙	女の古代年齢階層	1			8	20 枚 クリップ留め
1647	原稿用紙	男の古代年齢階層	1			8	7 枚 クリップ留め
1648	原稿用紙	II 地域組織と漁業組織	1			8	12 枚クリップ留め
1649	原稿用紙	V 婚姻	1			8	3 枚クリップ留め
1650	原稿用紙	ムラ人の一生	1			8	5 枚クリップ留め
1651	紙	調査メモ	2			8	エビシゴ ハカシマチ
1652	原稿用紙	下書き	1			8	6 枚バラバラ
1653	地図	香港地図	16	香港	1976 年	筒 1	2 万分の 1
1654	地図	香港地図	16	香港	1977 年	筒 2	2 万分の 1 + 英字版？ 3 枚

Acceptance and Arrangement of Items Collected by Late Prof. TSUNEMI Junnichi

IHARA Ruri

In December 2018, Nanzan University Museum of Anthropology was asked by Urayasu City Folk Museum to accept some research sources and items collected by late Prof. TSUNEMI Junnichi. Our museum possesses and exhibits items from Thailand's mountain tribal groups which had been collected by Sophia University's Research Party of History and Culture of Northwest Thailand, carried out three times between 1969 and 1974. Prof. TSUNEMI joined the second research project. In 1992 he also gave a lecture at Nanzan University Anthropological Institute. From such circumstances, the museum decided to accept Prof. TSUNEMI's sources and items. They include real items such as a suit of clothes from the Thailand's mountain people Iu Mien, and also more than 1600 books and scripts, photos and tapes of fieldworks carried out in and out of the country by Prof. TSUNEMI. We listed up all of them and moved paper sources into neutral paper boxes for reservation. Many sources are in bad condition, so we are continuing to organize our work in order that the sources could be used for further studies.

2021 年 1 月 25 日 印刷

2021 年 2 月 1 日 発行

南山大学人類学博物館紀要 第 39 号

編集・発行人 南山大学人類学博物館

466-8673 名古屋市昭和区山里町 18

Phone 052(832)3147 (直通)

印刷 株式会社クイックス

456-0004 名古屋市熱田区桜田町 19-20

Phone 052(871)9190